

慶長以來

新刀辨疑 五冊

藤原魚妙藏版

新刀辨疑序

器取諸用器而不利則不供用古者聖王
賞元利器用以爵命貴不亦重乎物久
則衰衰也弊從之器之務觀美弊之令
然也元於利用刀劍為甚昆吾伊瀨姑
舍無論西土所稱其剛而利者莫日本
刀之如矣近世務觀美龜文縵理以眩
人目者滔々皆是也夫出室霜飛發硯

龍躍一擊不容再擊不割則造出於將
耶與鉛刀奚擇九峯田君以元胤子
孟玉有猶父之義於余來往甚親諸元
生平之言也東方刀匠數百千人人研
其精戶鍊元剛不問龍文不論星彩要
歸諸吹毛而已相之相元利鈍也為讎
者斬於彼為凶於此為吉刀於我何凶
禍之有故於刀取能斷割者論匠則貴

其巧之堪斷割此書也分匠戶為七等
亦以堪斷割定品目云金有品黃白供
寶至利而剛者唯有鍊而已若夫鍛冶
和溶黃金則無益於斷割而徒傷財矣
余甚怪焉觀美之弊一何至乎此哉今
此書符於平素之言故余序一言君
之志而書中不及者
安永丁酉中秋十一日書於城東鎗冶坊

之僑居

四明井潛



序二

新刃辨疑序

文神劔の始と遠く尋る小洲國のどし伊集野伊集丹の
二尊天の浮橋の上よままのひて天の瓊膏とこり下りて滄海と
探り給ひし其牙の清り凝り集りて島と成りたりて
例くと生るとはひ天への國と号し又天己貴の尊の細文
子足るのふと名つけ給ひし昔より令氣万邦を勝て十握八握の
神劔なり葦雲の夜劔素戔鳴乎八俣の大蛇平らけぬひし時
其尾きりぬひしまのりて神劔のみ少し欠けぬのりたる
みの欠ぬんと尋取給ひて天照大神奉らぬぬひしと
是れも劔と相すぬ始とやひし其むし雲此寶劔の神彗の

三の内ありし神の代々の代々國護をも終り神衰なり事申中く
思多きもたせぬ人皇第十代崇神天皇の御宇に事りて神衰と
いへ可なりし事終りしをいひて蘇我の衰ぬと
天の目一箇社の高孫大和國守院郡の人天國をいひし事あり
損さし然たすし神の代より傳りしむすの衰ぬと天照大神
御さるひりの景行天皇の御宇日本武尊東征の時伊勢入事
年拜の序沛伯母日本姫命の時の齋行の宮ありし故むしり
衰ぬと大社宮よりし事終りし其衰ぬ事終りて日本武
尊の御代は終りて尾張の國熱田の宮ありし事終りし
日本武尊東征終りて尾張の國熱田の宮ありし事終りし

初させありて神の代々今も事りて神の體常磐なりし事
して百代の後すし國の衛家の護り所の事りし事ありし事
そぬしお後の衰ぬの崇神天皇の御宇に事りし事ありし事
くこの衰ぬる天國の守院郡大和國守院郡の人天國をいひし事
按るは數百載の後していへん事ありし事ありし事ありし事
天國も大和國守院郡とありし事ありし天の目一箇社の高孫代々
先祖の業と傳りて天の一字と傳りて後の衰ぬ造りし人も天國を
いひし事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし事
記す事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし事
世ありし事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし事

かりしあれ大尋知の途もれ一夫固て尚非真末代の上也
宗也安相實守門平栗田口の吉光因吉其後三宗義がかりて世
許の其外京鎌倉大和備前四くの上相ふともあし鎌倉の
末の立序入道三宗家業の志厚して諸回と廻り銀治の
勝方と鑑考し一記留し書ありし紐相の中真光のいさ
入道三宗及四郎真宗又紐相の事と傳ふ真宗九所三郎秋廣
尔傳秋廣亦藤末の傳亦及守都宮三行入道亦傳三行入道は
東山殿の比の人也世人も命せしれ紐の價と定むるの事も
始すれるとて守都宮末下美守傳木下又亦藤末京進も傳ふ
亦益三好下野守(付)しとて三好善長も及み本阿弥の

先祖を尋るは足利の代の始と紐磨事と業とを尋る妙本阿弥
陀佛といひのりなり兼て紐相の精しく其名世もいさし
たり又四代の孫清信といひ者又祖の業と真光し入道し
本光といひしより光の字を用ひ事亦成しとて亦流世も紐の
可否價の貴賤賤きとも定む事亦成ぬを世目利の書と題せり
もの口には多くも道々くくして又いひのれ一も世の末
以来のおも新口と号しては府神田勝久新口記及六卷を著し
難波の數輩は其後集とせしより近き世も古き代のりも立
みも取らる者ありしと云まじり誠にも集の如傳ありといひ予
仕年の比より紐相と友に遊みり志のく新口の勝方

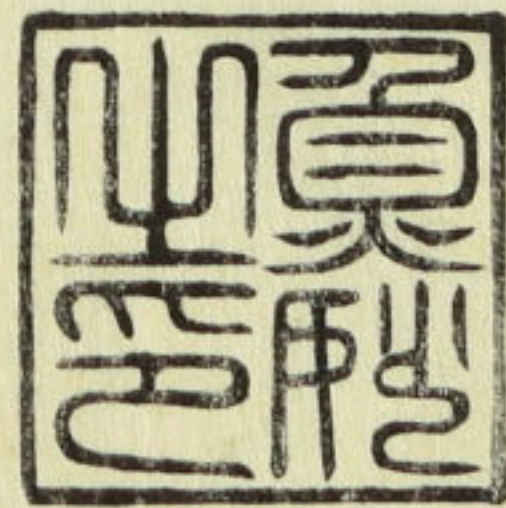
利純と云ひては、夫よりあるは、後述ありあされ、是より
 ありたり、その度、重して、後し、事と記して、新刀の年、数、五、卷と
 あり、あり、あり、事、私、定、入、の、事、あり、あり、古、刀、の
 書に、倣て、一、志、の、事、情、省、と、事、求、る、人、の、事、と、又、書、字、と
 あり、ある、事、と

安永六曆

川越家士

歳次丁酉仲種

鍛田三郎太夫藤原魚妙



序三

目録

卷一

辨疑或問 鍛略記
 肥前鍛冶略系 薩摩鍛冶略系

埋忠國廣等略系

卷二

新刀上々作 上作
 上ノ中作 上ノ下作

卷三

中ノ上作 中ノ中作
 中ノ下作 新刀附録

卷四

上々作上作 劔相略

卷五

ヤキハ鑑 忠押形 上々作 上作
 附録忠押形 上ノ中作 上ノ下作

一 偽作見板板箇条別傳

一 刃利鈍見板板箇条別傳

一 應用捨別傳

一 刃肉見板別傳

一 真言劔論別傳

右の五箇條小は劔と相の要とするより、こぼれ後集に於て妻より書小著とさへ初人の迷ひと成るるより又多し敢て惜之秘する小河より乞求るあり幸ありし。

或回

○或回ていふ白袴子享保の末小新刀の落之六巻と著しお續て後集亦より九巻又長のはより享保とけし治の猪骨の兵急す一独れた中心の形を不否と漏する所又そ至所よりざるの教上下の形と分ると也たわぶ又け書も假令下化よりも悉く中心の押形出すべし也

○嘗て云先板後集小を弄ひ下化して諸人賞賛ありありのとも落中心の及ぶけ眼のさへけいありしと見えゆれと其功と迷せんとしてやうつゝあやまらるるもの多し爰小い世人の賞讃ありて偽物多く世人の迷ひ

多にふのを扱ふおすりの也候筆力の及ばざる所あり
彫刻のあままりと又みづー直偽一交の切志不似すべー
竹巻の書と書へみふーて眼力いふ小思付人のゆゑとを
○或回て云世小叔相の目利といふ言とへ大小交也おるを
相目利同云といふ

○若て云叔相目利た小双の徳と為る也世小の病難福祿
書夫等と叔の長短ふよりて吉凶と止めー又の逢是れ(西)
のこれ双引てく之のやままりて細くやじは交ままりて
おどやり成りぬきといふくまへく引て吉凶言也と
いふゆ大小也凡叔の徳の意深くをくり知ふとわづらひ

大意の下の合氣令く倣りて且およくまれば其位目早ー
かゝる人も我も吉叔上化と交定の所と探ひ求て重意す
まと求る小の或みづゝ試み或人として試しさしむ予がひ
叔相の試と俟すーてそのよく切を知り磨と俟すーて
決の乾る潤へると知る世小叔を相するといふ所のそりし所
目下かゞび或の寸尺といひて吉凶と云ー或は双のやうと云
者凶と云す或一通りうちえて双のやい不本小を疵の
と云ふ小を拘らばーて福祿書夫病難以下といふく巧言
するもけ根の小な小利と合算り人心と違すの志ーまかり
ふわらしん人止齒又をへさふとわづらばー又目利と唱ふる

中あそ古おとりてわそぶのえとせとすのえもて令気の
別業とせとせの只工匠の名の古今ふ傳ふる下とせう海す
軍もあそり皆く是といひがこりるべさう源の濃仲
若奴と求給りしそんと月ひられ試うきしお物能く
切りのこの業ふもあそりさるへ一奴はまろ重宝也戯少れの
笑あわらさる所すし〜眼とつけて奴と入るる未熟の
出せのそく人なるべさく人よりて撰ひ用ぶさる也故ふ云相と
目利の異名曰えとあるべし

○或回て云白於子新刀ふを月ある切也切も著す所の
書よハ解系慶席徹堀川の困廣肥前忠吉丸字右字の包保

等の教業とと信とす大坂の後集ふ津田助廣と新刀の
冠とせり又を比ハ藤列の正法安代と寂上りとりふ
人も又あ〜志段と大坂の正宗といふ人もあはるを今
助廣とせり〜志段のそはふ〜て困廣の又〜を次〜
出せ〜大坂の後集ふのふふを〜

○善ていふ白於子の新刀銘盡ハ海内と求せらく集ふ
いふ〜後集ハそふ〜て廣か〜ねふ〜
そ〜支那のち〜をかりて考へ競合気の令く伎り地鉄の
志すりよ〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜
おゆ〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜
おゆ〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

うらうらととく他と定めたり困廣忠吉希徹繁慶等
古他小も和すると他よりといへば田助廣希有の上も
於て小勝るるといふのこ

○或回井と和泉と國貞老後の他と去改と号は然るに
困欠價さかぬ概ふふは去改の別は價貴一助廣も
後小を清流の報するとを賣とす向し人の造れる銀
路の末後と拘るるゆゑ不審老後小の功も至れぬといふ
○善ていふ井と和泉と和泉と又楷書の助廣たは壮年
小して造れる故地鉄の派ままりて老後の他より小
方也唯其乃具よりと論は下は壮年老後小よりての

猶芳のさりとる一とさかいつも小ても是不准す下

○或回郵刀鉄を去改とふる小猜れて上と出する小
さのこ宜かぬぬる大群の他と割ふも又下とありを
猜れてお來のよたおも多しは交次を定むといふも
是又も益ありのこは清人の迷ひ小も成(こ)

○善て云は論も一といふ一は先板去改の力と後積年
考る所の多しといひて後極るの上と他と極むる中
小も取引ひかたはねのりのもをさし下他の中より
とれたるのよ載(さ)おもさし去あつとさくくの二
三川と取らばして七川八川の多しとありて位と極る也

○又同井と云ふ改へ大坂にして宗として相別正宗法一
なるに似る所有小や只大坂の其下の上正心志をいふ小や
○昔ていふ改へ派はななるやま小えのえり成又宗正宗の
のち成お成放志のいふある一

○又同法正宗小似る云改と才とすは事あるよ
却ら助廣の改は成きし方いし

○昔ていふ派はな改へて白ひの派の魂也故小白ひ派
先ふて派と改とす也を自利者流の派の昔意を
作の言下と定ぬ正宗へ古今派の名人派の派へり
白ひも至て派く派は名も記上工也るとまんとて

外又桑田口吉光國吉等伎術の友成長光以下の
派治の越えと委くせすたとへ派はなの派の火小候まで
沸く方派の心也白ひへ火ふる不及のわやまらあて
派の精神全く使つるまらり顯せしる金氣の本然
令けあの水川て劔の魂なり故白ひの派より大なる
なる派ゆり也凡新刀の派治較百家をといへ助廣ら
かく派のままり能くぬの上よりく白ひ派くうと云ふ
白く小小えあし小えも白ひとがへいふも相派く地派別は
桑かして火か滅至極の正とゆふる名人也派あり其
白ひ派を扱す切る方一夫和者吉及河内吉國助等の

出来りの石堂の一家伝承の類也白ひあたり乃お切一
くろの骨てあたる也松た泥かたと白ひの支障のこころで
令彼せると上の化といふ一故白ひ正堂の栗田傳傳お徳
兼そ乃各人小て各答志万りの也お小えの志あいろくも
栗田口おお別支二人義弘実志をさ比岡の和泉もさ定
扱ひ其改正清安代忠重等の扱又の也困廣明善忠吉
繁慶等の扱ハ光り為く一てお一うのみさり助廣席激
助忠小このと光りいふ一といは白ひ凍さぬいさみ
ろり正清安代以下薩別おの小えの光りみさうといは
扱ふらうと為一扱鏡也一扱小はうと扱の附有り

扱をた是ハ鉄鏡まで火肌をりて小え光り為くよこ
見え能く知るりの也扱白ひ小といろくわりオ一
うさやろ小白く扱凍く一てやれぬと地鉄のまのり
さまやろく分りて扱方多く虹のこころむらあれたと
昔と今江戸法城寺の一類又和泉も兼重大和書安定
安倫岩城の困虎ホの白ひの深一といは危悪く一や一
又おちくと世あり一方可なる白ひの粒のや一と扱也
扱地鉄ハ肌わらハぬハ好一う治を故わらとあハ根之の
扱ハハ肌あり一扱治の流く小たりて扱目極目監扱也
織と扱厚ん扱よりの地鉄と細員よわくまで染く治之

くぬ也。教百輩の後自然に眼目顕るる持徳ありとも
是之同くく地ろひの透回あきたるの時こそこのく
わらばりしれくわより肌物は造りきるに治の
んもこのむくのみもいさくといふ事候いつくも肌へ
藏の煉も合さるより取らるとんてをくるいさ又女を
肌まりのに粒交互からぬ事也

○或回て云治は聞りし小元祿の比以来に流玉の洗す
出す洗の性多と追て互からにま故むくのふくくふ
か来たるくさといふたもさるいさく

答て云藏の出入石列出^{ツク}播列の^ま葉同^ち草と^く用ひ

そ後の南蛮洗とて阿蘭陀人の持渡る本の葉形葉は人の形
洗と云造りるもさる又の卸し洗川で造れりもさる
いつく洗も昔小いおとるく一治も洗も昔のよとの
くく小いわらるく一むくくも下もさる今もよとの
もあれいも葉もくもさる小せの洗の得方と云くも也
いんとあれの當時薩摩よよ良安在安明元平治方ホ
造る洗の當時の洗あるむく一の洗あるいつくも當時の
治のくく小ての真と云えくく手按るよ子葉出^ふ完^ま葉の
洗のくくよれ物を精く搦て火加減もくと用ひお櫃も
治のくくと知くく力量河くとえらひあ火の度洗

ねよくせへると上他のお来さるものも火氣力さるを
わ〜と見えりえりもの至て堅く割れと探ひて
洗よりりの出さるうちよくとまるへるものと勘弁
して造れると煎治の大事ともいふは湯かけといは
て実の火かけのり也織の裏より煎治の裏と知る
○或曰府も乃具の求へるはと白粒子の府の見極委く
出せりまよりそよくふも府も乃具の忌言とせり
を此比小なりては少一の府も忌言とせりといふ

○答て云 煎治の効と思ふは洗も容易の業よあは
又切と志るはぬれぬか〜下切て切先の内換ええんを

府の小きても様子はよりてあるか〜煎治の効と志るは
押て接へる底のゆ〜用へる也押ておけさる事とて小
府小て乃具のより小なるをいゆ〜て用へる也庵下
洗ぬ小刀小を多分小麻のあるもの也洗の〜は洗は洗
おさるべき乃具の洗ゆす〜小麻の味より煎治の要る
下をより〜穿流の度津也煎丸のりのおらるといふも
多〜是又一層の端也甲伏本ま〜すま〜り丸とて
きといふ〜の中は丸煎といふとす〜を洗下
見ゆ又も田のちるち〜る大は灸の〜也も田はか〜は
おる乃具の見かけ安か〜へ〜おさる料とて後牙古端

の洪とかいふ子として訂本は月の中洪と今もあすし
 又夫より志安は黄金と加造るといふ版治をいふを考へ
 又るは地洪といふ子小せしめはへ一前小もいふく
 古作の自然より出する肌之をいふを好て礼物造るの上
 黄金と加造るの意味掛さるのま一は小あつてや春秋
 六の卷僖公十八年の傳小鄭伯始朝于楚中國無霸故楚子賜之
 金既而悔之與之盟曰無以鑄兵楚金利故故以鑄三鐘古者以銅爲兵
言楚無霸者注小金の銅鐵のたうひと也兵は勝り兵を造る也 洞冥記の
遠略 黄帝首山の洞と採て始て勝て刀とすとを洞の刀
 き利とるにへは小あつてされは日本の洞と吳邦の洞とい

言楚無霸者
遠略

注小金の銅鐵のたうひと也兵は勝り兵を造る也
兵をいふは刀の銅鐵のたうひと也

洞冥記の

劉棻利純同一かゝる方一既小雲南の地方洞と出まると
 かいふといは日本の洞と加へるは洞の利とまると也
 去りた他邦の洞は造りて刀洞小を造りて人と利の小
 利の中の小を利とある小又の金といひ洞といひてもた小鐵の
 ことうを造りては是本の小本つきて黄金と加るるの小
 加へるは百金子金といひて造るまといふの説より一は
 金のかの熱名也金といふ字小拘りて黄金ありと云はては
 大小遠よりそれいふも古の版治天國以下宗亦小
 製り又新刀の助廣以下を又造るまといふと云ふ黄金と
 加へ造れるるの事とて史記南時黄金と加へ造れる

源治等たの上工等小敏(三)小と何るまらるる必せり黄令の
黄令の利何り織の利何るまらるる必せり黄令の
起てりゆの堅固小して強きゆと指て令れとい也紐の
令れ氣の表おふてつよた小飽るまらるる一放小織の
すられて割ぎと撰ひ用ひてすあるゆ知ぬ一扱良織と
撰てみ令れも地令れも同一織と乏かゆ用ひ紐の度扱と
地令れ令れに同一度扱小紐方とめて造ると九派と
いふあり又地扱と八派ひとあそふす放中つみて
造るとまらるといふたとまらるとに紐たあまら度扱
遠へむる令れ等りの也又峯の方よりも包むと

甲伏といふ也扱焼めとまらるる小一面小やまらるる
やまらの撰扱と欲するわくそと落一地令れの方へ去を
残一並かたてあふらるる古の残るまらるる紐の力を放也
放小麻のみの中より地令れの中の府と吐味す(三)のあふ
地の中心小免すぬの府小放とてゆらと一とお遠也
五府の及具の帯放也源令れ今を麻小ても後くハ
取寄府もあ(三)も也又取れ出たる麻も隠す御も
いろくも巧者小わ(三)れへえまけか(三)扱又極彫扱を
及具と紐の令れ解の欠るる(三)あれ小底の及具ハ
用ひて必用と違(三)一

○或曰云他の美仍と撰ひて正美ゆと用ゆるの
勿論なりたよく似せりなりたを及真水火の功程を
して女のふよ叶ひ一はきのと美仍の正よと正屋くも
わらうらうら既に美仍としてとめ真宗小極と正家と
極め極一をとするゆゑなりといひ正美の上他と撰ひ
ゆすは仍他の正さと求りてき器と消て指料さうら
宜かすやきう美仍と論する時二且いさうさ成人の正に
仍おと成らるるとは子裁の後ましく埋きん半山豈
歎うさうしや

○善云つらととが仍おき要のゆつらととが交ふるつらととが仍といふつらととが正は角といふ

通して人の才小なりてハ獸の角小記して人の角也又牙也
自石先世の軍芸考小曰裁の敷敷の郡古ハ角麻敷といひとつらといふ
つらといふ角といふ海一て獸の角の尖とある小たとてつらといふ角一と也
志うれ人の才よりせらる如記の重也才の及三正ハん
月ひよりく撰て且試誰くの造ねる仍小て切ハ極也と
自得してふは一点の疑あきたといふある強敵鬼神よりた
け仍とて降伏す一と一変する程の乃具小あらすんハ才を
ちの美とハのひかさうらゆは是正派治の名のふありみて
仍の魂ひあれたりの又仍お小もなる一と他の正美小て
よれた仍とゆるゆ成かてハ外に價の貴かす方仍の中小
撰ひたハさりのたに記す

仍他の美秘ハ今つらととがのゆら小ハあは
世夫の尚用といふのこ也

江戸法橋寺一教同石堂一教大和守安定安倫加賀陀羅尼
 兼若兼卷法光曰列初代兼光同二代目信濃大掾忠國
 利國勢別陸奥也歲長尾列自廣貞廣氏善濃列照門
 吉門陸奥也兼也近江守法宣依中書法宣陸奥守兼信
 大和守康道信列小郎助宗伊賀住鎮改法弘法知法忠播列
 令重同初代氏重津田國重右化宗宗上依兼換出祐定
 兼後二代七之清尉祐定大和太掾祐定依中水田一教安藤住
 則房播磨也輝廣細度長門國二王一類筑前國住守次
 是次利次實次安吉叔信玉の重宗吉包吉貞重包筑後
 國住吉國鬼塚の吉國也 豐前國小倉住改平豐後國友系之國重行

義行統行貞行國行豐政行長國隆同國森住 肥前國住兼平
 吉廣吉信正廣廣次行廣代々 宗次宗安薩摩國安國正則
 國次正近秀貞忠重同人 國平國貞正房越前兼定繼平代初
 國清山城守也 重高山城國金道伊賀守初代 同二代目久道近江守初代 同二代目
 正俊越中守初代 同二代目同三代目吉道京丹波守尊皇代 阿波守在吉國路出羽代々
 信吉信濃守藤原 金道三條堀川住 國義高井豐後守 義國三條堀川 則國平安城住 長吉同上
 弘幸同上 國時同上 大和國住國武包國越中入道紀元同人 攝津國住國平
 貞次真改弟子 貞則同上 國康中河内弟也 同二代目助包上野守後和列 國重池田鬼神丸
 輝政陸奥守後豫列 清信足田 助廣初代 助高津田 助宗同上 廣政若校守
 吉道丹波守三代目 兼道丹波守初代 同二代目後八 吉行大和守吉道弟子士列 吉國同上

兼光

三品 但馬守

包貞

越前守 初代

忠細

栗田 初代

正細

忠細 弟

長細

上二 同

忠行

康廣

大坂 石堂

同二代目

紀列ニモ 住セシ也

為康

陸奥守ト号 康廣ノ子

康永

河内守 上ニ同

康細

紀列ニモ 任ス

長幸

康永 弟

信吉

高井 越前守

包宗

上野守 菅原

兼増

播磨守

包道

伊賀守

國維

宗重

常陸守

同二代目貞廣

高榊

祐國

花房

弘包

國幸

則廣

丹羽 相模守

元道

山城國 任人

右小記す所困く以才混雜

是等價貴かゝはといはれり多き他人たり
太の中を位望かゝるる多しといはれり世上の
賞就薄く実又おすく切き位も又い中かゝぬ物
多し撥て指料と為へき也支取上他下他小を拘ら
價早して求安きと教百の中より別記して清人小

使くすり也は等のかも然るべき他くもれ方と為へ
いづも位のき下は拘らば功者の人を尋又他化とかり
中の上化と又申り多し是又仍るる路と削て
佩刀とすべし 是ホハぬおの隠徳

○或曰て云世と考ら指上の新刀と忌さうさゆみりて
せの忠と考資す路張りてそれくの化と知るほど
ありしはすり揚るた忌べさあらざるべし

○若て云路の張るる具の造もる人分明小して
さの忌と考らゆみりあらば去あら路と忠も令く
して神も論する所あらふはたより極又子才の量小

恣せずなど云て懐り又たをとりとをどすんもの千然も
他なる圃の資を私のみふすりと又の重さとして半方
母方より研さ落しなどして及具の令辨と損ずるの
識は天下の罪人也併のまり切先をなれまどせし
格好社さね小並はまどのゆいりかすまど懐り小
すりとり半の懐びさの才一也世とそ人の量又令よべさ
及具のいりもあうてゐるの欠びさ小あらば先祖より
傳りしる及具まどの材又我量又合すんば子孫小を
量又度する人よ来ぬべし我えよ似せて良と誦と換する
のゆちくもべうら

○或同て云を世上た小刀ぬの形辨又他物多し見と
巧む罪至て大也仍物と禁ずる及もまどさ小や
○昔て云教ていつをわろの及まどさいをいれいりまどらば
御小利と見とく人と送り一飛と天よはて子孫ながく
志あしるもの付さる悪人火と見とく才とと七は虫よ
かとい一識よかちしむよとたう
○或同誦おと好む人ま他のねよりの價の早かしくん
りて求まぬ府まど下料小求まとしてま府と重程のま腹と
巧てま料小して他のまへはすのね及あうさるもの人
是下のおまどえてま好下より今いあく成り人もまん

両相者といひ目利者といひ馬商人小等三人世多
是下の名もそ類の人小混合せんと欲くのと

○若て云我國の神の教の正と云ふといつてもいはいは
聖人釈氏の教といへたお同一けこの教のわづらも求む
両おかぎらびづきの伎てもいつてもと教ずして道を
失ふ人の同トかすべし武の求は武聖の才知らずんば
五べり又尋求る人小不すんの信あり故小不もい
しとく人のくも人小両おと教べしといふ當勉の意
事と云はれして両お小泥の失いもべし信べこの才
初学の人ゆらせすべし

或曰彩刀と譯す小肌物の刃の形を賞せしといへた古作小
伯列安細則重波平月山の類を小肌と用て名を
派治多し物まの肌物と忌嫌ふに謂れり又似たり
損益如何

若云安細則重ホ名記の板目小して地鉄小弱さの刃先さるハ
名人故敵地肌の名を云ふのこ小のわらびの合能まじり小えも
骨皮自ひう記すは磁へハ虹の青赤有ること又又わらび
かくしていら小毛物保く識又上作を名むる一かし
この也波平月山類の肌物ま外圍く肌物派治多しといへた
とく先より巧ま肌物小打りハ名人の爲業小て格別

を世の源治其且小源ひて夕へ小代ありきどたるもの小
机お源ふり人を違へり小利小なりとの假令名人の
源ひし机おあり其机お小源ふりして造れる源治の中
小はわらざるへり然くは主御のまはる源治の机ありて地鉄
と能く志めて造れることありまなりりれ假令ありの
机あり其目小きざる夜の机の鉄の練合ざる小して一解
源の弱りと名へり地鉄の中へ替くの弱小源へき物を入
造るを忌へり播別の実桑鉄へ石別の出時鉄を加へきと
て鉄の足して机を足せるまといへりかざるへり一を比へ
ばく鉄湯釜を小燒焼才才の古鉄源源の古鉄源源を源治の心く小加へ

源小志しきハ黄金を加へて造るまといへり小まを源へり
源治の志下せるのこ小をわらひ源の志むる人の下せるも
源へきり也武月小違すへき源源するの次才源治の
をけみ源の志むる人の心は小も源へきと源治保則として
予う源治の志と源へき試る小代首の上代小ハ及ハ此といへり
地鉄細小志まりて源治く小佛白ひ有て源へき源源せり
源治の志と源の志むる人の心は小も源へきと源治保則として
予う源治の志と源へき試る小代首の上代小ハ及ハ此といへり
地鉄細小志まりて源治く小佛白ひ有て源へき源源せり
源治の志と源の志むる人の心は小も源へきと源治保則として
予う源治の志と源へき試る小代首の上代小ハ及ハ此といへり
地鉄細小志まりて源治く小佛白ひ有て源へき源源せり
源治の志と源の志むる人の心は小も源へきと源治保則として
予う源治の志と源へき試る小代首の上代小ハ及ハ此といへり
地鉄細小志まりて源治く小佛白ひ有て源へき源源せり

源治保則といへり其の東武神田小位し武列神田位保則を源
明和九辰の火災小なりて居るを山下法門外へはす予き

を以て安永三の暮お倉一して扱おのりすし、扱おのり
及ふ予りの爪と月の中るあへて予む人小随う
多くハ肌物と扱ふ予志をくま可君を説ふ一後世
ま名傳ふるのり小及ふ保則は説小伏一して兵粟搦列の地々也
織の上糸と扱ひ炭の上糸細微のりのをりて荒く扱ひるを
用也扱火を改ててはしつふあをばけてこの先へ扱小扱ふ一三粒洗を十々度さみしつとせ
扱後並へ一まううされハ扱ひの防もたもこの防もはてこの先へ
扱小扱は洗と扱てまうう扱てこの先の洗かハ交る也更扱てこの先の洗の扱ハおろそかれハ
害つろくを扱てこあへて一扱扱一自中あうる扱扱扱扱也力量をかりてこふはばまみて扱ふ也
扱織と一塊炭火とさかふ一して焼て扱小て扱ひつゝあ是と選一こいあう
てこの先へ扱平りつゝ織と火さあると小扱を合せて凡に二百目
尺積りては角六面小扱るや一小扱重さうこりるや一小恩量一

かまの焼て扱ふとそくかまとは山城園橋新並又ハ保平山の砂あはれと
あつみて焼くあま一してとりとあつて解て
さうまとい扱
かけて火ま合扱炭と火床へ多く盛りて素篇を強くまひ火を盛
小して焼也は防の火かりハ扱治の分量の取也
火加減とわんくして扱出也是と小扱といふ小扱はて出て
素炭と予は並ては方へすくす扱一して又炭を纏て火又入焼也
大又か一ハわく小ておと包みてまうハ彩小大か一ハ炭を纏扱はすこの木炭のりあつ小
つれて織のやけるをわくのちかり小てとめる也小まか一の扱ふ合火の際と去れ小く
包てて火のちかうとかりて合の功を散然するの御在中小去とめて火を合小温固
あつまむの料あり去と合のり小付てハ云大半の玄味をさう也
是と大扱といふ也は火かりハ扱
ままといかり能さ扱小取出して扱ひの扱ふと
扱小取並一して先の方と織床小て実出ち又扱小取並一しては方
扱返しハ扱ふお扱あ二人か
扱者とさうさ一火氣の退きて扱ひて扱小て扱小
切目と入丸木とニツ小まりあつとそれと洗の扱小まめし
たつひ小てそれとあれさる扱小扱織と中々切也切目よりま二つ小

切目の裏の方へ折返してぬき去るのけ熾のうらひをひきあぐりて

火丸の形を焼くぬき去るのけ小漉として取出熾のうらひをひきあぐりて炭灰とする包みまきしる

熾の炭の本をふつれてぬき去るのけ大漉して漉す熾のうらひをひきあぐりて茶のこ包みまきしる

切目を入れて折返し漉すぬき去るのけ茶のこ包みまきしる如け

一度の横へ一度の壁う折返し十五度漉すぬき去るのけ十五度の折目

三万斗子七百六拾八枚を敷け板を二倍してぬき去るのけ

九斗にすね九寸ぬき去るのけ一斗に九斗にすね九寸ぬき去るのけ幅三寸折目ぬき去るのけ一斗に九斗にすね九寸ぬき去るのけ板を伸すぬき去るのけ

別く小袋め又一つは合て板の姿小造るとたを補との板地熾小

丸めしと斗子の先へ折返して板の平に小少しぬき去るのけみちを引きて

糸を巻いてぬき去るのけ炭の細微とすりて結三炭を多く

して板火床へうこうさるやう小居を並べて炭と上へつきて

藁簾と強く巻ひて火とさうぬき去るのけ小少し板を敷いて地合

双合とすつと板付をすり又ぬき去るのけ大漉取出し

炭灰とするこぬき去るのけと漉合せて地合双合と打合せぬき去るのけ

九斗合双合とぬき去るのけ上ケマぬき去るのけとして二度とすり漉すぬき去るのけ

まより伸漉してぬき去るのけやまぬき去るのけて伸又やまぬき去るのけ焼て伸る也ぬき去るのけ

伸し巾八分斗厚にぬき去るのけ九斗足量ぬき去るのけて双方の角を切りぬき板

筋の角を平ぬき去るのけて熱幅九寸斗ぬき去るのけ板を敷いて板の姿とす

降の形も造り立てて板を水ぬき去るのけしてぬきし水抄とする針を折ぬき去るのけ

少一室焼てハ水と榎つけて也

此の少小て焚く寸尺小伸る也少少の
織と細英小せんうゝあありの少小て

焚くままりてうるほひも少也彩織元武貫口五百目取るとは九十度の漉ひ小たる
同方垂りてけたまひの地令ひ合ひ合ひて九六百粒小取へ一寸尺の長短幅かき小の
好小てある織の積まる也二派取ても小刀の足取へ一半時ハ別てお榎の功者
又派取ても小刀ハ足取へ一半時ハ別てお榎の功者

あると月日へ一板取ある時派治一人の小榎でも又お榎も手付也

板目板目の少小まかり半まかり甲伏小の仕方付けたまひの仕様の事也を地織ハ積く
加へ遠くゆきとハ大小令ハ良化織小あるすハいれるゆのゆを派取小粒粗とハ大
いう小略せるもハ度七度ハ良化
派を派取て月日あるしますり寸尺姿ときをあて洗小てむらく

割りて焼みの古と陰也

山椒園拾遺山原草の古と陰と云ふは
林よりちうくさうふして月日焼みの古家傳の大き也

欲する下の木の板板と竹の登り小て双方の古と落す古のあはれ

木と初り古の附て有下ハ地織小張る也

けりやうの少小張りて
むらい大き小一あるり

小てを世小ハ古風と考ひらること一丁子札と大きとすり小取久の雷派取て
又るへ一出付古と令との合不合のゆ古の厚さを考へるかけ小あるさるゆの

考へや也りやり出来て去るとす一て地取一面小張一かけ取のと去るの
むらかりやり小すへ一取去小ハ加入のゆのま流小よりて六の一さり令く去小て
まりたりぬへさるやもと後す 此のありを取りての考えを後傳小及江三の
りゆのせに 切三重もかきひてよくことも亦も備くして

七八分小たくへ並て火を取け時の炭ハ大きあると小きにの粉うさるやり小大炭をり
換ひて火のこく小火床へ入て洗る付あるやけるやり小火取の考要也ハ火をれハ
織小かき出てるゆ也を考へるハ佛つくらして織弱一火加りんと思考一て
本火去令るの功天理人事一致一て叙取能す其徳偉哉

廻えより津まてうらかりてむらく焼くと亦またく並る
あま入る 冬日小ハ火をと考へるまをるゆ也
ゆりくらしハまま火かりるやり 母の大成ハ織小神刀のからる取

あま入るの也とより取とまの十五枚派取と号以及のことハ
火小てあいと一てそうとりどい也たとひ及ひることハ
又味の苦煎ハけあい小て利派の苦別をり也忠のり先

洗小て割時格好く造りてやもと後てやり
けやりのあま
あまと考へる

目と立てまうくとすく 目と立てまうくとすく 右にたす。急病。志。助遠。まうり。か。い。り。く。

ま家傳の世く小のこれらりのいけやまうりとひて見取のつと

せりゆるりせますへうりし護小て忠形傳来の如く指まう

目打の穴と舞雅小てあける 右ハ目貫也
今ハ目打也 銘と切りて成勢

平たりひあして廣く候まう。細たりひ小て細く候まう。勝落小すりまう。運たりひ限り
たりひ小て。目まう。こす。派治もあちりくとをるまのたひまう。候くしてつとけく
まらま。文字の肩とり。かこまう。つらくの 白子に新刀の打卸すり能く

切ると論せしるあり又後集小ハ嶽と形ハの術ハま家小

あうそれの委しかりしと按小刃とおするや刃と派ハ造れるの

術小くしかりしとた生事と知す人のまへかりしは射り人

弓の製作とまうり醫の藥製とまうりまうり如く候へ一候小合氣の

令まをらまぬ劔おまうりかりしは為派治の業を詳ま

記て同好初人の人ままよりす 必しハ派治最くの傳小て大同小異
まうり示しよを必とすま小ハありし

ままの人命あて刃と相り時ハ刃を清取て衣をとり礼をあて

小刀柄并と接て麻子又ハ紙の上ハのせを柄と
糸巾小て包み澤のま人ままのまへまら候 扱刃と接て指表組え小澤へ

見とまうりまうり候へ候て扱小取止してすうり見る すうり見る
白いと効る

ま峰を記て地令小令の派ハの精粗孰麗と察し一沸の甲乙

白の儀候ハの撞板の音を考へ底の有無を記へ

ま人見ハ何くの候也といふと定て我見し一取とまの派治の

かひひこまの思量してまの候まうりハ忠を記んとをへ

ま派治の身歴候ま忠の令辨組下とだま候候候下ま

主他の多しを考下し偽作と巧りのなき偽りとなすり不
 為故未熟して見分けかた偽物多し初人の人み不審
 何しハ功者へ譲るへ一功積りてハ忠く不見ハ忠く真偽
 分明也を偽物の見取く何りといハ初人の惑いより
 志しかりしものとあはれてや之收積功の外ハ書小意と
 盡さるといハ危きなり

一 刃の磨ハ刃の利鈍ハ其の繫系ハ刃の磨師の上より考りて悉くも実意あるを撰て
 其價を考えよばせしてとすハ此也價のすくあはすとすこのことしてつとあは
 せ此係小但せ又ハ心の不安ある者へ但す付ハ大ハ刃の利と考也砥の刃才を
 法の如くするハ上作の令かりて一刃を磨ハ十余の目数ありてハ初人の
 刃と一と目数の察度研を考へて下料小と斗ハ研の才を暗する
 のハ小何しハ火小してあつて地合者研を考へて迷小と研ハ又ハ砥の刃才を
 大小暗く考へて初人の人とのあはむ惑するより多し又ハ代ハ研の才を
 考へて砥の刃才を暗するといハ初人の人とのあはむ惑するより多し又ハ代ハ研の才を
 研言するともあるをいすハ刃物の下料小てとすハ初人の人とのあはむ惑するより多し
 大小刃の事とがしするなり

一 刃肉の厚は又上上の磨師小研ハ研の才を考へ初人の精神とかり小失也
 板のこくに刃肉の厚さよりハ研の才を考へて損多ハ刃の丸さハ研の才を
 考へてとすれ小研ハ研の才を考へて損多ハ刃の丸さハ研の才を考へて
 刃合の方より考へて丸く研るもの研されよハ研也初功者小便るへ

新刀磨次才略記

一 コレノイ

京大坂小てりあり、碓氷の山、伊予の山、
打あらしのあり、押又の山、伊予の山、
豊後國の山、伊予の山、

一 神子濱

おれへの碓目と名出す、碓氷の上、月小ハ
おれへの碓目と名出す、碓氷の上、月小ハ
あり、おれへの碓目と名出す、碓氷の上、月小ハ

一 ウナカミ

京大坂の碓目と名出す、碓氷の上、月小ハ
おれへの碓目と名出す、碓氷の上、月小ハ
あり、おれへの碓目と名出す、碓氷の上、月小ハ

一 常夏寺

みこのと名出す、碓氷の上、月小ハ
おれへの碓目と名出す、碓氷の上、月小ハ
あり、おれへの碓目と名出す、碓氷の上、月小ハ

一 名倉

志保の山、碓氷の山、伊予の山、
おれへの碓目と名出す、碓氷の上、月小ハ
あり、おれへの碓目と名出す、碓氷の上、月小ハ

一 枇杷碓

碓氷の山、碓氷の山、伊予の山、
おれへの碓目と名出す、碓氷の上、月小ハ
あり、おれへの碓目と名出す、碓氷の上、月小ハ

一 淡黄

合せ碓氷の山、碓氷の山、伊予の山、
おれへの碓目と名出す、碓氷の上、月小ハ
あり、おれへの碓目と名出す、碓氷の上、月小ハ

一 打曇

碓氷の山、碓氷の山、伊予の山、
おれへの碓目と名出す、碓氷の上、月小ハ
あり、おれへの碓目と名出す、碓氷の上、月小ハ

一 上川

碓氷の山、碓氷の山、伊予の山、
おれへの碓目と名出す、碓氷の上、月小ハ
あり、おれへの碓目と名出す、碓氷の上、月小ハ

一 鷲碓

碓氷の山、碓氷の山、伊予の山、
おれへの碓目と名出す、碓氷の上、月小ハ
あり、おれへの碓目と名出す、碓氷の上、月小ハ

赤風の新刀の荒押、下碓地と名出す、碓氷の上、月小ハ
おれへの碓目と名出す、碓氷の上、月小ハ
あり、おれへの碓目と名出す、碓氷の上、月小ハ

三条小鍛治宗近系圖

橘宗近

又、從四位下播磨守橘仲遠と云宗近
初、仲宗と云信濃大掾小住す法興院
兼家公小仕官す

吉家

大和掾小仕、
上東門院小奉仕

吉輔

右兵衛尉
上小目

仲義

常刀と預る五

義近

山城外

義利

山城大目

利重

九京亮

重道

右衛門尉後道と云、
入道忠實公小奉仕す

重家

關白忠道公小奉仕

家義

龍口と預る、
上小目、
近重、
兵庫外、
上小目

重遠

宮内と号し、
稻荷社梅宮と預

重仲

度次郎後兵庫外、
富小路御所奉仕

重定

後宇多院衛士、
右衛門

重昭

度次郎、
六波羅任

重光

宮内と号し、
六波羅任

重正

伊織後度次郎足利將軍、
源義詮公小奉仕

重義

度次郎、
義と吉小改義滿公、
依余鋸多く鍛造す

重宗

度之進、
義持公義教公奉仕、
刀鋸多く鍛造

重近

度次郎、
義教公奉仕

重久

度次郎、
義政公義尚公奉仕

三十二 宗重 彦九衛門尉之号以
義植公義澄公奉仕
三十三 重之 彦右衛門尉
義澄公奉仕
三十四 重隆 彦次郎
義昭公義輝公
義昭公信長公奉仕

宗近ヨリ
二十五代
○重吉 明壽彦次郎之号以足利義昭公
豊臣秀吉公秀次公奉仕堀川國廣
肥前忠吉大坂國貞國助等師也
家隆 彦次郎之号以法橋明真之改劔力鈿の
銘ハ重義と云り

三十七 重長 彦右衛門之号
三十八 宗之 彦九衛門尉
三十九 宗茂 彦九衛門尉
四十 重幸 彦九衛門
上小同

三十一 重榮 信濃後頼母之改
上小同
三十二 良久 梅忠權九衛門
當時の人也

右之通河々々小字ノ内ハ小刀忠之号ニ序ヨ
右邊にハ中ハ以ト
宗近ヨリ三十三代
明壽ヨリ八代
梅忠權九衛門
梅良久

安永六丁酉六月

明壽國廣國貞國助等系圖

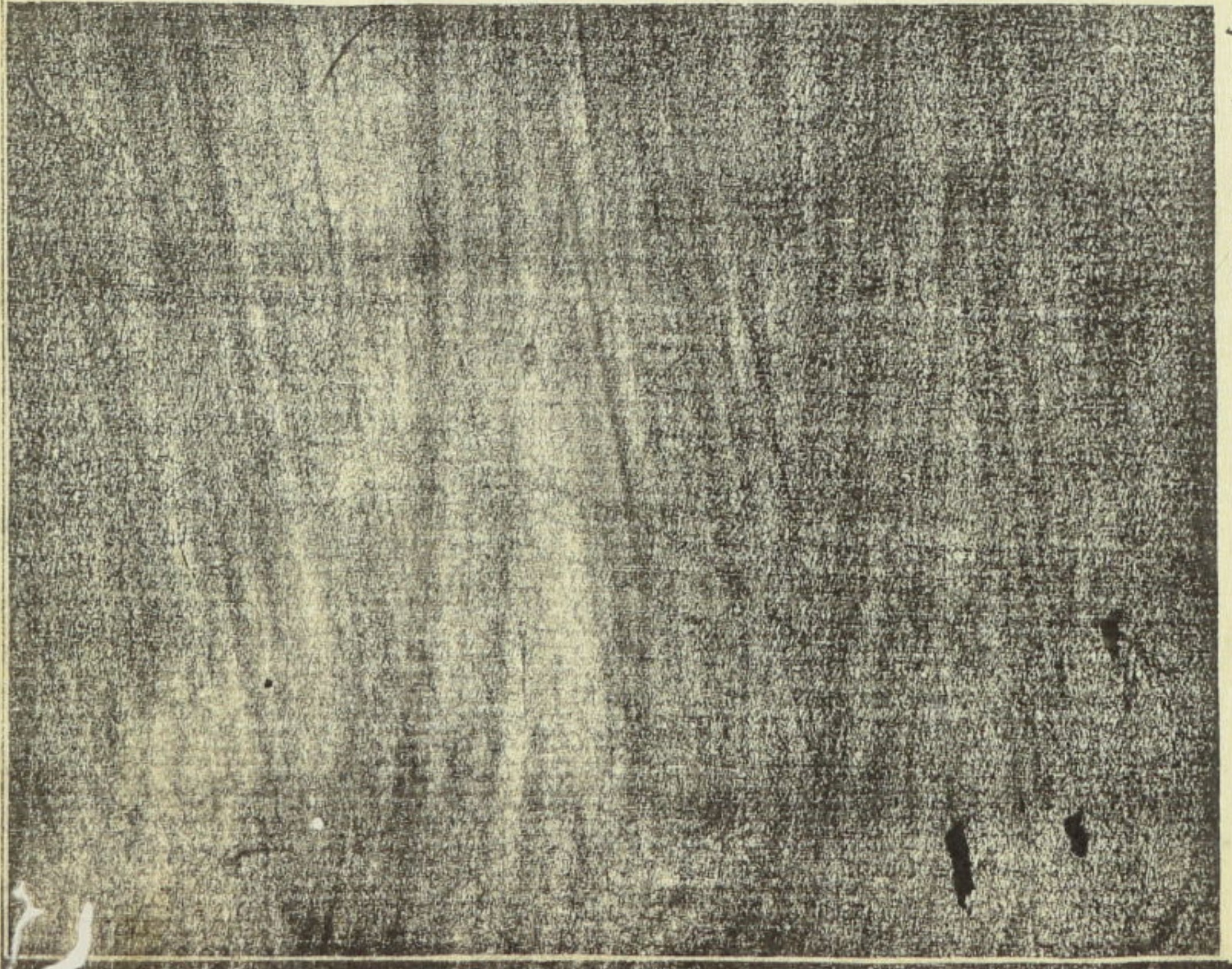
明壽 三条小鍛冶宗近裔孫埋忠之祖
平安城西陳住重吉也秀吉公
居所之地ヲ四條室町ヲ給
慶長以來新鍛冶之祖也

忠吉 肥前國住人橋本新九衛門尉
是忠吉ノ祖ニテ別ニ系有

國廣 洛陽一條堀川住信濃守
藤原國廣末ノ末ニテ
埋忠之門人トナシ

國安 國廣の才と云ふものや丸の
國改と同人あるも不知

國改 右國安
初ノ號
正弘 大隅守世ハ
國改ヨリ云



國貞

和泉守養正國貞於大坂
造之也亦曰人也國廣
才子小て真改也又也
入名して乃和と号以
越後守養正國傳也子孫
か一平安藏任也國廣
才小て理忠才ふり
阿波守在吉國廣才子
小て系於小住す

真改

二井上和泉守國貞
乃号あり

國貞

真改子國貞
号次子孫目列
飯肥小あり

國儔

在吉

國平

井上真改才子
後八日向國入下る

國義

國平子和田彈正忠源國義後ハ
和泉守とも切也

國富

井上真改才子日向國
住人也於大坂打乃女
右小月一下総守小住
伴之也と号以

真信

井上真改才子但馬守橋真信と号以
上も也世小希あり

國義

振列任養正國貞と切
真改才子中下り

真次

伊賀守真次と号以飯本加賀守真則
才小て真改才子也云云徳と号以

貞國

國助

國廣才子小て大坂の初代也中河内肥後守國康武藏守國次伊勢守國輝等又
振列任助廣と号也

國次

中河内才子小て國康
兄也才養と号切

國助

小林河内守國助世ハ
中河内と称すハこれ也

國康

初代の三男肥後と
号して上り也

國輝

小林伊勢守養正の以八年之進と號す國英
切りたる初代國助と号也

國康

肥後守の二代目後ハ
和泉小住也

國助

三代目の河内守と子ありと國輝と号以て
子と号り故小國輝と國助と親也世の流也

助重

中河内才子出羽守
助信と号と号

輝政

伊勢守國輝才子小て
陸奥守と号り後振列
松山へ下り和泉大掾と切

國義

河内才子振列任
係國義と号り後ハ
佐和子と矢根に繪
長刀の上り也

國重

中河内才子他田鬼神丸振列任と切り多
後ハ與列振名城へ下向す

國隆

豊後國赤松山播磨守也中河内才子小て
久留後の振治と号也

助包

振列任助包持名と号り後上野守養正助包と号り
郡山加多家の振治と号り大和守國貞と切也

助信

中河内才子出羽守助信と号り矢根の上り

助廣

初代國助の子にて抄別住藤原助廣と切
後ハ越前守と交似す世小なりと云は是也

助直

本國ハ近江國野洲郡
高木邑孫大夫と号し
津田助廣妹御と云
正宗貞家傳小切
仍て江別と本と切

助廣

二代目甚之進也初ハ越前守助廣とまりて又ハ孫小
よハ似たりと云はる也是より近傍ヤウの孫
かハナリ實父中ナリハ孫楷書あり

廣政

津田助廣の子子若狭守源廣政
とまり源廣政と斗りもナリ

助政

鈴木大和守助政と切
佐淡國の位人あり

助宗

右内膳抄別住助宗と打後ハ依後
福山ハ下向す

助高

右助宗の子子小津田助廣の子也
らしも後ハ依後福山ハ下向す

國路

國廣の子子出將大掾の初代
後系朱と切ハ至て上と也

國路

二代目出將大掾國路
又ハハナリ

國路

三代目出將大掾
又月位の作也

國幸

抄別住藤原國幸
國廣の子也

輝廣

肥後守藤原輝廣ハ後列播磨守と也
或云本國尾張小津福信承小從て後又
上系ハて埋忠明壽才子と云ハ一と也其他
國廣明壽等小似ナリ左と有也

國武

平安城住國武
國廣の子也

肥前國忠吉系圖

道弘

橋本を岐と号し元龜天正の比肥前國上佐賀長瀬と
ハ下小在位す今ハ昔長瀬と云天正の末より佐賀城下
今の長瀬町小居位す是忠吉家の祖也

忠吉

慶長元年上系埋忠明壽の才子と云同年より
新た忠吉と改メ寛永元年武藏大掾小任

忠廣と改む是と世小系の忠廣又ハ武藏忠廣と云寛永
九年八月十五日死す時六十八歳

正廣

佐信次郎と号又ハ孫七左衛門と号ハ名系ハ肥前國
吉信と銘す武藏大掾忠廣の聲小一して正廣ハ
孫ハ小依て嫡子小系ハ依之初ハ初ハ忠吉と

治と切し寛永二年より右守の命にすして
正廣と改メ同十八年河内大掾に改メ寛文三年
二月五日死す時六十歳子孫代し正廣云永と切

二代目

正廣

河内守と切

三代目

正永

伎中大掾と切

四代目

正廣

廣吉

助右衛尉と号し治に肥前國位廣吉と切

正次

典右衛尉と号し右に同伊豫掾源云次とい別人

廣次

徳右衛尉と号し治に肥前國位と切

正秀

傳右衛尉と号し治に治右とい

初代

行廣

九郎兵衛と号して治七兵衛吉佐の次男也寛永

十二年より名宗と切正保五年出將大掾小
任し寛文三年出將少小治と天和三年
五月廿七日死す時六十六歳子孫代し治
と号し一也

二代目

行廣

出將守

三代目

行廣

治部丞

廣任

初代行廣の次男忠吉孫
一文字廣任と号す也

廣任

治に肥前國と切也

行永

忠吉忠守と号し治に治に
肥前國と号す

行永

治と号す

行滿

忠太夫と号す

初代の孫子

右のり

三代目 忠廣

妾腹の次男平作師と号し寛永九年父武藏大掾
死後名宗と改初る忠廣と切付時十九歳也
是と初代の忠廣と号して後ハ肥前國近江大掾友宗大廣
と号り一也寛永十八子江大掾小八と号一也元禄三年
御長刀と忠廣正廣以廣三人小打させ給ふ元禄六年
五月廿七日死す時八十歳

三代目 忠吉

新三郎と号し万治三年陸奥大掾小任一寛文
二子陸奥と号する貞享三年正月二日死す時
五十歳

四代目 忠吉

新三郎と号し元禄六年より名宗と切元禄
十三年江大掾小任寛永七年朝鮮之倍使に

被下御長刀并長刀忠吉正廣以廣三人小打せ
給ふ

右の二代初ハ忠廣後ハ忠吉と改と系圖小ハ
手書入ありと之ハ案ハ小陸奥也ハ始終ハ忠吉
案ニと斗り歟一ハ故ハ父を江大掾忠廣と
名給りて元禄六年を改命以陸奥也ハ
貞享三年小父小先達と死す爰と合て凡ハ

五代目 忠廣

新三郎と号し享保元年より名宗と切江大掾小
任以後ハ近江と号す

六代目 忠吉

是今のを江也
去依掾去依も切

忠吉

初代武藏大掾忠廣と改去依小
忠吉と先以是と世小去依忠吉と云
二代目ハ長所小任す路の切やハ
肥前國忠吉と斗りも切也

廣貞 相右馬守尉

國廣 六右馬守尉

兼廣 大和守

兼廣 左江守

忠國 播磨大掾

忠國 播磨守

忠國 播磨大掾

後入道休汝公

宗平

宗平

二代尤小依渡掾公孫

吉住 越中掾

兼長 嘉吉守尉

廣貞 相右馬守尉

廣定 甚右馬守尉

初代忠吉別腹兄

吉貞 兵部左衛門尉

吉貞

吉久

吉貞 内藏助

忠清 新右馬守尉

忠清 下條大掾

忠宗 相摸守

忠宗 儀右馬守尉

吉廣 伊勢大掾

氏廣 越前大掾

吉廣 吉右馬守尉

吉長 五右馬守尉

吉長 武右馬守尉

吉房 浅右馬守尉

吉房 七右馬守尉

吉行 新右馬守尉

廣勝 六右馬守尉

忠政 織部守

忠政 源兵衛尉

吉清 千右馬守尉

廣重 左馬守尉

廣國 正右馬守尉

肥前彫物所

宗長

理忠明善才子小て初代忠吉時代也

吉長

右宗長子といひ二代目忠廣時代也

忠長

右吉長子といひ三代目時代なり

忠吉初代之銘

橋本新左衛門尉忠吉

肥前國忠吉

肥前國任人忠吉作

武藏大掾藤原忠廣

同二代目

肥前國任近江大掾藤原忠廣

忠吉ト切シ事曾テナシ

同三代目

肥前國任陸奥守忠吉

忠廣ト切レテナシ一生忠吉ト切レテ見エタリ

け外河内壯年の作小忠吉と切有り云依の初銘小忠吉有
本家小の家督の後極めて忠廣と改ると見へたり

薩摩新刀略系圖

氏房

先祖より圓瓶治の傳あり一々江戸より竹石の真下向してお別心宗信と
流承してこそ傳と稱せしと也心宗の傳の書之竹屋附手せしと也

正房

丸田兵右衛門と号し薩列任菴系正房と切又伊豆守菴系正房丸切後集小
物丸衛門と号し竹石の傳ありやけ作薩列瓶治の冠しるべし價貴し

正房

丸田孝兵衛薩列任菴系正房と切
主水正信同一時代小て伊豆守子也

正房

丸田惣左衛門と云へば正房の
子のみ不名薩列任菴系正房と切

安行

伊豆守正房才子
格口三郎兵衛と号波平大和守平安行と切大和瓶治の傳あり一々正房の傳あり
亦て安行は小治と也其子小て價貴しと也其美垣也なり

安正

安正の二男
格口兵右衛門先祖正國以来の大和傳と瓶ひてお別信と并ひす
波平安心とに字沼美垣也なり

安國

四男
格口三郎兵衛と号波平安心の家督あり一々波平大和守平安國と切
法さか来小てか上り也

安常

楢江常兵衛路ハ
波平安常とて字也

安氏

楢江勘之丞路ハ
波平安氏とて字也

安の孫
安園子

安周

楢江常兵衛路ハ波平
安周とて字小切也

安充

楢江常兵衛路ハ波平
安充とて字也

安廣

楢江常兵衛路ハ波平安廣とて字也安周の子子小て大和借と源也

安明

楢江常兵衛路ハ波平安明とて字小切也安周の子子小て常兵衛路ハ
波平ハ薩列谷山郡谷山卿の地名也

安代

大和守安代の子子
薩列兵入形森入小住玉置小市帛又一平と号以主馬首小住す
薩列位一平安代と切後ハ主馬首一平安代又ハ源示朝臣と切一も
西人と云入の一年と呼と也と上り也

安貞

山城守一平安貞と切

清方

伊勢守源示清方と切目訂記の上
十二葉の系と云る示伊勢守金屋
子子と云一といふ源昭老人の記也

安有

薩列位一平安有

正清一家

正清

正清の房
宮原清右衛門又覺左史と改一と見へり主水正清と切りハのち也初ハ
薩列位正清と切一正房とよもうつせり

正近

正清の房
宮原清右衛門と号以ハ父覺左史と改一後の子孫ハ一号削友他と
号せ一ハハ右の以故ハ一薩列位正近と切る

正良

伊地知平覺と号以當時の源治不て元平正良を上げ也薩列位正良と切

清一

奈々日本左衛門と号一薩列位清一と切を上げ也一代小一て後あり

奥一家

忠重

奥小左衛門と号一源ハ奥和泉守忠重と切若年の比ハ秀與と切一也之れ也後集の
源氏といふハ一薩列位源昭源昭源昭源昭源の城下居住國人呼て奥といふ

忠重子
元貞
奥次郎兵衛流ハ
薩列住元貞と切

元貞子
正平
奥小左衛門流ハ
薩列住正平と切

忠重子
國平
奥惣兵衛と号シ薩ハ薩列住國平と切後集ハ次郎左衛門とも号シ
忠重ヲ惣兵衛と号シりハ誤リイラサス小ヤ

正貞
奥小左衛門と号シ乃テ一モ忠重ノ嫡子小テ元貞ノ兄ナリトシテ薩ハ薩列住
正貞と切忠重以下知テ奥一家ハ薩ノ上ニ小テ刀も社々切也

國貞
薩川其流ハ後集小出ハ奥小左衛門同人ナリトシテ國平ノ子トテヤヘンハ未
聞

元平
薩陽士元平と切シハいつモの家ナリトテ出テウケルハ當時ノ源流トテ上ニ也
若シ薩川平刀左衛門と号シ乃テ元平ノ子トテ知ルコト

新刀ノ列位定テ後正房ノ作取也ト相又薩列新刀ノ系流トテ正房實宗流
勝ナリト知リ伊豆守正房ハ薩列新刀ノ冠也

○**重録**
偶列ハ陳師未分ナリ
正宗信トテ流
秘尊トテ呼ビ也

重鏡 重謙子
重近 重鏡子
重吉 重近子

日向國
國富 姉川氏
國義 姉川氏
國次 姉川氏
末次 姉川氏

新刀辨疑卷二

新刀上々作列

助廣
攝列大坂の住人津田越前守延慶二年より近侍流小治と切るを
親助廣も越前守と切也ハ初ノ流ハハ又ヤリ

真改
攝列大坂の住人井上和泉守國貞ノ子也同流ニ代ナリハ真改ハ
二代目寛文延慶天和中之人也

國廣
山藏國洛陽一条橋川の住信濃守友系國廣ニ字流或藤原國廣ト
ハ字少ト切ありキヤ長中ノ住多シ

忠吉
橋本氏道弘ノ子肥前國忠吉也長元年中上京トテ埋忠明喜ノ才子
トナリシハ寛永之武藏大掾小住忠廣ト改行ス忠ト号シ

明壽
山藏國西陳住埋忠の祖也忠吉と切シハ犯者忠吉ノ師也文祿キヤ長
元和寛永中ノ人也彫物の名人也忠義と切ハ二代目ナリ

助直
本國近江國高木住人小テ津田越前守ノ門人越後妹婿トアリトテ津田
近江也助直ト切初ハ近江國住助直或近江也本住助直ト切也

一筆字

攝津國大坂の住人二代目栗田口直江守忠細うら号也を親も後の直江也と
切以入りて口傳あり万右夫と号は

正清

薩摩國住人宮原清右馬と号は初ハ薩州住正清と切後の主水正清と
切一葉の葵切一と賞美す

安代

薩州谷山波平の末主馬首安代初ハ玉置小市帛或ハ二年と号一葉葵と
目訂定の上小切号と二年安代と号

繫慶

本國駿河後江戸住沼前編小委細り至く稀なる也は作分て
係おふ一洗炮の落は信亮と切也

帛徹

武藏國江戸住本國江列長曾称村越前へ移り又江戸へ移住す落
切やいろく有寛文延享中の人也

國重

依中國水田の三代目六月典典大興ハ國重と切寛文中の人、正宗
義弘小と終る初のお来も也

重義

山嶽國西陳住埋忠重義ハ明壽子也と号又寛永のはの人、りり切りおの
名人也

國輝

攝州大坂の住人小林伊勢守也初集々進と切一ハ初代孫原
國助と号男小中河内々末弟也

吉道

山嶽國系丹波守の初代は作小ハ口の交りて平化多一至く上も也
孝長中の人也

吉道

攝州大坂の住人世祖又丹波と号は系初代丹波守吉乃見あり
初代の大和号と支作とあり

吉道

播州大坂の住人初代の大和也落形小く一て唐係一
丁子礼の名人也

國助

攝州大坂の住人二代目河内守也世々中河内といひ丁子礼運足
或ハ重光大和いろくのお来も同落教人見極に傳

照包

攝州大坂の住人然後者の二代目坂倉君言々進と号は丁子礼也
のハ大和いろくのお来も大和のり名人也

重國

紀伊國住人初代於南紀重國造と切本國ハ駿州也世々後ハ
文殊といひ

包保

播州大坂住人也和列包保子陸奥也包保とた文字大落小
切あり世小是と陸奥守といひ

興正

武列住長曾称興里り子或ハ子下り少く一り忠落形
虎徹と似てたつと一り也

國安

山城國洛陽一条堀川の位人國廣才なり少くとも洛中心
なり口傳あり國改と切一しや

國傳

山城國堀川位藤原國傳と切二字落もあり國廣才子に
平安城位國傳と切半ふ一越後守とも切一也

國改

山城國一条堀川の位人也國廣才子大隅守藤原正放の父也
至く名人也右國安の壯年の作りとあるへくは後守

正放

山城國一条堀川藤原正放の字落多し大隅守は藤原正放と切
右の國改の子國廣の智也といふ

美平

山城國龍園下川系菊水の色小位守敏小落も東山住美平と切
或は平安城位大江美平或は大江の慶隆と切也傳三府と云

新刀上作列

吉道

撰列位人二代目大和守大治也二代目丹波守と云作ふ一しは
重なりおしく見事也

包保

和列位人支殊陸奥大掾陸奥守と切二字落或は和列位包保
た字の切也

貞則

井上真改才子鈴木加賀守也依右也と号鈴木と切寛文始天和六の
年号切一と賞受に

治國

井上真改才子八幡小窓治國と切時代右小同一は荒目小く
見ゆ也

秀興

薩列位人也真和泉守と号以忠重と号人成り忠重の老後の落
ありしは敏小別人とハセに

真了

井上真改才子土肥真了と切肥前平戸松浦家の派治少く敏
叔代もといふ一は家小出すは初代也

吉道

京丹波守の二代目井上作小十六の号と切は兼小切也

國路

京國廣才子出羽大掾藤原國路と切叔代も初代上もなり
二代目三代目ハ大小ともなり

國助

撰列大坂三代目河内守也重なり丁子礼の上も也

久道

京近江守源久道兼一掃と切ハ親也ハ久道ハ今江市と号一
二代目枝菊と切なりと号らんみらんなり也

國光

本國倭中の名田小て榜別ては江戸支那に位敷天は水田或は江戸水田といふ

正則

薩列位正則は正法よりいなく見ゆるもの也薩摩打の中までい佛細也

國平

薩列位國平奥想を情と号は地鉄細小してあつ佛小て見事也

國貞

薩列位國貞奥幸丸也と号はけあ人の忠重の門人と見へり

正房

薩列位正房丸田伊豆也とも又想丸也といふあつ佛小て地鉄細也

國平

井上真政弟子三字滋國平作と切事あり

吉道

大坂三代目丹波也也江戸大船運業の大切屋や三業あり見事也

祐國

紀伊國の人小て大坂小住す花房倭業を源祐國と切大札ぬと賞與す

久道

京都五振治の名人道に守源久道と切業一編と切事二代目少一編業と切り同路といふも格別の作也二代目格業をさる

忠細

本國播磨國姫路小て栗田口國細末葉の作と交代く栗田口をいふと称号といふ業をいふ大掾より道にさるる津井氏也

忠吉

肥前國陸奥守藤原忠吉は三代目万治三年任陸奥大掾寛文二年陸奥守と成を新三郎と號す切忠吉は忠廣といふ不改也

直道

播列大坂の住人初代丹波守の身子丹後と藤原直道と切寛文延享の年号業一文字と切後ハ兼道と切也

正俊

山城國平安城住正俊は初代兼中守藤原正俊也同路交代の原と切年号業一文字と切後ハ兼道と切也

信吉

大坂の住人吉井越前守源末信吉延享天和貞享のはあり末五振治の信吉と号也

包保

大坂の人後信引松本へ移住す若年の比は九字陸奥守包重と号打又右路小包保とも切是右陸奥也九字と号

忠廣

肥前國住道江大掾藤原忠廣は武後大掾の子小て二代目也若年比は忠吉とも切一平作市と号寛永十八年より道江大掾小住す

忠綱

攝列大坂住一守子子子小て二代目直江守忠綱は進と号し大札
又の上り也

金道

山城國住人京五旅治の老々人伊賀守金道の初代也寛永年中か
人也同治叔代有初代は古作のくく小て上り也

正近

薩列く住人正清の曾子正近と号し

國重

攝列住人中河内曾子池田鬼神丸國重攝列住國重と切事也
江戸小も住せり

國康

大坂中河内曾伊勢守國輝の兄也肥後守國康同治二代初代
傍もくく

忠行

大坂初代忠綱の曾子攝列住友系忠行と切同治叔人有忠みの各人也
攝列住友系忠行と切事よしとす

國包

奥列國分若林住山城大掾藤原國包堅派頭白ひ湯く松目のき
ま〜く見事也

清信

攝列大坂住足田太三清信と切は作是也ききり入也

右作

播列住鈴木五郎右作の爵宗榮右五郎とも又右作は切住居所は後
伎前少も也

長旨

武列住小笠原昌泰長旨或は長宗は切堅きつは松目糸もくも

細宗

奥列仙臺細宗朝臣御殿の作也流もく有偽あり

正廣

肥前國河内大掾藤原正廣二代目忠吉是也寛永十八年任河内大掾正廣と
切代く正廣三永と流と切也仍河内系といふ也

行廣

肥前國本郡大掾寛永十六年より名宗と切寛文三年任出羽守
是ハ永七名清吉信二男也く正廣の弟也並及乱母正小上り也

重次

山城國鞍馬住人三守流もくも一長長平中の人也世人とくは重次
号一賞受す所は佛小て長若松のく

國重

備中國荏原住國重大月興太郎の祖父もくも水田の元祖也其の
か田よりハ尋ね出さる上り也

國重

備中國水田住國重二代目三郎重宗は号同治叔代は他もくも

忠國

肥前國住播磨大掾忠國ハ武藏大掾忠廣末子廣貞ハ子日治叔代有初代也

國次

薩列麻兒府住藤原國次

國重

備中國水田住國重水田四代目ハ興五席子大月孫也

忠廣

肥前國近江大掾忠廣四代目の忠吉也元禄六年分家督す

國虎

東真磐城住人根本和泉守藤原國虎井上真改子なりトハ三代も有ハ不出本家也

宗重

播列大坂住人常陸守初代也播列トモナリトハ大坂有ト初代トハ宗成トモナリ

國貞

播列大坂之祖和泉守後系國貞元和寛永ハ保慶安ノ月也井上直政父也堀川國貞ハ子成トモナリ

助廣

同所の住人伴田兼守父播列住後系助廣ト切後ハ兼承也凡切父子の作見板付あり

輝廣

本國尾列藝列之住肥後守後系輝廣作ト切

包貞

播列住越後守包貞の初代之播列住後系包貞或ハ越後守包貞ト加ハ言ハ進若年の諸トハ又ナリ

安定

薩列住安定ハ作ハ寛文延寶分ナリ見ゆあり也

為康

播列大坂住富田陸奥守橋為康富田貞列於大江岩造之トナリ

歳長

本國京都勢列津住人陸奥守後系歳長ト切京都の山城ト見ナリ

私幸

平安藏住後系私幸ト切洛陽堀川小住す

新刀上ノ中作列

包宗

播列大坂住上野菅原包宗ハ地子ト至テ別ク佛白ハ有テ指科トスハ三の也多分ハ伊予ト忠見ナリ也

加卜

大村加卜路いろく 切前編小委細也を茶焼ある多し又のり佛
地の内一ツミヤサシもあつ

重包

能前國信國一家原田勘九郎重包は作小礼中礼重包は作小佛
白ひきてゆく火加減能くしてゝのひひるとも也

紀克

河列横小淡和列郡山住大坂中ち包國の子公同并中守輝邦入道
は作大礼重包のりいろくも重包のり小佛もて見ゆ也

助宗

振列住助宗は津田助廣の才子也信列福田小十郎とい別人也は作初て
津田の作のありひきまて大礼あるものす

吉信

山城國住理忠吉信は切は作明書が門人ある能似たり重包
冬藤山にて見ゆ也

長幸

振列住於攝津國長幸作之或は多々羅氏と切しも有りは作
茶焼にてはあ礼の名人也佛の附しはよりかゝり

重國

紀列住於南紀文殊重國作之と切二代目金助と号は作よく
重包のり賞與す地は細小にて位あるもの也

金道

京伊賀守藤原金道裏日本振治物語と切茶大焼の二代目也は作
地はさしりて大礼あり重包のり大小寄ま

方清

長列住玉井刑部九郎角三玉方清と切と賞與は實又中の人也
地鉄細小して小佛白ひゆく大やうして花やうなるもの也

廣政

振列住人若狭守源廣政津田助廣才子源廣政と号半多し
は作津田の凡多て上も也佛のありさしはかゝり

康廣

紀列振列小位使中守橘康廣紀伊國康廣は打茶と切富田
使中守土佐將監とも切也茶やさい不置大礼の佛もと良とす

兼若

加列住友系兼若と切は作地は細小して一ツ小肌を砂流を
地系ありて見ゆは細小のりかゝり又不出茶流あり

信高

尾列住人也伯耆守友系信高前伯列山月入道は切は作地は
細小して重包のり大礼あり重包のり大礼あり

信高

二代目伯耆守友系信高は作又小同地は細小して予さみは
は作小して又小同地は

安定

武列住人入大和守安定と切は作地はさしりて佛白ひ
ゆくのり重包大礼いろくも上も也忠なり也

安倫

真列仙臺住安倫と切は作右安定小同細宗朝臣の作あり
は安倫よくあり上り也

光平

江戸住日屋光平は守法橋源光平孫也。小切は他多。云本枝小
して関孫六の孫の上を末のこゝ也。礼の是大也。

是一

江戸住武藏大掾源一は近是。一と切光平の作は向。大礼小ハ
佛ぬく足事也。於て是ホの礼を石堂礼といふ。

勝國

加列住陀羅尼勝國住依掾と切は他石堂礼廣重といろくも地鉄
去まりて上も也。

安國

薩列住人也。彼平安國と打平菱垣地鉄ハ。今も。てあ。佛
白ひるえけ。一。さ。あ。ま。ぬ。

包國

撰列住包は。打。中守包國。切丹波守也。作丁子礼大。礼後。ぬ
いろくも白ひるく上も也。

助高

伴田助廣才子撰列住助高と切後。ハ。後。福山。下。ル。作。ハ。陣。の。風。も。て
出来。一。を。上。も。也。中心ハ。作。通。と。う。つ。せ。

兼道

丹後守の二代目兼一とハ。不。切。後。江戸。下。付。作。又。作。又。何。し。り。と。去
後。ぬ。い。ろ。一。大。礼。ぬ。一。助。重。の。礼。也。何。し。り。

輝廣

薩列住人播磨守友系輝廣と切。犯。後。ち。子。ち。り。く。地。子。細。佛。白。ひ。る
上も也。火加減。さ。る。方。と。又。く。し。り。

私包

撰列住人也。信濃守私包和列手撥包。永十一代孫と切と。去。又。英。す
二代目ハ。江戸。へ。も。下。り。し。と。又。ぬ。重。の。上。も。也。

元道

山城國住源元道と切丁子礼上も也。作地鉄。至。く。つ。まり。大。坂
初代忠細の丁子礼ハ。然。何。し。り。保。及。ち。成。身。の。ぬ。

則廣

撰列住丹波相摸守源則廣と切。犯。列。小。も。何。し。り。作。地。子。細。小
佛。白。ひ。る。重。の。ぬ。一。の。れ。と。も。

歳長

平安城山城守藤原歳長阿列之。二村。左。近。度。次。打。一。也。作。地。鉄
細。小。一。て。中。礼。小。打。事。ぬ。

康永

撰列住人也。河内守源康永と切初代康廣才子。長。幸。の。際。道。也。作
地。子。細。小。一。て。佛。白。ひ。る。一。大。礼。小。打。事。ぬ。一。路。了。ん。の。也。

兼光

三品但馬守兼光二代目丹後守兼道才子也。源兼道。門。平。切。作。地。鉄
細。小。大。礼。多。一。丹。後。守。小。ハ。お。と。れ。

國康

肥後守の二代目也。文字の間のひ。し。り。安。の。近。と。号。又。作。不。す。く。何。し。り
丁子礼ハ。小。お。と。れ。

貞次

撰列住貞次或ハ。伊。賀。才。貞。次。と。切。し。り。井。上。貞。政。才。子。小。て。加。加。え。ち
貞。則。の。子。也。

輝政

攝列後列松山小三郎 奥守攝輝政と切伊勢守國輝の子也叔のちを
和泉大掾國輝（一）二代目ハ劣まり叔代より

兼先

周列任人也初代因列任藤原兼光と切忠彦又兼光也並みの上も地決
細小して小佛白ひ有て居りしもの也

吉行

攝列任後列へ下向す陸奥守吉行也切初代大和守吉道の子也
大和守小姓く似て丁子礼小出来多し

吉國

攝列任人也後列へ下向す上野守吉國と切是も大坂初代大和守吉道
の子小て吉行より足りし作右小同

重包

流列任源信國重包地決細小白ひゆく上も赤田助たきと列人にて
方く足り

吉廣

肥前國任伊勢大掾兼吉廣と切也並みとすしと後礼ハイヤ（一）
出来多し

兼廣

肥前國任大和掾兼系兼廣と切作も赤小同（一）二代目ハ劣るし
早に父小かとす上も子に作も並みとすしと後

包定

和列包永末兼河内守包定江戸任とすし路も地決細小くま
あり佛小佛村よりして廣並み足りしものあり

忠國

山城國任人後因列へ下向す信濃大掾兼系忠國と切作地決細小
関礼の（一）又ハ丁子礼のり子孫数代と見へし

吉貞

流系國源吉貞信國一系也小佛白ひ小礼小て上も也

吉包

流列任信國源吉包は作右小同

重宗

流系國源信國重宗は作右小同

國重

源列も松任國重水田大月市兼子若太馬と号け作太を小似く
あり小之みて上も也

常光

對了守攝常光ハ江戸の任人石雲の一人也は作地決ゆくままりて白ひ
ゆく上も也

國重

後中興水田大月市兼子若太馬と号大を又く青小て後山城大掾小か
あり佛小佛ありて上も也

貞行

豐列高田任兼系貞行は字路の方並みの上も也は作小ハ佛とこのま
白ひ小てすし出来りしとすし

國武

中河内國助才子守菅原國武若年の比に於大坂上野守菅原助包とナリ

國益

土引住國益作と切又上野大掾ナリ地決細ナリて白ひゆく小礼ナリて又ナリ也

金道

洛陽住人和本守來金道の初代大法師法橋來榮泉也作地決細ナリて中礼ナリて又ナリ也

吉國

薩列住法橋寺吉國は作地決ひつらりて彼平一家のトナリて佛小佛白ひひて上ナリ也又房小佛ナリ

正成

東多門兵衛正成備前國住人也正次を又盛成ナリ作地決細小むらりて又白ひゆく又ナリ也佛佛も又盛成ハ別ナリ

細廣

相列住細廣と切初代也作地決ナリて又ナリて又白ひひて佛白ひひゆく廣直みのナリ也

細廣

伊勢大掾菅系細廣ハ三代目也作名小引一叔代也と見ナリ

鎮政

伊賀國各張住人本國豊列高田紀列少も位肥前守菅系法政と切作白ひひゆく地決細ナリナリヤキ也

正綱

栗田口菅系正綱ハ初代忠綱次男一筆子才也地決細ハナリナリ也

包綱

栗田口菅系包綱初代忠綱才子也江戸少も位は作地決細ハナリナリ也

康綱

初代紀伊國康綱大坂少も位は作地決細ハナリナリ也

義忠

和列住義忠大坂少も位は作地決細ハナリナリ也

國富

日向國住人國富井上菅系高人少も位は作地決細小佛あり佛ありて白ひゆく又ナリ也

國時

城列住國時紀列少も位は作地決細小佛あり白ひひ有中礼多

國定

彼中國水田住裁前大掾國定ハ山城大掾國重才子也作ハ肌お多

國維

肌多小ハ山城大掾小佛あり也

大坂住菅系法政也相換守國維と切地決ナリナリとナリ小礼多

中礼多

祐春

一舉

一舉

國正

延房

正勝

康繼

國正

攝津住源祐春の房祐國の甥也地決のつとと祐國小似り
中札のつれぬ多し

右列位人佐々木入道係一舉地決するつとて後くわす佛
みてみひろけしる出来多し

右作子孫也希と号し江戸小位といひ作又作よと号するもの也

伊豫守宇和守住人駿河守國正初代上も也重母よりして小佛あり
お來お多し一叔代あり

丹波守藤原延房も不知地決細まじりゆひもて白ひゆく小説
みて上も也

大隅守藤原正勝も不知堀川の正弘もていりわすり

越前康繼於武列江戸以南蠻鐵作くと切葵と赤敷葵下坂と号
地決細小佛もて白ひゆくおすく切るといふ

江戸住法藏寺但馬守橋國正と切け佐地決するつとていひもて小佛
荒佛白ひもて上も也能く出来するいふの佛あり

國光

正弘

吉正

國清

金道

正俊

兼増

包道

江戸住法藏寺橋國光と切け作おの國正もかきり上も也別て荒佛
ありの也

江戸住法藏寺橋正弘と切け作も右小同し佛細小白ひゆく

中重母小出来お多し

武列住上野分吉正と切け作重母孫く出来て地決するつとていひもて

越前住人也山城守藤原國清と切葵と指裏小切け作ハ地決する
つとて細重母と号しは札ぬいかり

京和泉守藤原金道の二代目宗泉子也け作又より地決あり

京越中守正俊の二代目宗兼系ありけ作ハ地決するつとて白ひゆ
中札ありつとていひ出来多し

大坂住人播磨守兼増と切け作地決こまふ札ぬ小まえ白ひもて
一たりの多し

大坂住人伊賀守源包道也切辰右馬と号け作地決するつとていひも
みて佛白ひゆ

重虎

撰列位係重虎と切付作地の子かたてて見えて所く小あつ佛を
くけりしもの也

秀辰

山城守秀辰大坂位人二代目江戸へ移住せし大坂と若とす付作
右より二代目へかたれり

宗重

大坂常陸守宗重の二代目嘉重長少江戸へ移住す付作
地鉄のうらひひかたれり

正道

大坂位人掃磨守友系云及と切付作地鉄細りして小佛白ひ有て
包保の出来は仰り

國幸

撰列位友系國幸堀川國慶の才子元り地鉄細りして小佛白ひ有て
伊豫守和徳の初代國幸は仰り

在吉

平安城任阿波守友系在吉國慶の才子也付作系おの中少てハカ
出来のり也

則定

平安城任則定と切付作地鉄むらりとしてみ入て小肌を小佛白ひ有て
中礼並多し

助宗

信列位助宗付作地鉄鉄くまきりて小佛白ひ有て常於礼母
並双も位有て古作と見ゆもの也

則房

藝列位係則房作と切地鉄細りうらりして小佛白ひ有て位有て
紀列初代の重國不似らあり

菊平

加列位係菊平の地鉄細りうらり佛白ひ有て上も也肌を
みもの也

安吉

筑列位係安吉作地鉄細り小佛白ひ保く礼多し

吉次

信國係吉次付作右より小礼多し常於る出来は

國綱

阿列位係德徳任國綱付作地鉄細りあり佛小佛白ひ保く中礼多し

國吉

武列位係法藏寺橋國吉付作地鉄鉄りしてみみて佛白ひ有て
度並双も出来はあり

助重

出羽守助重朱根の上も也中内より才子丁子礼あり小て礼の係
りの也

助信

出羽守原助信朱根の上も中内より才子也付作右月位也

國助

大坂代目河内守是六之重子とて國輝重子と成り作地鉄ハ能く
つぎれ大後之の孫白ひも又祖小ハカとれ

金道

京都之住人新後守茂系来令及と切地鉄之とて佛白ひもて中礼
並み也

長吉

平安城住長吉と切地鉄能つまりと並み也一白ひ海くと也

國義

高井豊後守孫系國義ハ系信守信吉ハ大坂守并新後守信吉ハ是
系江乃表根若ぬ小後も位す葉佛もと云とす

義國

三条堀川住豊後守義國と切地鉄細又也係三礼多一小佛白ひも

信吉

信濃守茂系信吉ハ高井國義信吉等又也茂系信吉ハ係信吉よりハ
出来お多一と也

則國

平安城住則國ハ作の事後集小妻一と作之見以移れ上とと
りハ不也て又小也

金道

三条堀川住令及と切地鉄出来の孫伊賀守ハ作小似り者一
別人とハ云一

國路

お郡大根國路二代月生と字也一ハ作地鉄細小元白ひもて大禮也

廣賀

伯列道祖尾助と出廣賀と切地鉄細小白ひも係小礼のト云
出来多一

廣吉

伯列住及祖尾若十市廣吉ハ作右小同一ハ礼一と白ひ係
又ハ小成お多伯若國住と斗も切

廣賀

伯若國倉吉住見田三市ハ係廣賀ハ作右小同

廣賀

伯列倉吉住見田又市ハ係廣賀ハ作右小同

廣賀

伯若國倉吉住廣賀ハ作右小同

廣賀

伯若國住廣賀作と作地鉄右小同

兼重

上総守茂系兼重和泉守とハ別人と見也ハ地鉄之とて一と云
佛多一のハ係並み也

金藏

及徳公位人大和守源系金藏作地鉄細小佛白ひきて中礼重母

國重

佐中國水田於佐藤景山作之作地鉄つまてあつ佛きて中礼重

國重

佐中水田新十郎於河波國作之作地鉄細小田の内にてハ乃於常の
出来多

忠吉

肥前國住人土佐守源系忠吉作地鉄細小にて中並又又々々
礼ももの上も也

忠吉

直江大掾源系忠吉作地鉄細小並多々一肥前國の代目也

忠吉

肥前國源系忠吉同文字教之皆れりも有け作ハ七字ありて古
又中れハ三代目仕子の作り終り

金辰

因幡守源系金辰作地鉄細小白ひきて礼多々一関源治あり

新刀上ノ下作列

金道

京都伊賀守源系金辰の三代目日本源治宗通と切大落也作地鉄

正俊

京城中守正俊の三代目兼と切に代目ハ口傳あり國礼のつく地鉄

吉道

京丹波守三代目ハ作地鉄つよく去まりてすれぬ十六葉の兼と切
上も也源七郎と号けりあり

信吉

洛陽信濃守源信吉又源系信吉其才友人ハ劣也

法道

藏列住来法道

刻國

平安城住源系刻國ハ後因列を取ハ下向ス

國吉

和列住城中守源系國吉郡山ノ住人也

國助

河内守源系國助ハ大坂中河内也

國助

石見守國助有子六郎國助少後江戸へ下向す

國次

武藏守國次の河内守友系國助の次男中河内少也

忠行

大坂二代目播磨守源忠行

忠行

粟田口播磨守源忠行右忠行弟貞太夫と号

忠行

播磨守源忠行播磨忠行九切江戸へ下向す

忠重

播磨守生主莊井上忠重の初代を初代と為忠行少也

康廣

大坂二代目佐中守橋康廣

爲廣

播磨守橋爲廣の初代康廣の少也

昌富

播磨守昌富後の江戸へ下向す

貞廣

了柿加賀守友系貞廣の大坂守佐中國裁取也

有續

神力丸有續の右貞廣の少也又子友作也

爲康

相模守爲康の大坂の佐中友田陸奥守との別人也

定重

大坂佐中守定重と切 秀吉公の殿流也

祐定

佐中長船守祐定永正九代末葉と切大坂守佐中

氏房

尾羽佐中守飛彈守友系氏房

氏房

若狭守氏房尾羽氏房の佐中守

盛道

武藏守源系盛乃乞又尾列位人也

盛道

尾列位前源向与入道盛道法列也毛位す

正全

豊後守源正全英法國位人

廣重

因幡守廣重八半在為厨精廣重と切武列下系源治也

義助

駿列修田位源系助

家包

駿河國位家包

助宗

豊後探者系助宗駿列位人也

助宗

播磨大探者系助宗右小甲

盛廣

駿後守盛廣右小甲

卜傳

常列水戸住坂東太郎鎮正入道卜傳八因長定武藏守吉門と後の源也
吉門と弁一時々来お多し

廣助

駿河守修田位廣助駿列修田也

國照

伯耆大探攝國照八江戶法橋古也

東連

武列住石堂恭東連

守久

武列住石堂八丸為厨恭守久

吉武

出雲大探者系吉武江戶住人也川と出雲守大切し

吉正

武列住吉正

廣國

武列住廣國白江子云般兼兼不似下とけりふくぬ入る

安國

武兼右衛門安國

守正

和泉守保守正甲列守正と八別人と是なり

安永

武兼國樸山位人安永口傳也

照門

丹波守兼照門是波國源流也伊予て見事也

吉門

越前守兼吉門尤も同

兼信

陸奥守兼兼信是位人也

政常

相摸守政常入道小刀之上也

政常

兵衛守兼政常右入道子是又小刀の上也

清宣

近江守兼清宣

清宣

伎中守兼清宣

兼定

奥列住兼定大業物といふ事兼集小委細也

長道

陸奥大掾三善長道

道長

陸奥會津住道長

政長

奥列會津住政長若松兼政長也

兼先

因列住兼先兵右衛門と号也

正綱

播磨大掾源宗正經の伯列倉吉位初三郎と号す

幸景

伯列倉吉位幸景

廣賀

伯列國住道祖尾七郎為廣賀

氏重

匿陽住人大木大掾源宗氏重の初代也其の氏重と切也二代目より子也

祐定

佐藤國住長船七郎傳祐定作と切

祐定

祐右小月一後七と号す

祐定

佐藤國住長船源三傳祐定慶安中の人也

祐定

佐藤國横山上野大掾源宗祐定初代大祐也

國宗

佐藤山住國宗の義太夫と号す佐藤三郎末葉

守吉

佐藤山住守吉

為家

佐藤國管初住河地源三傳為家管初水田の初代也

為家

佐藤國管初住為家

為家

佐藤國河野與右所為家

為家

佐藤國管初住為家の父を所才也與世所と号す

國重

佐藤國水田住國重の父を所と号す初代の父を清小といふ

國重

佐藤國水田住國重の父を所と号す其の父を清と号す

國重

倭中國水田住國重市之味と号たは清才也

國重

倭中國の田住國重治大馬と号市之清才也

國重

倭中國の田住國重治大馬と号治大馬の子山嶺大掾才也

國定

二代月裁茶大掾國定八平九郎と号

國重

倭中國の田住國重八平九郎と号

國重

倭中水田於河列作と切河列の田の二代目也

國重

源太不月河列の田の二代目也

國綱

倭中國の田國綱倭後足守小位大興の孫也

國次

倭後國後山住山嶺大掾源國次の田の二代目也

廣隆

源列住茶系廣隆

守次

源茶國後足守次

吉種

信國吉種作と切河列住人也

吉政

源信國平比治吉政源茶國人也

吉寛

源茶國源吉寛

吉國

源列柳川住鬼塚吉國同治久留茶小住住す

金重

源陽國衛庄金重

祐定

大和太掾友宗祐定後裔也

祐定

河内守祐定弟小一文字と目訂定の上小切後裔位人也

祐定

小洛小切横山上野大掾祐定後裔位人也

兼卷

加列金澤位人兼卷

重繼

加列住友系重繼

家忠

賀列住友系家忠

宗次

越前住下坂宗次

重行

豊列高田住友系重行の字洛小之切

國繩

豊列位人大和守平國繩

義行

豊列位人山城大掾友宗義行

吉行

豊列了田住友系吉行

國平

豊列位人山城大掾友宗國平

貞行

豊列位人大和太掾友宗貞行二代目也

國行

豊列位人大和守友宗國行

國隆

山上播磨守國隆豊列本林子住下大坂中河内、才子也

吉貞

豊後住吉貞

菊平

肥前國住人菊平

行平

紀勢右夫末河内守源行平

兼廣

大和太掾兼廣

宗次

肥前國伊豫掾宗次

吉信

肥前國住人吉信孫七之孫と号

重國

文殊重國の三代目少一て九郎三郎と号

助政

鈴木大和守助政ハ助政の子子院列小位守

長國

徳列松山住長國と切

高綱

源系高綱と此字又切之正不明

國林

之正不知二字國林と切

國康

之正不知伊勢守源系國康大坂守之院之孫

盛國

和泉守千子院盛國

貞秀

加賀守貞秀之正不知

忠道

越後守源系忠道之正不知

國博

其正不知國博作と二字小切

吉家

加列位源系吉家作と切

吉家

賀列金梅任陀羅尼吉家作と切吉太馬作と云

信照

伯智守信照

廣信

伊波按九馬廣信伊波河内守或ハ大和守廣信も切紀列小之位
賊列し位人也

包宗

和列住波系包宗と切九护りて忠足才也

包明

大和國包明と切或ハ和列位波系包明も切也た护

包守

南都文殊波系包守作と切

貞重

對馬守波系貞重尾張國位人也

守正

千手院和泉守源守正作と切武列任人也

清平

相列小田原八幡山住辻村清平ハ中國加賀國小て家平景平ホリ家
江平小てモ少一と云也

義行

豐列高田住波系義行

統行

卷列高田住波系統行

宗安

肥前國住人源宗安

菊平

肥前國伊賀守源菊平或ハ法橋伊賀守入道兼平或伊賀守源兼平と
斗之切兼平も切也

國義

日列和田彈正忠源國義ハ大坂國平ら子和泉守九平

國次

法橋來國次入道壽徹紀後國の派次也

右小記す中ハ出來の甲し況中の議論大小ハ一と云り

主傳と考へて國の風去と濫て多火の功往能と撰ひ來て
佩刀とありてハニ也

新刀辨疑卷二終

新刀辨疑卷三

新刀中ノ上列

包重

山城國文殊包重二代也
ありし

政國

平安城住政國

國次

平安城友系必次

兼道

平安城山中兼道

有平

越後守友系有平河内國
任人也

貞信

但馬守橋貞信右小因
去及才子也

守國

平安城藤原守國と切

正俊

平安城石道右近正俊

清道

平安城住清道

永國

平安城住永國

國義

下総守國義ハ大坂の人、小
井上其及才子也

吉貞

山城守吉貞大坂初代丹波守
吉乃才子也

康光

紀伊國康光ハ初代康細ノ
才子也

永道

武蔵守茂系永道大坂ノ
住人也

兼岡

薩摩守兼岡大坂ノ住人也

信吉

阿波守信吉大坂ノ住人也

末路

播磨大坂住末路茂系末路
トモトキ

貞行

播磨住貞行

廣宣

濃列國廣宣於大坂住之切

重信

播磨住重信

重廣

肥後守重廣於大坂住之切

國綱

大坂住藤系國綱住

國末

播磨住源國末

廣高

丹内守源廣高大坂ノ住人也

廣高

二代丹内守源廣高市丸島守

信吉

相摸守信吉大坂住人

春國

播磨住山本孫春國尉春國住之切

房信

播磨國源房住作之切庖丁ノ
名人也

鎮弘

肥前守藤原鎮弘伊賀住人

鎮知

肥前守茂系鎮知住之切

風一

伴入道風一伊賀住人也

正重

勢列住正重ハ村正末葉ノ
叔代也

國守

於勢列茂系國守

勝吉

勢列桑名住茂系勝吉於
播磨也

國助

勢列神戶住國助

盛道

尾列住人加賀守盛道

貞廣

尾列大山住貞廣大坂ノ住也

氏善

若狭守茂系氏善尾列住人因
小幡氏良ノ切也

盛房

三列吉田住盛房

貞國

駿府安西住貞國

兼貞

駿列住兼貞

正信

土佐振茂系正信甲列住人

繼永

越前下坂繼永於武列住人
作之切

兼植

武列住兼植ハ七國越前也

正俊

武列住正俊

貞國

但馬守法城寺橋貞國

貞重

武列住貞重

國正

武列江戶後系國正

正照

法藏寺越前守橋正照

宗重

武列下系住宗重

正真

武列住源正真

政曆

武列住後系政曆

吉次

肥後守法城寺橋吉次

貞廣

武列住貞廣

正光

法城院橋正光

正國

法城寺正國

吉平

武藏住藤原吉平

利長

武列住山本外記利長

國廣

武列住國廣作之

義廣

伊賀掾源義廣江戶の住人也

兼定

和泉守源兼定江戶住人

兼行

下總守後系兼行江戶列
表根人也

直房

但馬大掾藤原大道直房
及後國住人

兼信

備前神戶住源一兼信

兼勝

二字落小切美垣源一兼勝也
及後國の住人

金高

齊後守後系金高源一兼勝也

兼高

陸奥守後系兼高右小間

國常

上野守後系國常右小間

兼重

和泉守兼重右小間一上地分
半の親也

壽命

及後守後系壽命及後國住人

大道

信濃守後系大道及後國住人

兼信

田代守後系兼信及後國住人也

金定

野田守後系金定及後國住人也

金高

播磨守金高右小間

兼信

大和守源兼信右小間

康道

大和守源康道右小間

兼常

二字名源常源源法列位人也

兼光

真列會津住三好兼光

國次

河内守源宗國次或ハ真列
名取住國次大切

朝卿

真列白川住朝卿

朝廣

真列白川住孫五郎朝廣

兼常

真列白川住孫五郎朝廣

政包

羽列住政包

安輝

丹列住大道源宗安輝丹後
峯山の位人也

正則

法城寺橋正則ハ但子実乃位也

兼次

國列住兼次

大明京

雲列住大明京

宗重

播列住源宗宗重

宗長

播列住源宗宗長

正真

播列住源宗正真

氏繁

大和太掾氏繁ハ二代目也代々
お続す

國重

津田國重ハ播列位人之大坂津田
助廣ホ一門也

大重

常陸守源大重大坂常陸守宗重
一門として播列位人也

冬重

播列定栗冬重

重政

於備列朝重政作之其外辰房
一系ハ上ノ也但慶長より左

正賀

備後國入阿孫正賀ハ具之系の
末葉ト云

下坂

藝列住下坂

兼先

藝列住源宗兼先

則綱

藝列住人則綱作

廣國

藝列住廣國作

冬廣

藝列住冬廣

三四郎

防列住三四郎

清實

長列住二王清實

重太郎

長列住源宗重太郎作

清重

長列住清重

清盈

長列住二王清盈

友重

加那住友重友重友重傳の末孫代
同路有甲乙也

兼則

加列住友重兼則

行光

近江大掾藤原行光たふ侍尉
行光たふ

清定

山城大掾藤原清定源一清定
清定たふ

義植

河内大掾藤原義植越前位人

汎隆

伯耆守藤原汎隆右同位

清長

長列位二王清長

重高

播磨大掾藤原重高越前位人
二代有一と見

兼廣

越前國下坂兼廣

貞次

越前位日向守藤原貞次

清光

播磨大掾藤原清光世俗是と食
清光と号

冬廣

若列位冬廣代と同源有諸國
冬廣のち家と

兼定

上野守藤原兼定右小同

包則

筑後守藤原包則同位の人

繼貞

越前位下坂繼貞

兼則

越前國住兼則

下坂

越前位下坂と切との三人同位
作也

光廣

伊勢大掾下坂光廣

繼光

越前國下坂繼光

永國

河内守藤原永國越前位人

吉道

渡邊源守吉道越前位人
位人也

兼法

越前國住兼法

正則

大和守藤原正則越前位人

吉重

越前大野位高橋吉重

兼中

武藏守藤原兼中越前位人

包義

越中位藤原包義

重清

越中位藤原重清

下坂

越後位下坂越之後列下坂と切也

是次

筑前國福岡位是次

利次

筑前國福岡位利次

實次

筑前國福岡位實次

下坂

筑前國福岡位下坂作

長利

豊前國住人也二字源

長國

豊前中津位長國

友行

豊前小倉住友行

統景

豊列高田住友系統景

實行

豊列高田住友系實行

輝景

豊列高田住友系輝景

行恒

豊列高田住友系行恒

豐政

豊列高田住友系豐政
出典万石の多し

政行

豊列高田住友系政行

貞久

豊列高田住友系貞久

政平

豊前小倉住友系政平
出典万石の多し

光廣

豊列高田住友系光廣

守行

豊列高田住友系守行

尚行

豊列高田住友系尚行

行次

豊列高田住友系行次

忠行

大和守友系忠行
豊列高田住友系

廣行

豊列高田住友系廣行

金行

二字綴り
豊列高田住友系

輝行

豊列高田住友系輝行

豐行

豊列高田住友系豐行

行春

豊列高田住友系行春

長行

豊列高田住友系長行

宜行

豊列高田住友系宜行

行光

豊列高田住友系行光

則行

豊列高田住友系則行

正行

四字綴り
豊列高田住友系

正貞

豊列高田住友系正貞

正行

豊列高田住友系正行

行房

豊列高田住友系行房
出典万石の多し

永行

豊列高田住友系永行

國重

豊列高田住友系國重

友行

豊列高田住友系友行

行長

豊列高田住友系行長

忠清

肥前住友系
豊列高田住友系忠清

吉房

肥前國佐賀住源吉房

忠則

肥前國住忠則

忠正

肥前國住人忠正

國慶

肥前國長湯住國慶依本平馬込
係國慶上切延慶中内作也

廣次

肥前國住廣次

正次

肥前國住藤原正次

本行

高田河内守本行同落叔代有

吉定

肥前國住伊勢五郎源吉定亮
大落寸

重貞

女孫重貞肥前住人也

國長

高末國長同坐住人也

細廣

南紀住細廣

康重

紀伊國住康重

康富

紀伊國住康富

氏廣

紀伊住氏廣

永次

阿列住永次福傳住九切

助信

阿列住菰原助信

盛綱

大進右監盛綱作阿列住人也

清長

藤列松山住清長

國德

藤列位國德國正少所兼一
右ノ凡也

宗貞

伊豫國温泉住人宗貞

長清

藤列松山住長清

國長

藤列住國長

國房

筑後守國房守和清の住人也
叔代也

久國

上野大掾或ハ上野守九切古列
之知一住人也

正富

二字落多一國志れす

康繼

大和守源康繼國不知

重利

二字落多一國志れは

兼定

但馬守源兼定右小月一

長廣

近江守長曾稱長廣江ノ守也
或ハ江列也

定道

越前守源定道國志れは

正忠

石道大進橋正忠右小月一

國次

和泉守國次右小月一

廣辰

常陸守辰系廣辰國不知

廣保

三字廣保作國不知

綱廣

近江守辰系綱廣國不知

守重

二字銘重之也

廣光

三字銘源廣光伊也

兼道

伊賀守兼道

義廣

三字源義廣之切

元喜

佐渡守國元喜佐渡大掾元切

廣辰

肥後守廣辰國不知

包清

陸奥將監包清國不知

宗弘

日直前守宗弘

包高

加賀守辰系包高

貞重

辰系貞重

貞次

筑後守貞次

是平

攝津守是平

倫助

奥列國分若林住倫助安倫
ヲ人カ

友常

武藏守友常

正家

大和守辰系正家

一法

日直山城守一法

國次

山城守辰系國次

一法

對守橋一法

信利

山城守辰系信利

包守

十千院包守

國治

尾陽住某國治白於子八七而能
出也

義房

丹波守辰系義房越前住人

包次

陸奥守包次

忠光

栗田近江守忠光大坂守人

信忠

加刺金保辰系信忠

正明

肥後國相倉住日本正明

守久

武列住石堂八九萬府崇守久

貞信

法城寺橋貞信

統久

高田住辰系統久

氏房

若狭守氏房尾張守ありし

康忠

抄列位康忠の康廣よりありし

保光

父孫保光た字の滋守り包保の
門葉ありし

綱重

陸奥守藤原綱重

冬廣

若狭大掾藤原冬廣

廣正

筑列三池住廣正作之

廣綱

栗田口浅井源廣綱の忠臣ありし

繼信

出陣大掾藤原繼信越前守ありし

則房

執中國藤原則房

重康

上総大掾藤原重康上総守ありし

重貞

筑前國住源信國重貞

景光

因列住景光

勝廣

藤原勝廣

國重

備中國水田源國重の孫保中の作

種廣

肥後大掾源種廣

右小記す中、小の出来の甲乙大又ありし也、主傳も國の風古と
考へ撰取て佩刀とありし也

新刀中ノ中列

吉時

江戸初五郎吉時作

統道

豊列高田住藤原統道

成定

常陸大掾藤原成定越前の人也

秀辰

常陸守秀辰江戸并大坂小住

勝家

加列住橋勝家作陀羅尼一巻也

有國

大和太掾橋有國

則家

加列住八郎藤原則家

則利

吳服山富士太尉則利の常列水戸の人也

輝吉

上列館林住輝吉

廣重

相摸守藤原廣重武列の役人也

清鎮

三清鎮於安藝國作之

清佐

波平清佐作薩列の任人也

直行

於唐津豐列鬼鏡直行作之

直家

抄列任人菴系直家造

氏房

伎前守氏房入道

永國

法城寺橋永國

宗重

源朝臣宗重

助重

相列小田系任助重

清綱

周防國二王三郎清綱朝臣長列の任人也

本信

大和守本信錫の上り也

直廣

大和守菴系直廣

康弘

一肥前國康弘作之

光秀

豐後任菴系光秀

長善

陸奥會津任長善

資永

三池任資永

爲廣

相模大塚源爲廣

貞廣

伎後三原任貞廣

盛重

日笠刀盛重

政長

山野内金九郎政長

正重

加列任菴系正重作

正次

和泉守法城寺橋正次

正法

大和守大塚菴系正法

正勝

和泉守源正勝

信行

豐後任菴系信行

貞廣

菴系貞廣

政曆

因列任菴系政曆作

正永

我後列新發田任正永

正長

奥列會津任正長政長之八列人
本屋一

正清

和泉加賀四郎正清

正利

備前國山任九郎正利作之

延命

肥前内任延命作

兼信

武列任菴系兼信

兼長

武列神田住三郎四郎兼長江戶住
のり長次

兼路

山城國友系兼路

兼常

山城國伏見住友系兼常

國重

山城守國重於武列江戶
中後一のち九切

國恒

出羽大掾友系國恒

國友

土列住友系國友

國清

常陸國小糸吉丸守國清

國宗

宇多國宗作江戶の住人

兼正

武藏國住兼正

兼房

三列友系兼房

國正

近江守源國正

國吉

相摸守友國吉

國俊

近江守源國俊

國正

奥列宇多郡中村住人國正

國助

和田山住來國助

國次

越前守友系國次

國包

山城守友系國包奥列若林の
國包小八のち

國真

備中國水田國真

直廣

大和守友系直廣

國英

河内守源國英

宣屋

三阿孫入道宣屋

正勝

肥後守正勝

寬村

大和守寬村作

重政

近江守重政近江大掾九切

國廣

和泉守友系國廣

國定

河内大掾友系國定

吉綱

友系吉綱

恭幸

相摸守友系恭幸

國綱

横田作九郎國綱

重實

陸奥守重實

重次

土列住重次二字銘文一

利平

二字銘文一

髮

阿列任人也髮作髮繼丸切

祐重

紀列任石雲祐重

祐行

紀列任祐行

安元

波平安元

重鏡

隅列任重鏡

宣明

肥後隈本任宣明

國廣

肥前住友系國廣

宗平

佐渡掾藤原宗平

直貞

紀列任友系直貞

祐道

紀列任石雲祐道

清俊

對列任友系清俊

忠廣

薩列任友系忠廣

包永

十力包永三弟ノ作トイフ
有ハス

國勝

肥後住友系國勝作

廣任

忠吉孫一文字廣任

行永

肥前國行長

忠宗

肥前國相摸大掾忠宗

正永

肥前國佐中大掾友系正永

清次

肥前國住清次

吉正

肥前住人友系吉正

正廣

肥前國正廣

繼利

肥前國下坂繼利紅戸下也
弟

兼正

下總大掾友系兼正

兼重

肥前住友系

忠清

下總大掾友系忠清

氏廣

肥列肥前大掾氏廣

家長

肥前國住家長

忠親

筑列住下坂忠親

宗道

上總守友系宗道

兼高

肥前住兼高

義重

肥前住友系後掾列上極位す

宗吉

下總守友系宗吉執事任人

下坂

肥後大掾菴系下坂

貞重

裁前住下坂貞重

友次

於裁列友次作

國綱

相摸守菴系國綱

兼友

加列兼友作

景平

加列住菴系景平

光治

伊賀守菴系光治

國重

作列津山住國重

繼廣

近江守菴系繼廣

國定

裁列住國定

吉房

丹波守菴系吉房

光國

加列住菴系光國

信友

加具列住菴系信友

高平

加列住也村高平

家平

加列住菴系家平

兼景

作列津山住菴系兼景

兼先

美作國津山住兼先作

義重

播列住三代目義國丸切

國重

石列住國重

安家

武列住安家

助隣

武列住菴系助隣

繫定

武列住繫定

國保

武列江戶守菴系國保和列包永赤葉

包康

江列住包康

兼重

關末流兼重裏流於播列手柄山藤作之

勝永

播列住菴系勝永

宗春

寶正宗春

盛國

武藏國住盛國

宗國

相摸守菴系宗國或ハ菴系宗國也

包勝

武列住文殊包勝

則廣

近江守則廣近江住丸切

壽命

濃列壽命

壽命

二字銘

兼景

三船又大夫兼景

光代

泰光代

清定

武藏守兼系清定

包吉

奥列任包吉作

國義

奥列盛岡任國義

清重

石列任清重

國守

大和守兼系國守

壽命

常陸守兼系壽命

兼安

相模守兼系兼安

貴道

阿波守平貴道

秀康

上列任田任秀康

道辰

若狹守兼系道辰八奥列會津任人兼之切

兼先

因列九郎六郎兼先

光重

石列任光重

國房

石見守兼系國房

國廣

源國廣相馬任人世人是之
志了至廣と云

吉廣

近江守源吉廣

吉國

阿列海部任吉國

吉重

豐列任吉重

吉國

神谷伊勢守源吉國

吉時

國善定兼吉曾孫武藏守
源吉時上野外之八列人歟

吉次

武藏任兼系吉次

義貞

河田任兼系義貞於江戶

吉正

武列任係兼系吉正作

吉次

肥前國任吉次

吉政

淡列高松任吉政

吉成

播磨守攝吉成入道

吉時

國善定家坂尾吉時或八酒尾上野外
源吉時と云

吉平

武列任石堂吉平

義重

後列河田任人係義重於江戶
作之

義國

新友係義國

包重

隈本住友永包重

包清

播列住包清作之

金行

淡列園末流金行

兼助

濃列園住兼助

兼元

濃列園住田代源一兼元

兼高

裁前住兼高作之

包久

文殊包久作

金玉丸

三子流金剛丸

兼成

淡列園住兼成

兼門

濃列住兼門

兼常

裁前住兼常

兼若

尾列太山住兼若

右ふろす中ふろすの甲しふりて佩刀とす(さりの多かへ)と
主風去とれ考へて生能きりの撰おて月也(三也)

新刀中ノ下列

正友

山城園栗田源正友

包廣

山城園住包廣

安信

平安城安信

具衡

平安城住具衡

綱廣

平安城住源綱廣

吉春

平安城住源吉春

吉廣

山城守吉廣

則定

山城園住友系則定三代目

助利

平安城住石塔助利

兼義

山城園下坂兼義

信貞

山城園住友系信貞

兼次

平安城住友系下坂兼次

正真

令房集人正真作

正真

令房新次正真

政次

南都住令房兵衛尉政次

重房

南都住重房

貞國

按列住菰原貞國三政才子

康定

按列住康定八康廣才子

廣道

按列住猪廣道

吉次

按列住吉次

宗吉

若狭守宗吉八坂初代常陸守宗重才子也

國春

按列住國春八秋春才子也

政定

南都住令房兵衛尉政定

兼長

泉列住兼長

行廣

伎中守橋本廣八按列初代忠行才子也

康綱

阿波守康綱二代目守初代ハ上小守也

盛重

按列住盛重

宗安

按列住宗安

綱吉

按列住綱吉

助利

按列住勝左衛尉助利

善勝

按列住善勝

國吉

按列住國吉

友廣

按列住友廣八尾陽令重才子也

次包

按列住菰原次包

定廣

近江守菰原定廣尾列住人定廣了切也

兼武

尾列大山住兼武

兼定

近江大掾菰原兼定尾列住人也

貞次

尾列住貞次

氏信

尾列住氏信

一國

三列國崎住一國

下坂

遠列住下坂

家久

早乙女家久八甲波治也相列互列住也

清次

相摸住菰原清次作

康綱

越前守菰原康綱入道武列於戶作也

盛重

武列下原住盛重

照重

武列住山本原住照重

照廣

武列下原住照廣作

正重

武列住正重

正永

武列住友永正永

兼常

武列神田住兼常

壽命

義廣國住友壽命

壽命

丹波守友永壽命

大道

陸奥守大道

英俊

河内守友永英俊英次九子

康重

武列下原住康重

兼盛

武列住兼盛作

兼永

武列住友永兼永

壽命

上野守友永壽命

壽命

河内守友永壽命

陳直

三河守大道陳直

兼衡

三河守友永兼衡作

信貞

伊勢守友永岩捲信貞

氏信

氏信岩捲

真定

信列住真定

守勝

野列住友永守勝

長國

真列會津住長國

綱房

真列住綱房

兼長

丹列室友住兼長

守貞

雲列住守貞

忠貞

雲列住忠貞

氏房

信列國氏房

忠次

信列住友永忠次

勝定

真列仙臺住三河守友永朝長勝定

下坂

真列會津住下坂

利重

武藏守友利重丹波守友山住人也

兼吉

但列出住友兼吉

吉廣

雲列住友永吉廣

兼常

雲列住兼常

次私

石列住次私

吉國

播列住菴系吉國

義重

播列住義重二代目也

兼先

作列住菴系兼先

懿條

作列住懿條

正國

防列住正國

友清

加列住和泉大掾友清

長次

加列住菴系長次

家次

播列住菴系家次

宗貞

播列住菴系宗貞作

國增

播列住國增濃列波草古稿
惣助也

兼光

作列住兼光

信貞

防列住信貞

清定

長列住清定

家次

加列住家次

景吉

加列住景吉作

家重

加列住菴系家重

重常

裁前國重系住丹後守菴系重常

正久

裁前國住正久

信貞

陸奥守菴系信貞

國繼

裁前住下坂國繼

忠次

大和守菴系忠次

包廣

近江大掾菴系包廣

吉定

信國原吉定

兼家

裁前國住兼家

當國

裁前住下坂當國

下坂

下坂八郎九郎入道

康氏

裁前國住下坂康氏

細俊

裁前國住人後俊

氏信

裁之前列住菴村氏信

下坂

裁前國住下坂作

武國

筑後久留米住菴系武國

忠重

肥前國系忠重

重次

肥前國住重次

廣貞

肥前國住廣貞

忠行

肥前住廣系忠行

廣則

肥前國住人廣則

右衛門

九列肥後同田貫右衛門

信賀

九列肥後同田貫信賀

清國

肥列住同田貫清國

源左衛門

九列肥後同田貫源左衛門

又八

九列肥後同田貫又八

正國

九列肥後同田貫正國

治兵衛

九列肥後同田貫治兵衛

兵部

同田貫兵部

上野介

九列肥後同田貫上野介

重近

隅列大隅郡木下重近

清貞

薩列住清貞

淨長

紀列住淨長

冬廣

紀列住冬廣

長寛

七江守長寛

長次

紀列住長次

直茂

紀列住廣系直茂

直勝

紀列住廣系直勝

安重

紀列住安重

下坂

紀列住下坂

兼宣

住後國大坂住德永兼宣大坂
小てり折

吉作

土列住吉作

下坂

淡列住下坂

安次

隼人住安次

廣幸

丹後守廣系廣幸

正直

石見守廣系正直鎗長刀多作

安吉

廣系安吉

盛外

伯耆守盛外

恭幸

能登守茂系恭幸

吉道

丹後守吉道

正助

馬加正助

信助

馬加信助

政勝

鬼一丸源政勝

氏貞

薩摩守法京院氏貞

貞幸

越中守茂系貞幸

家村

筑前大掾家村

重忠

播磨守茂系重忠

國光

山城位源光

國重

武列下系位但馬吉茂系國重

國次

和泉守國次持表の方鶴丸の
紋切方之也

國次

肥前住國次

國博

越前國住下坂國博

國次

奥列各取住國次

國廣

後列松山住國廣

國光

山城國任人二村九近源國光

吉宗

奥列住吉宗

吉宗

二字源

吉行

二字源陸奥守とハ別人也

吉貞

山城國茂系吉貞

義氏

阿列住義氏

包廣

駿列墨郡包廣

包久

武列住包久

兼植

賀列住兼植

兼春

賀列住茂系兼春

兼房

常陸守茂系兼房作

信吉

武藏國茂系信吉

信正

水原大掾信正

信屋

和泉守茂系信屋

延清

南於住茂系延清

正友

播磨守源正友入道作

正助

武列位人葦系正助

正吉

真列住正吉

正重

三列伊賀住葦系正重

政安

長峯寺政安

盛命

後列住葦系盛命

盛永

相模守葦系盛永

廣國

大和守廣國重兵衛葦系廣國
抄

盛次

石列位人源盛次作

正直

石見守葦系正直

正宗

古依守葦系正宗

正幸

安穩寺三益物正幸

昌直

筑後國柳川住昌直作

廣永

肥前國住廣永作

盛次

肥前國住源盛次

廣定

越前國住廣定作

盛宗

陸奥大掾盛宗

盛光

早勝義濃守葦系盛光

守秀

肥前國源守秀作

守安

肥前國住市左源守安

貞清

法藏寺橋貞清作

貞廣

羽列兼隆住貞廣

助光

山城國五条住石塔助光作

三全

二字張

氏命

大和守葦系氏命

盛國

石堂盛國作之

守房

肥前國常陸大掾源守房

守勝

野列住守勝

貞助

駿列後田住三河大掾貞助

貞常

越後守貞常

三興

武列住三興作

氏次

大和守葦系氏次ウニ角田九玄傳

壽命

濃列住壽命石切

利重

常陸大目孫利重益壽入道則利
執前則光末葉九切

倫常

藤原朝臣倫常

安繼

大和守安繼

安義

武列任安義

細長

越前下坂細長

大道

三陽額田郡友系大道作

直元

平安城下坂直元

元忠

肥前長崎住四郎元忠作之

清平

賀列任藤原清平辻村清平
壯年の作也

冬廣

雲列任友系冬廣

末行

豐列任友系末行

敬磨

受神勅執鍛冶敬磨作之

標繼

石道標繼

重則

肥前守藤系重則

景利

賀列任友系景利

親信

九列筑後柳川住下坂親信

兼友

奥列會津住兼友

金英

下總守友系金英

金長

後列松山住友系金長

國守

大和守友系國守

國久

友山入道國久

辰成

筑前住下坂辰成

家久

體列國之住家久

勝重

三列任友系勝重

右小あるす中ふまか來の甲乙もへ三也此風去と鑑撰て
終きりのハ佩刀たるへ三也也

附録

魚妙撰

忠道

忠道作と二字也小佛白ひきて上子也後集の圖知れず小出―載後也
菟系忠厚とハ別人歟―文禄比の源治と見―

良忠

井上良忠とに字録小て忠の仕立見ゆ小地鉄細小中佛村あり―と白ひ候く
上子也近頃天和比の源治と見―

助政

山本平馬助政と切天和比の作と見―りもや於本大和也助政は
切―ゆもも―さう能く候―と子あり

國道

山藏守原國道と切祖元十六條の系と切小佛白ひ有て上子なり
江戸ナあり

信重

大黒信重とに字録也忠の仕立出来の藝筑前の圖形乃信重等の一類
ありし切やと角切ひ小―て白ひ候く上子也

盛細

和泉守盛細と切元禄の年号切―も忠の仕立やと桑田は然し似り
あり一竿子う人あり出来も風きて上子也

貞利

菟系貞利とに字録也菟系言田小てもも入きり並母多―り尾法ナ
ありしは林す―三物小あり

菊廣

山城國住平菊廣と切廻之十六葉の葉と切並み小して地札一りしふ
あつてられて見ゆ也

國光

播磨住國光と文字落小切り河内吉田助之入小へ一忠の仕立出来丁子札
小して犯後守國康と能く似たり上子也

天狗

紀伊住天狗作と切り失の根の名人小して世小切り下也一とまじり刀と見ると
重圓ホウホウ地鉄細小うりり一と並み小して位まで上子也

慶次

山城國鞍馬住慶次と切地鉄細小あつ小え小え白ひ保く上子也け作の
慶長の比より上子見ゆり

私包

信濃守私包於江戸作之と切る大坂の私包う子小して三代目版へ一初代の
私包小い大まかたれり子接包永十一代末葉と裏落又有妻まの初代也

國重

依中國水田住大又右藤國重と切七糸布う足者又子小てもまじり一忠の仕立
能似たり去あつて七糸布う作より大まかたれり

重貞

播磨住重貞と篆字と切るけ作地鉄細小あつ佛小佛多く白ひ並て保く
傍れより上子と見たりやせりあつて見ゆの忠也

完昌

播磨手柄山藤藤田完昌裏落播磨三阿孫末流と有け作地令細小して
小え白ひ有て大のつれぬ小て上子也津田國重と一教版へ一

吉道

播磨大坂丹波守吉乃の三代目也け作又祖の風義續りて地鉄細小白ひ
保くすつれぬ多し一銘すくみて小銘也中丹波と号するの三代目也

吉道

播磨大坂大和守吉乃の三代目也地鉄細小りつと一丸大銘の大和守小かたれり
丁子札多し上子也

金道

平安城伊賀守友系令乃の二代目小して當時金道と又也け作地鉄細小りつと
小肌もて大札度並みのつれぬ令乃小札みの一流の物小て上子也

金道

右令乃子小して當時の伊賀也け作又同位版へ一雷除ちの小刀多し一
葉と切りて日本源治宗道と切半代と同

久道

系を江守保久道の三代目令に齊り子也け作地鉄細小大札多く上子也
令に齊り小かたれり十六葉の葉と切る祖又の葉より大まき也

吉道

系丹波也の二代目也地鉄細小りつとすつれぬ多し又う作同位小して又祖小の
かたれり十六の葉と切

吉道

右丹波也子小して又代目也け作も又同位の作也是又多くすつれぬ也葉も
右同形

吉道

右又代目也子小して六代目は又同位の作也少し一宜き方版へ一すつれぬ
並み多し

正俊

平安権任中より代目は他地鉄治く礼み並みなり又同位の物也正俊と
取の伊賀守日最ふれ也也は兼中守の時なり

義道

平安權大佛殿の多し位す令帝冬及子小てお模も保義及と切付他
二作目の久々作小位なりすこれ氣あぬいあくる上も也

鬼道

系統の任人也和泉守令及子伊豆守令及子別名ありしは他地鉄と細小
大札のこれ多しを五へりといひつれの國なる

廣高

大坂の人新泉子慶ると切地つひ細小位有りて上も也河内も慶ると切
實すへき彼の他あり

廣重

右新泉子より新へ一妻作と造れるもの右新九廣重と切あり又同位の
作成へ一地令細りていさみす末の三王の地令のこと

宗次

大坂の任人但馬守宗次と切るは作地鉄細小鉄也なりて後くは地肌有て
新刀のたふしありさる源治也

光雄

大坂の任人城を帝光雄と切地鉄細小佛白ひ有て右友人より上も也

氏繫

播磨國任人作の右小同くは播山藤と切る當時の氏繫の元祖の氏重より
元又代よりとさるる代は六神の上も也

秋弘

播磨國任人の任人といひ丹治秋弘とに字路又切るは作貴すへき
りの小いあり

秋盈

右同位の源治也是又丹治秋盈と切る右同位の源治也地鉄うるみく
よりの妻りの也

祐定

依前國任人長舟住横山上野大塚祐定は作地鉄ひつたり細河にて白ひ
ゆる上も也當時の源治の中ふては持まくるもの也

壽光

依前國任人也は作横山祐定同位故へ一少いありとさる源治へ

慶幸

舊列の任人也は作地令細小ありとさる佛小はえきて白ひゆる上も也
鞍馬の重次慶慶ホリ作小位なり

二王

長列任二王一教末葉の中とさるる上も也とさる源治へ

盛行

依後國尾道任人所は盛行と切地鉄細小細並みは常小して上も也け外
其河内辰房叔輩よりとさるる上も也とさる源治へ

永重

二字路は切地令細小佛白ひ有て右系も田のくはとさるもの也予は
中並也

幣列素名位村より末葉千子末葉錦すと云と刀刃見る所なり

正重

尾張國住伯耆守菺系伝き三代目作又祖同位の也云一ハ云と云一
忠の位云又云一に代目又代目も云一云と云作と云方菺後の法者と候

信高

武列右雲の二代目當時の是ハ云云六代も及云一云祖と云一上云
云と云の字候云と云一云と云云一云或云當時の是ハ云と云云と云

是一

武列神田住山城守菺系國重或ハ百國大切の作地洪細小佛白ひ有
上云也別て十文字の繪云のそ名世云一ハ刀の雲すハ云と云一

國重

武列位人也於東叡山麓菺系國吉と切云は他地云大和云一て小佛云と
上云也國重云ハ云一云と云一云是も陰と云多く候云

國吉

武列位菺田を云也作地洪細小佛小佛白ひ有て机物多一
上云也作小黄金と云造る云と云の損益云一云と云也或云云と云

繼平

菺田を云と云作と云の位と云と云と云と云の云と云と云と云
云と云一云菺田の黄金と云造る繼平の云の繼平と云一云

正繼

菺田を云と云の云と云作繼平と云と云と云と云と云と云と云
多きりの也

繼秀

武列江戸神田住一ハ云九云より山下云ハ云ハ云作松目派云一て云
佛白ひ云又ハ板目云一て造るハ當時江戸の一人云一云りの也

保則

武列住國住と切る云重云の才也作地洪細小佛白ひ有て國吉同位
作也百國入道小ハ云と云と云と云と云と云と云と云と云

國住

江戸位末葉の作と云ハ云と云一ハ云法橋寺某と云の云と云と云
モ作と云と云と云

法橋寺

武列江戸の位人菺系國吉と云字派小切の作地金云と云と云と云
云と云と云の字候と云

國正

武列八王子の下系教葉多と云の教子孫の派云と云と云と云と云
と云と云と云と云

下原

武列住照及ハ江戸云と云小位一安永中下町ハ候住すは作地洪細云
小佛白ひ有てと云と云と云と云と云と云と云と云と云

照道

真列岩城位之祖ハ白子位と云と云と云と云と云と云と云と云
と云と云と云と云

國虎

右月所の位人モ云祖ハ菺後云と云と云と云と云と云と云と云と云
と云と云と云と云と云と云と云と云と云

真則

安倫

真列仙臺の位人叔代き御のすー初代の介はも作と云へ

國包

右日玉日不の位人二代目の介はも作と足す也も位連也

潜龍

江戸市ありし地鉄の落又下南町の江戸市の記りの也さのこ
上は小のあり

真資

赤真船置住真資と切地合細小札おして小もえ白ひきり上も真則
小はさしは日玉のおとひは

真平

赤真船置住真平と切忠也より上も真則小能似り地鉄細かして小もえ
きて白ひきり上も也真列のり人

國康

山本伊勢守國康は越前國住人也作地合細小もえ白ひきて上も也後集
かー伊勢大掾友永國康と日人

兼若

加列金海住兼若と切享保の年号ありの凡二代目り代目細ら
地鉄ひつりあり佛小佛もて傳れ上も也加列小はか叔へ系平
も平陀羅尼木の末葉の中上も多ーと也國の人小より
上もありはありひ月内へさる也赤洋教不記

下坂

越前國下坂正則重高兼采も赤一作と足るもか

勝吉

勢列素名勝吉武藏守大切ーり平り見ー孤ハ別人と足へり中並み
小もえ白ひきて地鉄もりり上も也

廣宣

伊豫國住人大例小住す地合細小の之流り小佛白ひきて上も也筑後
國房も作は似り

重包

筑前國住人系田助丸重包の子也又同日流りして作ハ大かとれり也

高田

豊後國高田叔人末葉多りへ一叔母へ

本行

肥前唐津河内吉原中村之祖ハ先叔也又妻一當時ハ二代目小
大原家小流り下野國古河へ叔位す以才小かとれり也

真了

肥前平戸の住人也其叔のり人の志るハ猪れり上もありー二代目父小とれり
凡に代りりもりり二代目以下ハかとれり也

忠國

周塘國住人也信濃大掾忠國と切叔代もと足へり予延享の号切と
足る之祖大國とくの上も小ありは忠の仕立之祖のこ

忠吉

肥前國の役人也是六代目少してをいさかき又肥前國道にけりかきと切地鉄細小佛白久有て並母多し上も也又代目ハ後集又凡也

忠廣

肥前國忠廣と斗り切り又代目忠吉老後の作あり地鉄細小佛白久有て並母の上も礼双の置り也

正廣

肥前國出郡守の二代目少しくまりの也け作地鉄細小佛白久有て並母礼双又上も也三代目ハ治致也号以當時之ハ又代目也

正房

薩列住氏房と切丸田兵右衛と号以國源治の流散し後未列信少將せし伊豆守正房又少して薩列新刃の者者少して携れり上も也正房同位少し

正房

右の氏房の子少して丸田兵右衛と号一伊豆守少但少薩列住友系正房丸伊豆守正房丸切地令流しり上も小元白少し一は作薩列源治の冠り也

正房

伊豆守の子少して氏房の孫也丸田孝兵衛と号以薩列住友系正房と切作又伊豆守少似ておとろくとの也

安行

薩列住人少して權口之孫也号以波平大和守平安行と切伊豆守正房の末子と為て先祖正國の大和傳少列傳と名乗て是少は以流しる也正房同位也

安正

右の安行の子少して權口兵右衛と号一六和傳と号して未列傳といふは伊豆守波平安正とに字少切て上も也小元白少し一は地令流しり也

安廣

右の安正の子少して權口流しる也号一波平安廣と切安周の子と為て大和傳と號し地令流しり佛にて上も也安常より作也

安明

右安廣の子少して安正の子也權口伊豆守と号一波平安明と切て未元尤は波平安廣の子也權口三弟也号以安正と号以安國と號し波平大和守平安國と切也作流しりて安正少者りる也忠分と云なり凡也

安國

右安國の子也權口に流しと号以波平安常と切作又小佛少し一は波平安常とに字少切也

安氏

安常の子少して安國の孫也權口却之返と号以是又波平安氏とに字流し切也

安周

安國の子少して安常の子也權口に流しと号以波平安周と切作也

安克 按口字大馬と号は安周の子也彼平安克と切又忠のくく作はくく一
安氏曰位叙(三)

安代 大和守安仍の子薩列喜入郡喜入住は馬首平安代也作のり位列小是
安人と法入の一年と称は

安貞 安代の子山藏守一年安貞と切は作又小似て大小おとけり又作のとく
地令法りしは

清方 薩列住人小て右の安貞の子也伊勢守海系法方と切同訂定の上系と切は作
安貞小同く京の伊賀守金屋の子と承一た安貞よりか一は宜さく

安有 薩列住一年安有是も安代の子小て安代作又似り清方よりハ
宜さく見へり

正清 伊豆守正房の子小て宮原法太馬と号は系圖小の官を又と見へり後ハ
正清法太馬と承りて正清の号を又と改りり作のりハ位列小妻一

正近 正清の子也又系法太馬と号は作正清小似り列位のとく一は年のはハ
弓削友作と云一は後集の況不審薩列住正近と切

正良 右正近の子伊地知平寛と号は作正清又かとく上の子也良の字小見は
薩列住正良と切尚時の源治小て元年正良お人侍て上も也

清一 正清の子小て奈々日本左藏と号は薩列住清一と切一代源治小て後を
を正清のりの上も也

忠重 薩列住奥和良守也秀興と切一は年のは作也位列小老後の源とせ一は系圖
見ざる前も記せ一故也麻也信城下小住す也國人号と奥と呼ぶ奥小馬と号は

元貞 忠重の子小て大次郎秀信と号は薩列住元貞と切作忠重小似り故て奥一家國人
殊小秘系する也

正平 元貞の子小て奥小馬と号は是又正良元平小かとく上も也忠重の作よりハ正房
一家小似り薩列住正平と切

國平 奥越兵衛と号は薩列住國平と切後集に秀貞の甥也と有按小是小てわありし
時代忠重の時小見へり

正貞 奥小馬と号は按小忠重の嫡子小て元貞と見ある一は拙らの子あ一して正平と号
せしも是か正貞と上も也故て奥一家の類の名人也

國貞 薩列住國貞は陸川某と見へり後集の奥孝太馬國貞と見人あるも又お人ハ
不審は他國平曰位の上も也

元平 薩陽士元平と切は作起て正良の作又似て侍れて上も也國人云陸川若刀太馬と
号は上も子と也おは元平のり不審

正盛

薩列任盛一少刀と見るの系承ふは是又士格の人愈小造れるは方作小似たり於て彼下士格の人刀初と造れる輩多しと也

重鎌

大隅國住人小て重鏡又也此後孫大隅國住人の隅列任と切高隈郡東江野鳥と号し云字作と作の困人高隈郡の聲と云は作重鏡同位旅りの也

重吉

隅列任重吉は重鎌に代の孫小て重近と云作は又小月位也重鏡重近は後集不出る故爰小略し

國次

日向國住人國次の姉川某と云國義の子故一別人の國義の子也後集不出るは忠と出て姉川女小のありは國度の信也といふあれは國次も厚忠の子故一厚忠と云又大坂井上真改と云人の國平也真改又の初代道祖國貞は城川の國度と云人あれは於て日別の國富國義國次末次亦真改の信と云てり云あれは姉川女の國富國義後集不出るは人と曰人故一依之畧く國次末次は作國義の作同位旅り云

末次

薩列正房

伊豆守

正清

水正

安國

大和守

安代

主馬首

忠重

和泉守

正近

正清子

國平

次郎左衛門
惣兵衛

國貞

漆川某
幸左衛門

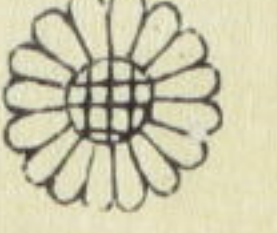

以上の八人後集小出て委細也正房と

薩列派治の上位とて系承の流才と分らん云又家小記也

初相

○津田越前守助廣は攝列大坂の住人小てそろ助廣の子也萬治寛文延寶天和中の人也寛文延寶天和中小造れる小いふは年号月日を切る也若年の他小いふは年号月日小江戸の抄出しあくは田の二字あり去あつる江戸ありこの形親を呼るより江戸跡在小又事小して是もやと一津田年号あり比は申志のさき也仕年の比を申礼れ丁子礼小して寛文の初よりの中並又度並又或大の礼と云らん礼も互於て下地をの礼小して丁子礼又のさうらん礼小換板をぬりてかく又せ若る大坂抄の秘り也

付助廣丁子礼をいふはと見えたり並大のしれ
をうらし礼をいふは小礼小いなり礼をいふは
ぬらさ半中古以来の及ぶにさりのなり地獄至て細い
漢く割くは又よまかゝり火加減至極までとどまり
滅小希代の名人也派の九さくまより甲伏いらくと
見えたり詔真改より文字を記し偽作多し
能く吟味すべし詔真改よりいらく丸くして
すこしとわらふなり横手の筋のふくは地を少く
りらわして沸かすの内のふて細くして白くして
かへ見えぬる半のしり

○井上真政の大坂の住人小く和泉者友系國貞子也
明暦の比は井上の二字并友系あり和泉者國貞と斗
切の年号切しもくぬくありけしは葉の中  け
ことくに切し寛文の初より葉の中  けことくに也
寛文の末真改と切し小の葉の中又初のことくに切也
口傳に寛文の中はより年号月日をよみ字小切也是も
多分と志るに必といふはけしは初のは丁子礼
大いふしと重花のことくすなり也けしは地の子
ましく漢く漢も割くわらくしてあつたすして
する也寛文の中はより中並又細並のしり大みされ

いぢくのか来小ていつきも地鉄鑿爰澁金小なる
いさ爰爰荒澁小澁かえぬく白ひ至くゆしけ此の澁の
名人小て余此の及いさる所ありて能か来さるい
昔の又所入乃ふもおとさる名人あり澁かえの丸かえも
中流より也澁の助廣小似てやうし丸かえ横小て
地よりとり出ひん也丸不うし澁白ひ小て
かへんゆ也かえぬく火炎やうしかえもかえといとも
丸不うしかえぬくも人も親國貞かえ三代めの事かえの
別小なるは

○國廣の系初一条堀川住伝流者也此名人といふ

先哲の流する亦詳也古此の遺風有て殊勝也中世の
或大礼きいつれも地の内へ取つ焼と金く澁白ひかえ
志くれ先の二人小かとり位ひの亦先の二人の及いさる
所より地鉄細小いん中れたあかえの割くはかえ栗くは火加減
聊るる方也澁の板目と見えたり長銘年号切るを
賞教す二代ありといふ澁いさるへさる

○忠吉肥前國住人也同流板代子孫尚時小至く業と
今うす委細系累小見えたり爰小流する元祖武飛大掾
忠廣の初の流也平安城埋忠明書う門人と成く後
名人小い成しといふ澁白ひゆく至極の亦いさる

礼刃の大小かとりけり並刃の能く出来し方の流しこき
白人の忠宣安政より又幸あるの粟田に相小又給小礼
の上他也流の文字教を又七八りろくに切しと又元り
武藏大掾と文成の後の他小の都より出来お多うり
老年小及ひての志る故を幸小や

○明善の平安城の住人小て先祖をそく三系小浪治宗近
く苗裔小て居位の地傳來の流跡あり幸永に教略す
け他起て圃廣小お似り流白ひ流く大和お杯の
風小して並刃へ來小も似り格好尋常に造りり
細並刃の出来お小先祖宗近小似りろくに流し山城

圃西陳住埋忠明壽と長流小切しと答とすけ他彫おを
昔の大進坊行平等の彫お小かとりりお也或は流の
平象眼言彫の小刀柄又は目せお細又は二池のとれ
廣榎の内へいろくの平象眼お入るも際又も成るも
いへり流誠小希代のも利名人也圃廣と同位の他小て
世人の知る事と先とすかとりるにわらひ

○助並の生圃近は圃野洲言木村小て利昔貞宗より出
亦也初へをい玉位助並と切中比文成の後をい言木位
助並と切或はをいお助並と切寛文のより切しとあり
正徳天和貞享元禄寛永正徳の比と長壽しして

一代源治といへ大妻小多一詔の次身を江國位より只
を河野助重と斗切り又其本の位と加へ延喜中より
津田を江とと切り号の右へ江別言本と切流
しりりあり是又別々賞就也津田助廣ふ足勢小
社の名人も中並重或い色くの礼重一やうあり焼
斗ふて足極の取ありの也中心のすり出ー助廣より
かー大筋遠也峯初の角後の丸むしりふてふ言也

○一竿子は是又指津小大坂の住人河野田口を江と大細の二代
万太夫と号初の粟田口を江と大細と切り親と源同姓
志り大栗田口一二字の形大小変り初は多く丁子礼也

を丁子のりやう河内も大和もことごとく際ありありして
同一扱極と搦て焼也後一竿子と切り比の鎌倉傳と云
大礼也け礼の一作と大のりし小ありて丁子の小足と付て
辨り外足り成礼也小小元多く匂ひ主て涼く丁子の
小足へ匂ひくもりありて立也火加減極よくて涼く出来る也
彫物有るはかー火加減拍へるんと見えりのりし又
重なりもつけ化彫お一流小してたより流くさくありと
たとへる系まの彫の意ありて足り也能出来るは小ハカ小
三不根足るは三不玉焼と入る也玉の内小小元匂ひふて埋り
於て降伸てりり一とまり匂ひふてかへる也老後の

此小の地鉄の液がらぬめいぬく見えたり

○正清の薩摩國の人也宮原清太郎尉友系正清は享保の中はより葵一葉と指表祖本へ切りて主水正正清と切り他地鉄細よ青きて産よ小肌の念有りてうらうらく中筋さくして惣神丸ちく造る依之軽く格好よりいかり一盃ぬ夫のうらいつまも地の中へいらく焼入荒沸小沸至て多く滴人淋く賞員す白ひまのこゆがひといへたうさくと白くそ花ち成るのま改助廣も及はるゝ如し然れた白ひのま改助廣小及びすやううへ沸るうらふて火炎のうらく立延る多う一戸のうらやまうらふて少う

丸猪のへ筋遠ん有角むひふてむひの汗もむく同ー
ぬ家たま面と少うする也

○安代薩列谷山波平が末葉こい玉置小市市席と号ひ
享保中より之馬首一平安代と切是又葵一葉とこさる
地鉄正信小同うらてわううえ小流多く白ひまて涼一
峰火炎ふて丸く志まりうら希也汗せし目の上
わうく炭槍垣中よりふてぬ家た小同ー中心の角も
少うぬんとぬら中志のささく軽てありさりの也

○般系慶生團ハ駿河由て後ハ江戸鉄炮町小住す此の事
白珠子評する不委細也えより家業はわうさる故歟

疋のあたるの希也至て流多く地肌いろくのもありて
足りのなりといへ流況みて流さずなりいふもりの
深くして古化し足ゆれた紐のたえは流くいふしを
ちとんゆらるるより足分時の家上の化といふも河は
世より由る下ゆ急なうくけ取出すのこ價をた放仍物
至て多し鉄炮の流小は流亮と切て書判と居る也

○席徹武藏國住人長曾祿興里入道也地鉄にて細小
流く凡新刀の中地鉄の流さる席徹小及りの多かりは
小小え多く白ひ流くるせちり白し火加減むく東國物
疎表と上也おろく切るといふたもるべし流猪もかし筋遠

角むのふして宗の中より切中より也流細たり子小て
ちりくとをきて足の中也た子の打留る足下よりのも也
魚尾敏系慶の神文傳り世小多し切者よりてよく
吐味すべし小流あるもの放似せお能うつる也

○國重は依中國住人水田大月興又師と号し水田の
三代目ふして大々國重を切しけ化先哲の詳也を
荒流小流至て多く白ひ流し地鉄の志はり羽二重のとく
小して赤く流く足の中也又地肌一面に別重と足るがたに
何り赤まりより放あらしむるあらしむる又神の肌顯る
と何り是は次とすし何りし多き火を也又八九く

あぬりゝるも何りおたのあゝよえむ子よと焼入ゝる
とるゆゑおるあといひ人ゝるといふ笑ふべし也地子あし
やけ残りゝる所は折る事ゝるべからば柱も元むゝ流は
いやゝゝして六のむへかゝ祖えより降まで次才ゝて
むゝあゝぬの多り正ゝく小小え小てと下への出来
おゝるゝとよゝゝとすべゝ後中困水田任国重と切とる

○重義の山城國西陳の明書の子也といふは地多ゝの字路ゝ
裡忠重義と打也明書ゝの能言ふて中並ぬ不川もて
取くや紀入ゝる所もゝる地子ゝの國廣國安明書ゝ京へはるゝ
お似ゝり不ゝゝ大和おのんゝる彫おも親ゝかゝゝず中心

こゝりやせり小てゝ際至てえの也け能世々稀也

○國輝の大坂の任人中河内才小て初小林集之進國英
と打中は小林伊勢也玉輝と打元禄中より八只伊勢也
國輝と斗り小て忠幣形小造也幕治寛文延享天和
貞享元禄中の能へ地鉄強くいゝみてあゝ子え小造多
白ひ至と強く並ぬ礼ぬいゝく小ていづせも花や成る
か来多ゝ一老後貞永正徳はゝ及びて派ゝる小ハ精カ
養ゝるゝや地鉄の志ぬり甲斐あ紀ぬぬゝぬゝぬのた子
さゝゝとさゝゝて似せぬぬぬかゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
去まりて白ひあてかゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

○吉道山城國人濃列國の末流と云々世々京丹波也こ
い大坂の丹波也吉乃才小して京丹波也の祖也此處長
元和寛永の際也地狭細く地の内面小流或は流あり
地ぬるべしと云ひて深しけ此より尺長たの希也
能く出来たる大た小と劣らざるをえてまゝなり成る
やとり筋遠るれた大坂初代丹波也祖又筋がす沼も
た下り小切ていふも殊勝也却て簾ぬのんまといへた
け丹波也すこれわらへて入へば中心角む中心の先細し

○吉道播磨國大坂の國人なり京初元祖丹波也見ふて
大坂丹波也の元祖也世々是と祖父母丹波也といふ也鉄色
青くして細く割くうらぐく小元ありま白く流して
すこれぬの名人也世々すこれぬと花火のさる板より
人もはむた余人の及ぶる亦あり割く花や成るの勢力の
也とする下小ていやはむるまわらば大掩振して白く流く
およく切る也を撰て指料とすべき也落平たうの小して
浅く中心角む子大筋遠るを祖えすり出の下の
小筋遠るして長く大筋遠るぬ也中心の角の面と云也
元丹波也京初大坂初代の中支元祖の格別ありの也
○吉道播磨大坂の國人大和也の元祖小て大坂元祖丹波也
才也明暦万治寛文の際の化多し丁子社との名也地鉄の

別々半片作小及ふまのまづびおて能く出来たる重花小
礼とて新く二つ並ひの玉を焼入てそと入り成り云は小
及がくけ者乃と中河内國助友人の形小ての二文字と
いふまの也中河内と云ふる小は信る中心角む子小て
面と云ふは平た子小して銘淺しやせり小助遠て
中心の位立辨く外上も也

○國助扱は玉大坂の位河内吉の二代目世中河内と唱
辨く外賞就すけ作上もといふ半世も普く知れり丁子礼の
さだにとぐく玉といふ記るんもて二重丁子也大丁子
小丁子逆足富士見形礼といふくの礼もかよとの

丁子礼も玉のんいづもまも一平平た子小て浅し角むの
角少一面と云ふんも中心先より寸上小て四方より入て
外に折る形姿也祖之の重みの大和初より也

○照包扱は國大坂の位人越後也包貞の二代目也初は
才子か一と後聲こせ一とてけ作延慶中ハ只越後也
包貞と切天和ハ坂倉言々進照包と切也初ハ文成
と稱して後云々をと改る最後の遠未洋地鉄おて細小
小は元荒流多く白ひの漆さるいふべからば仕方の他ハ
丁子礼多一延慶のは造りるハ廣重双太のハ大さう礼
いろくの扱扱もては田助廣の巻もありの也扱れども

地鉄の志まりうらひひ白ひの爪助廣へ又捨別の下もか
換候の花中なるゆい彩口の随一なるべきもの也

○重圓ハ於南紀重圓造と切る是又支那の書又偏正所の
じ〜中並み細並み〜ぬく大札のぬいづき地鉄細〜
後〜別からびといはるう〜く古風の姿残りて位も
白粉子も末圓後又似るといふなりさといふべきもの也
ろ〜〜三系のこと〜志まりて中心の横やとり山〜て姿
尋常小むい〜肉をとりて見ゆ也

○包保拵津國大坂の位人世また陸奥者と号し和列位
包保と切〜はけ包保の親る〜中心ち〜見ゆなり
椒陸奥者た路の他地鉄後〜村肌か〜るてう〜
わ〜よえ小流白ひまたぬく乾さ〜るもまり火加減の
少〜る〜る〜降ふり〜ぬりかき子厚三角小
峯の店り流〜た子さ〜くと働きのあらたう子也
た流〜てえ〜也右字包保の別人也

○興正江戸の位人長曾孫奥里ウ才子也多く長曾孫
奥正と又字流也け他地鉄の奥里入る〜同ド〜わ〜沸
小流白ひ流〜中心の仕立奥里小〜大〜な〜り路も
た子さ〜る〜中〜り猪子〜少〜筋遠小也中
角小〜て少〜め〜とぬ

○國安ハ平安城堀川國廣ガ才國改田人然一ハ別人然
未詳ハ他地鉄より一國廣ハ似り出来申由ぬ
礼又其地の内ハかきりて湯走リ湯やこのこと一ぬ
砂流^{すなが}りてえり也是又火加減少一なるんも中心の
仕立國廣ハ相似り

○國傳山城國傳人越後守友系國傳と切又國傳と三字
銘も切也是又中心御本起て國廣ハ似り火加減も同く
少一なるんも廣由ぬ湯走り出来多一ハ大礼ぬ
のりれも志多燒のんハ由廣ハ似り流白ひさの流く
あはれを沸多くるといハたより一といハさ一

起て國廣の一類ありのさ位きて強からざるもの也

○正弘ハ山城國傳人少て國廣ハ才國改ガ子なりといり
國廣ハ甥とるよりて考る國廣ハ代と勤事とといり
大隅守友系正弘と切又ハ友系正弘とは字様も多一地鉄
細よりり一細白ひ流細由多一源治の位國廣ハ
劣りた地鉄の志まりハ精きより代源治つとむると
りよのたもるべきハ他世ハ希也

○義平ハ山城國東山祇園下川系兼水の井の邊ハ住す
ハ他の先板後集たる委一ハ初ハ平安城住員平
とオ東山住義平又ハ壽忠傳二郎員平ハ打一大江慶隆

と切りのち也慶隆と斗りも切り也其外りあくの流は
ひも也地りひざんりりと松目の堅肌一面あつらんれり氣
十ふよりりりりく又の板目振りてよくつまりりりり
ありいつせもぬの上むてつぬりてうりりりりりりりり
かうりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
礼多り後の大礼大のりりりりりりりりりりりりりりりり
花中の成りの也けりりりりりりりりりりりりりりりりり
い大振のふん下りりりりりりりりりりりりりりりりりり
りりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
懸慶りりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり

ひりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
みてたろりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
見下りりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり

○吉道按は國大坂りりりりりりりりりりりりりりりりり
白ひ猪れて涼氣水礼簾ぬ大さるる下子礼とすこれ
ぬの中マ交へて大出来りのい減またよへりりりりりりり
祖えのやさ出りの重ぬの取親の作より長く銘親をりり
大銘也

○包保大和國位人小て包保の元祖也け他を長元和寛永
の際の化と見えりりりりりりりりりりりりりりりりりりり

この地地鉄強くうりくわす沸小沸白ひる是の
火かろしるるもの多し一諸の文殊障奥也又ハ障奥大掾
とも切也中心也より茶又出す包保又同一

○貞則の井と吉改がつ人鈴木加賀也貞則也此他地鉄の
派至て細よりうりくわす沸小沸もて白ひ出てゆく其
流きろめさいさみて吉改のこくも也延喜天和貞亨中
おしりしと賞賚すはさよおしハ掾別任貞則とお
まはハ出来りの希也又元禄貞則へしりての他風去
よりそろ劣せり中心の仕立吉改くもて跡のすし出
助廣とらうりしり出来りのハ中心の双方を丸くする也

りし吉改小も候也子孫代々貞則岩城は位すに
○治國ハ掾津玉大坂の住人小て井上吉改が門人也ハ幡
小窓治玉遠と切小窓治國と斗りもおしハ他右貞則又
月一柱を替けてより出来りるハ吉改は同一さりのあり
多も大礼大のりれ也あも元小流もて白ひ玉て
流し中心のおのむも吉改の風がしてせりさうくと同じ
卒たりも小しして諸もとく浅うして大和吉吉乃が
たり子のん也吉改代賑治と貞則治國國平も
勤しとしも也

○忠重ハ薩摩國谷山波平の一家小て貞和泉也貞次

秀真と切し真和泉と曰く成り一故に別小出さば
け他地より狭く白けて大領地の内一面より入るる
又小領より白けて能く志すりしるもいづれもあま
切るといふたもるべし火がらん程よく是なりと見えり
秀真とまりしは壯年の作あり能く知る人よ尋べし

○真了の大坂位人後肥前平戸松浦家百きりとなり
井上真改のつち弟して去肥真了と切り也け他領もたむ
真改の風儀よりうつりておとりの也中心の位立真改
老後の中心より候也なりしもよく似たりを同族叔代
お績して當時も子孫をといひりをはのまの元祖に似る
その小のわらび大又劣りり

○吉道系丹波の二代目也十六葉の葉を切け他すれぬ小
流やさし地のうち焼入てすれぬ小のりもてあつ小元
小又元白ひゆくつよくして又も也二代目代目づきも
十六葉の葉の目どりた他の位二代目の大ますれり
初代ももかきりこるべし

○四路系一条堀川の四路が才子出羽大探友系末四路の
初代也け他のおりしに於て四路は似て四路よりも地鉄
強くして又幅狭くしりて大やぶる礼多し
中心の位立やとりましく四路の位立より又い中し礼あり

國の大札のこゝに記をとり是との次とすべし能く出来しうハ
末國後の札のこゝに記をとり是の路の文字行下り成とすべしと
すべしやまりの大の助遠成りの二代目也

○國助大坂河内者の二代目小て六と巫と号は佐中河内小
おとらぬおまゐりけ佐と中河内とのえ分けたりとの
細く保子の三代目也國の字も短きもの也丁子も能く
掃てやく故又少し密なりや也火加減かゝて白ひハ
親ももかゝらずえゝり丁子も大さ也やまりの
拙也一の横やまりのり中河内なる一地鉄の志まりハ
親よハかゝり

○久道系於江中源久道が二代目小て初ハ嫡子金也所久次と
切りて親まをられて親がとく切る枝葉と流のとよき方父子の
支派も多しけ佐重ののれいろくの札いつを地鉄
能く志まりて小まえよく白ひ至て保く京亦大札の
随一成し一合也所札一流ののあてたやう又大坂の津田
助廣け久乃坂倉照包ハ大札又二幅射たし一

○國光ハ佐中國水田大月與之所が才小て掃別天流位す
仍て世とて故も田たし保は江戸へ下りてハ又江戸も田た
し保也け他地鉄至て細又大ののれハ札の足とやさ入あし保
小保多く白ひを保く又ハ地肌一面はわりの巻たきまんの

板目のこと記のあり大坂までおーいおまりのを多し
江戸まで搬へるよの地鉄の志まり官かゝぬとも

○正則の薩列の位人小てけ他の正法より古き小や地鉄能
志まりて小沸白ひ涼く尋常なるもの也中心の仕立を
正法に似たり薩摩派治の中小ての沸細おーて白ひ
とやうとふゆるとええよりを好へるもの也

○國平の右月正の位人眞忠重が甥也といへけ他眞
和泉も大重の他のこと候大重よりの沸あゝゝゝ
又の成るものあり安國よりの地鉄の志まりすれより
中心の仕立は大重に似たり又地鉄志まりて白ひ斗り

小てかゝるものあり

○國貞は又右月正の位人小て秀貞が甥といふ眞孝等と
号はとあり是又わゝまえの上も也中心の仕立は
右も同様

○正房の薩列住正房と切丸田熱たぬと号し伊豆きた
切るといへる水正より古く見ゆるものありや正法が
源又親までもありつゝを懸お似て地鉄の志まりの正法より
小て細な流すまひのびる流いさまゝゝゝ白ひも涼
能く出来よりの大月をみ寄が他の上出来りのことゝ
地鉄の洞ひのあり田よりとえの也正近正列おゝ他より

わら沸小沸多く白ひゆくしてとよ也忠重よりい
と一本流べさりのるがう多く又さう放先け而は並く
後の識者と候

○困平の掾別大坂の位人小て井上吉政の人多く之字流
困平造と切る事多しけ他地流細は沸白ひ有て
去肥去りの大坂小て抄一は似て今少しかさうなる物也
とましく猶れさる吉政は能く似たり中心の位立流
吉政の風儀あり

○吉道掾別大坂丹波さの三代目小て兼いさう流流の
平たごひ小て大勅遠やとり中心のみ方角多し角平

小て中角多し角の面とある也け他兼み兼あり礼のよ小て
地流能あまなり白ひ極て凍くすし兼あり小て
白ひをり小てりやうとあるなりしの内は玉やさ有
廻え重み小て礼一の有り小て流と双の中は残し
すし又の兼あり有り也故て丹波さ大和や河内も等
於すし又み丁子み兼水ホの礼の能く別て白ひと等と
して沸とい好む也

○祐困は困の紀別の名堂と較して初の流記伊困祐困と
さう又の困字小てさいのふすけふとさうりさるあり
大坂(秘りて)の伎茶も源祐困と切流房の二字も

賞員すけ作地洪の志すり能うりくわし沸小沸
白ひりて花やう成りの也後集ふは田助廣ま併りと記す
かともるしただけ作の礼は津田といふなり初代の重國の
礼の意味も小林國輝よと礼双の類の併り

○久道系初又振治の一人令は所親してをいふ源久成の
初代也十六葉の系と切りをさくのたり子一扁たり子ふて
さうくと切らる也氣あて小しけ作地洪射くか志すり
國の礼のとも令は所より古風の心為一と入えり
双のうちさうくとは^{せいすい}流るのともすこらる也射ま
りうーの一流るて入るなり也

○忠細は世國播磨の姫路にて系初(少)り西田口末流の
傳と交て称号とせり一竿子が親して忠細の初代也初は
をい大振と切り後をいちと切りけ作多ふの丁子礼よとく
白ひゆく地洪細ふしてさうり丁子礼は大和者
中河内國助等如くいあるは同一形ちの丸さあ
揃ひて包負う丁子小同し火加減のし一形おのよあり
地洪は一竿子よりとりとい(大)振振のたより裏流
浅井と切り半多し

忠吉は肥前國陸奥忠吉と切りて二代目也三代目をい大振
忠廣は長壽寺にて陸奥忠吉の親小先立て死す故忠廣と

改めはは又祖同位の上も小て地鉄の志まりぬの法き本
又祖は越えより別て車ぬの津田助廣が車ぬよとかと
見ゆりのるるうーゆ川よりきてえし也礼ぬの
車ぬよのかとわたり別て犯前飯治の礼ぬの不好よ也

○直道の按津園大坂の位人小て初代丹波吉原が才子
丹後吉原系車及又の三品丹後吉原の兼及と改む
は他地鉄細小て法く大礼ぬのるれ車ぬすれ丁子礼
も利小ていあくの出来もていづせし小礼多く句ひ
法く法く丹波きり風を兼一文字と切是初代也すれ
又能く出来よりの中丹波よりもえしおぬりのる

○正俊の平安城住友系正俊と三子越中吉原正俊た
切なりは他地鉄至て別く園の和泉吉原定り礼の
よく小ていあくの出来もていづせし小礼多く句ひ
いふさお也慶長の号切ハ別て賞叙也

○信吉の按別大坂の位人高井越前吉原信吉が才也
は他は延慶天和貞享元禄中までの人也のるれぬの
井上吉改より大礼ぬの津田助廣よりて造るる
るし減も利上も也ぬのりやうへすく吉改助廣は
似るるとい大地鉄の飯の及はさるるをさるるべし

○包保の按別大坂の位人初代文字と陸奥吉原包重と切

後の右文字小して包保と改世は右陸奥と称する所の是也
は此の賞契白旗子に降又降也降つまじりしもの也
大和の風儀強きり火がんとする方也後より信別
松本水野家へ仕ふと也却てかろの西子く中心の仕立
と小してたろの打取係一

○忠廣の肥前國住人近江大掾友永忠廣と切是利
之祖忠吉が子小して忠吉の二代目平信房と号し寛永九年
父武義大掾死て後忠廣と改といひ寛永十八年より
近江大掾小仕一元禄六年死す時又八十歳といひ廿代
地鉄細小して中直又細直又の上より小沸小して白ひ吹く

なりし又のりまきまわりけ此之祖忠吉の流小で陸奥も
忠吉の上よりへきをけ取へ出せしり難する人の予言をい
二代目の肥前派治の冠と号するもの也初代の上も出(こ)と
志むらく世の称する徳とれ之祖とよと一二代目と以
とと又け此老後小派なるふ出来成ものもろを以
け取へ直りの也仕方の他とよりとすべし

○忠細の播磨大坂の住人小して一竿子忠細が子也世は是と
三代目忠徳といひ改し進と号け此地鉄細より多く大礼也
却て火加減からざる方也是又彫物の上も也と多く
丁子礼の形中心た又又鉄く似る西栗田の口の字

又下也たうの親よりと係り白ひとあらしむ

○金道の平安城の人伊賀守藤原全房の初代小て丸藤長元和
寛永はの人也此他地鉄の危むくやう堀川國廣地鉄小粗
お似て國札のごとく並みと古風の細並み小て小沸白ひ
係り上より取て及さくかさの厚く位よりあなり
又此の外流くまげーさ出来ともを初代小と系と
切りるものと見えり

○正近の薩列の人小て之水宮一頼弓削友他といひ此他地鉄
細まをげーくうをひるてあし沸小沸白ひるるたや
ありの放諸人賞員す中心の仕立をとり正流り懸るを
正則國平國貞正房は正近の同位の作かへさう叔父也故
暫く下へて後の識者と候

○國重の播別大坂中河内國助がう人池田鬼神丸也
播別位國重と切りのぬーは此他地鉄細小て荒沸
小沸白ひ係り丁子札の中河内又似り大札双小林
伊勢守の札のことー中心の中河内よりさう方也
後江府小位ー又奥の岩城へ下りーともいふ
不出朱ありのともあり

○國康の播別大坂の位人小て中河内武茂守玉次が守
伊勢守玉輝も兄也肥後守と号は此他地鉄流く丁子札

を元礼の能く出来しる中河内をかきしびえり也と
火氣をこころと云ふ中心の伊勢の仕年の比の如く
さうりとしてすりめ立てえり也角中又ハ少一肉をもつり
二代目の江府小を任せりといふ是ハ路の文字の回つて
初代の如く延やあぶら

○忠行の播別大坂の位人小て初代の忠細門人也利
播別位友系忠行と切りけ他地鉄細と志まりて重ぬの
名入小ては田助廣と重ぬ小もかきしびえり也
大礼の重ぬ小ハ大小かきしびり中心の仕立忠細仕年の
中心の

○園包ハ奥別園介若林住山城大塚友系園包と切るお
初代也叔代と云ふ初代の豊源小て地ぬ大小松目の
筋肌一面小てえり也神と地鉄割くええて余人の
松目豊源派とハ突り沸さの多かきしびりも味かきし
源以房と切る二代目も若長路の園包小ハ大小かきし

○清信播別大坂の位人足田大無清尉と号けけ他地鉄
細小白ひ味く丁子札也又小えりて重ぬのれ大札
もより大坂の後板小ハ初代の大和也小併りといふも
大よかきしびり也清信小更候とすいり人をも謝て
いふ小林兼光をハ我友とて若くは園輝小

譲るとも也すむる人困憊小けるもと流す持て交り
放す伊勢かきへ徳信の懐ふ所の交成也とをそ志と考ふ
交成のそ流小別成るのと思ふの志の九へ三也志うれた
夫石の石人ふのあつさるへ

○右作の播別の人鈴木又藤右忠尉宗栄在又右藤元切る
伎流の墨山小と位せりけ他地鉄細又鉄くまよりて
あつ流小沸多く匂ひ涼く大のつれ直母大礼いあくの
出来あてり流やう成りの也あふさるりさくかき流く
二つ字小て梅極流血溝とかきて位よりりの也中心
流の形やとり小て位立りり也

○長青の武列住人小て小笠原昌彦長青又ハ
長宗元切るけ他刀の形細く直めよ造りて松目派の
肌地又たよるまで細直母多し小沸小て匂ひあ
位よりて余の形日とい大小異也仍て好む人多し
さりやとり流細字也

○細宗の奥別仙臺の右守殿の他小て櫻よ流もるも
いりさるしう白粉子う評書小も出せし故安倫ホとて
地鉄と振りしめ手自母と成りあふと争れハ安倫ホと
他もるも同位の他とけ亦出す能く出来しるハ流微り
他も他より白粉子う評さるりといふさる

○正廣の肥前國河内大振友系の正廣也元祖忠吉の孫
孫七々傳吉伝の孫子小て之祖忠吉の外孫也故小松く
忠吉と切るるのあり二代目忠吉の元祖の妻振吉と
いへば家督の半故をいへば實永十八年河内大振小松と
系弟小松と見えたり肥前國住人忠吉と切るりの河内く
忙小切一忠吉ある考一は他地秩細小佛白ひ
あて直みの上も也礼母のかとあり九代目と号實の
二代目忠吉の正廣小て平信房の三代目隆興守の
四代目とて然(三)りの二代目の河内と切る也

○行廣の肥前國出羽守の廣也孫七々傳吉伝の次男

右正廣の才小て九歳と傳と号は實文三子出羽守小
任すといへは他地秩細まつく荒佛小松もて
白ひ源く礼母直母の上も也正廣の廣は同論
叔代は三代目より次男かたり也祖元は文字切ると
初代とする也礼母の肥前小て一人の上も也
○重次の山城國鞍馬住人小て世々くは重次と稱す
慶長年中の振治也は他地秩細まつくわす佛
小佛もて能く出来たるは長谷部國重と傳り傳り
は他多く振まり寸尺長さりのと見え古人の
傳りる所又志り

○国重ハ備中国在原住民人小て水田ノ元祖大月与等
祖父也、多く伎中国在系住、重と切也、此他地鉄
切つてありてあり、又小流りて白ひ、一慶長はより古
○国重伎中、国重と切、二代目、三郎、四郎、五郎
与之、弟、父也、此父又同一、路中心、又子代、又子代、
○忠、国ハ肥前、国住、播磨、大掾、忠、国と切、武、大掾
忠、廣、末子、の、廣、貞、子也、地、子、細、又、志、ま、り、て、重、の
上、也、此、此、ハ、不、知、也、是、又、同、路、代、を、末、ハ、小、者、
より、終、り、終、り、終、り、終、り、終、り、終、り、終、り、終、り、終、り、
○国、次、ハ、薩、州、麻、里、府、住、友、系、国、次、と、切、此、地、鉄、
切つてありてあり、又、重、粗、波、平、安、国、又、仲、り、保、
安、国、より、は、ち、り、
○国、重、ハ、伎、中、国、水、田、住、国、重、の、代、目、興、之、弟、子、小、
大、月、猪、之、婿、と、号、此、他、父、興、之、弟、子、終、り、終、り、
白、ひ、も、親、之、弟、子、如、く、ハ、わ、り、と、一、大、月、の、多、
○忠、廣、ハ、色、に、大、掾、忠、廣、と、を、り、切、り、て、肥、前、國、住、
き、ら、に、隆、興、也、大、者、子、小、て、代、目、也、之、後、六、子、中、
す、と、い、り、は、此、父、祖、の、系、也、終、り、て、重、の、上、也、白、ひ
此、と、い、り、は、地、鉄、の、派、ハ、と、り、終、り、終、り、也、是、又
是、年、の、比、ハ、大、者、と、切、

○国、次、ハ、薩、州、麻、里、府、住、友、系、国、次、と、切、此、地、鉄、
切つてありてあり、又、重、粗、波、平、安、国、又、仲、り、保、
安、国、より、は、ち、り、
○国、重、ハ、伎、中、国、水、田、住、国、重、の、代、目、興、之、弟、子、小、
大、月、猪、之、婿、と、号、此、他、父、興、之、弟、子、終、り、終、り、
白、ひ、も、親、之、弟、子、如、く、ハ、わ、り、と、一、大、月、の、多、
○忠、廣、ハ、色、に、大、掾、忠、廣、と、を、り、切、り、て、肥、前、國、住、
き、ら、に、隆、興、也、大、者、子、小、て、代、目、也、之、後、六、子、中、
す、と、い、り、は、此、父、祖、の、系、也、終、り、て、重、の、上、也、白、ひ
此、と、い、り、は、地、鉄、の、派、ハ、と、り、終、り、終、り、也、是、又
是、年、の、比、ハ、大、者、と、切、

日本書紀卷之四十二 皇極經世一

○國虎ハ東ノ奥磐城位人根本和泉守茂系國虎ハ他
地秩護ハ大札廣重母ノツレハツル井上三政ハ
ツ人小テ鈴木加賀守貞則トテ其業トスヘハツ
佛モ三政一親ノ意味モテ白ヒモ深ク貞則ハ
大小カトツル也白ヒモ同然也叔代カト見エ
貞平ト切リツルハツル

○宗重ハ大坂の位人常陸守ト切リ初ハ播列ノ小テモ
オツルツルハ他地秩細又オツル小元小流モテ白ヒ
深クツルハ礼ハ宗茂ヲオツル也ツルハ大肌
物モツルハ也去ツル肌ツルハ出ルツルハ

○國貞ハ播列大坂の位井上三政ノ父小テ初ハ於
大坂和泉守茂系國貞他ノ或ハ和泉守茂系國貞ハ
切リ之和寛永正保慶安ホツル号切リモツルハ
堀川國廣ハツル也地秩細テ流白ヒモツルハ
於大坂ト切リ小オツルハ

○助廣ハ播列大坂位人ハ國ハ播列也津田助廣ハ父小
播列住茂系助廣ト切後ハ越前守トスルハ二代目小
津田ノ二字ト切リ壯年ノ他小ハ流ツルハ也ハ他
小札下子礼多ト地秩細ハ小流白ヒ有廣重ハ小オツルハ
多ツルハ世ハ津田ト切リハ助廣ハ津田ト

切中助唐らま小のわらら後裏洛小雙の一字と切又ハ南愛
鉄を作るホの切しもを根元播別津田才の扱打
ありし初代國助傳と交しより上と成し扱
津田の祿号と控しりといた二代目甚く東海内の名人と
かし一差量故小や津田越おきときりてを名世小きし
仕の比播別位友系助唐と切しハ不出来成扱多し

○輝廣ハ尾張困住人小て肥後守友系輝廣と切る後ハ
福清家の派治と成て是播別廣治ハ後位す埋忠明事あり
ハ人小成しともいり播磨と輝廣と父成ハしけ地鉄
さらうとして昭善國廣等の派又似て中沸小て能扱ひ

自ひ源く位ありて上も也播磨とよりハ播きる也
中心の形播磨と同し昭和九辰年の火又かまて写座也
中心の押形失ひ也後又當るゆあく世小多かう方と
うらむるのこ

○包貞播別大坂住人後後と包貞の初代小して
言え進る傳也仕年の傳ハ播別の位包貞と切りけ地鉄
細又別ありて自ひ源く多くハ丁子礼也かさひ厚く
三角成る扱多し

○安定ハ蔭別位安定と切りけ地鉄細又して地内
一面又沸きるて自ひ源く上も也安伏ホと是祖あり

凡そ長はの他と見えたりゆきの火小針押形も後失す
○為康の指別位富田陸奥守橋為康と切るは他地鉄
細川にて志すり能くわづ沸小沸白ひもて上も也
康廣より記^{さい}牙^{さい}みもあがり大札あるとよりと根元
記別石堂の一家康廣より人成り又の才也たいたり
去依將監と切りもろ

○歳長の平安城位人小て陸奥守と号以後の勢別
安濃津(秘)と也け他地鉄細小沸白ひ位きて
のれ中並又の大札みもあがり格好位きて上も也
中心長くしてやとりた子のみ小て利上も也

○弘幸の平安城の位人小て堀川は位すといた平安城位
友系弘幸と切り也け他地子細よく記川より小沸
白ひもて能く並又のれ多しと也困廣の才あがり
右は淨すの外小を辨れり上この派治多かる
そ志と活くしてをけと造れるまの小の才あがり
多きより必せり恐くハ予管又の遠多ありし必
たの以才小なりむくは中の下作と定る中よりそ
撰りて指料とす(三おろ)

新刀銘鑑目錄

一埋忠國廣以下京鍛冶	一ヨリ	六マテ
一真改助廣以下大坂鍛冶	七ヨリ	二十五マテ
一扁徹以下江戸鍛冶	二十六ヨリ	二十九マテ
一東海東山两道	三十ヨリ	三十一マテ
一山陰山陽南海三道	三十二ヨリ	三十四マテ
一西海道並不知國	三十五ヨリ	四十二マテ

白砂子彩刀銘及小玉銘忠悉く出後集小玉才吾と記
 主亦変れりとして後年と追て世小偽他多く細とおす便り小
 之一仍て偽作多かりし物の銘忠をりしと今敢て示す

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page, likely a list of entries or a continuation of the index.]

一 新刀の中も偽作と巧ぶひつゝ其柄の先折の俤書と是こして
其猪券と誤申すものこ

一 新刀銘盡の支集出て後の派治等予定及ひ見及ひつゝの定小
筆記すけ後之に追加すへ

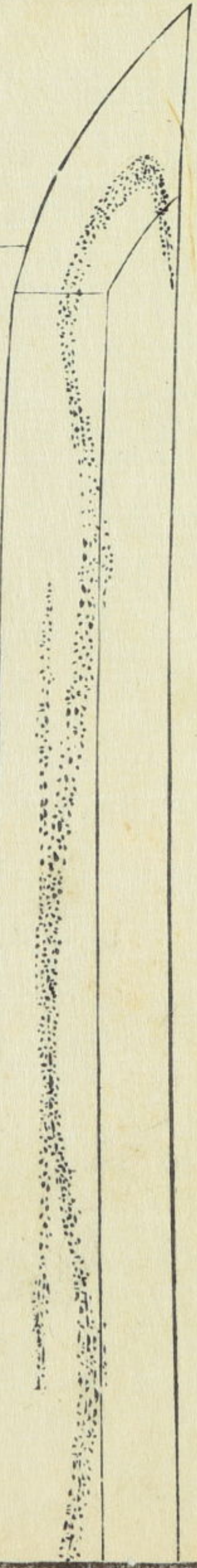
一 新刀銘是支集小偏する物有り及ひつゝ追加して其作の
猪券と僅小筆記す

一 此銘濫の圖に才混雜す又歳七乃の部にてふるへ

一 寸度位と定るの次才古作の書と倣といへ古作の書小は其才
解多しして其実ハ惑と成るも今新刀の位をセツ小分ちて
又其中の才吾と撰ひ用ひ是利短と相すといふりの也

又鑑大槩

大ノタレ銀筋砂流付



大龜文

真改市徹津田助廣右ノ又勝レタリ



大龜文

照包ノ乱レ右ノ心ナリ



俗ニ道ラニ乱云

助廣助直ニ右ノ又多シ

中ノタ

諸鍛冶此又多

小ノタ

右同断

重花乱

大坂河内守國助大和守吉道ホノ一類此又名拳有リ

逆乱

同河内守助ニ多

同國助が作ニアリ俗ニ富士見西行ト云也

細直又

三原ノ末其阿弥五阿弥昌所等其外多

中直又

肥前高田多分是也紀列重國ニ是也

廣直又

右同其外諸國ニ此又多又云角徹ニモアリ

キハヤキ葉ヤキ氏云也

諸國ノ石堂皆付女ナリ

二本杉

國ノ流石堂一家ニアリ

丁子乱

忠細國助包貞清信元道ホニ多シ

篠又

丹波守京坂ノ一家皆是多シ

表不動ウラ龍之彫物有ク角峰

山城國西陳住

○埋忠明壽雕同作

角云子

ウラニ寛永三年二月日

山城國西陳住埋忠明壽作

小肉有

埋忠重義

埋忠明壽

角峯

切物埋忠彦作

ウラノ忠廣

丸ム子

城列一条信濃守藤原國廣造

丸ム子

一条信濃守藤原國廣造

ウヲ 慶長八年二月日

丸ム子

信濃守藤原國廣

丸ム子

ウヲ 慶長十年十一月日

國廣

二字ノ國廣板子の内寸刀の如き者も多事よへて以井と直改小くあり 長二尺四寸余荒洲の流石原

丸ム子

東山住義平

板目継張多

平安城住度隆

地合を二敷うふて之れハ松月の肌を肌比せしめて 小えいさうして白の原幅廣くわきり

丸ム子

度隆

長二尺二寸八分案のこれ礼也

丸ム子

本切忠傳三郎義平

至て強き出来也

丸ム子

○國安

大ノタレヌナカシ

丸ム子

○越後守藤原國傳

小肉

○藤原正弘

丸ム子

○出羽大杯藤原來國路

長二尺三寸六分

地合志師りてありあふ少流白の流く流とさ出兼也大みれ又打邊石のりまを掃取らり

丸ム子

又長壹尺八寸二分

○國安

又方面トリ

ウラ九戸
大ノタレ砂流
荒沸小沸

小肉

○越後守藤原國傳

小肉アリ

○越後中藤原國傳

又上カ小ニ九シ

埋忠明壽七十三

角十肉アリ此刀ハ明壽ガ家ニ有テ權左衛門良久系圖ニ添テ送ル忠ノ字ナリ

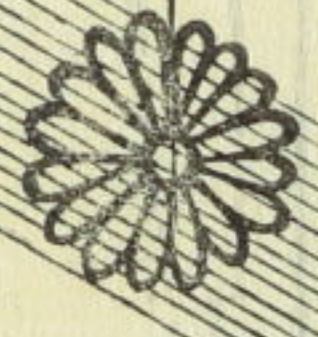
寛永七年八月二十四日

九ム子

慶隆

角ム子

卅波守十二道



京丹波守ノ二代目ナレニ

延寶元年十一月吉日

卅波守吉道

二本此角峯也京丹波守ノ初代カ
大丸ノ如ク見コトナリ

卅波守吉道

角峯 京丹波ノ二代目三代目ノ友作歟

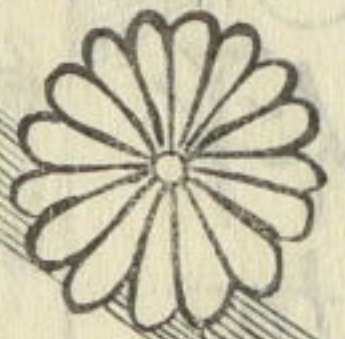
卅波守吉道

嫡子藤七郎

ウラ元禄八歳二月吉日

又三代目代ノ友作歟
角峯

卅波守吉道



五代目歟

卅波守吉道



六代目也上

丹波守吉道

角峯

四代目欵

伊賀守金道

角峯

初代欵

伊賀守藤原金道

二代目欵

ウツ日本鍛冶惣匠

角峯

伊賀守藤原金道

初代欵

近江守源久道

角峯

(父子兩作也中心長クシテ如斯)

久道嫡子源末久次

角峯初代ナル也

近江守久道

角峯

大佐師法橋末栄余
和余守藤原末金道

カクム子

和余守末金道

平安城任正俊

角峯二代目欵

初代アリ

越中守正俊

角峯二代目欵

越中守正俊

角峯又九峯 藤原列侯の扶持人トナル

平安城

相摸守義道

ウラ寛延三年二月吉日

小肉アリ

山城國任平菊廣

角峯六代目ナルニ

廿波守吉道

ウラ 寶曆十年辰八月吉日

廿波守吉道

三代目如彫の名有り

角峯大ミタレツヨクニテノ小沸白ヒラカシ又長二尺守

和泉守朱金道

和泉守藤原國貞
〔小肉峯ノロスリ見所アリ〕〔初代道和

小肉峯の所小足而所リ
初代道和也

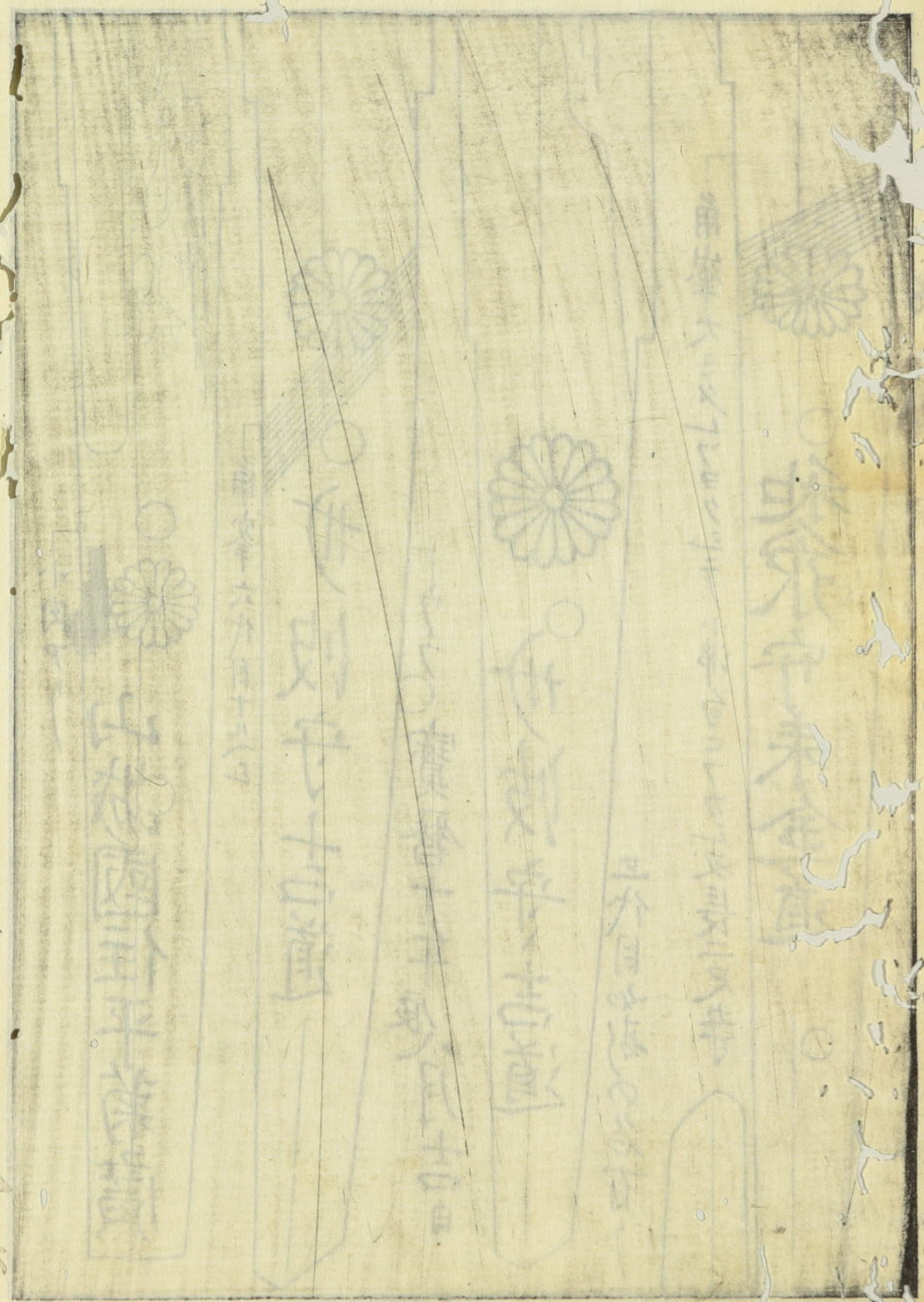
於大坂和泉守國貞

〔九峯初代ナルヘシ〕

和泉守國貞

〔小肉是ハ真改若年ノ作也〕

和泉守國貞

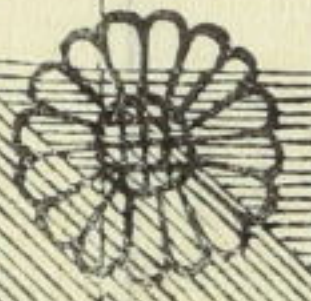


井上和泉守國貞

小肉

キクノ中ノ丸今ウシ小シ

如斯ニ采ハカリニテ年月キラサレモアリ



小肉

井上和泉守國貞

又ノ長二尺五寸二分至テウヨキ也

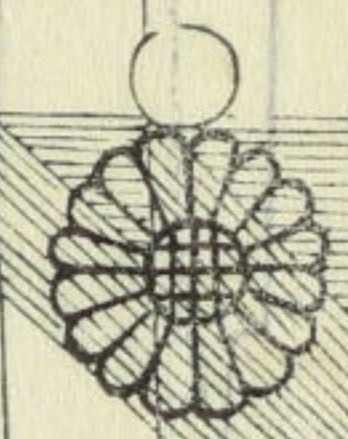
貞。又六多八月ヨ

井上和泉守國貞

小肉

又ノ長揚殘二尺三寸八分大丁子礼

寛文二年二月日指蓬



井上和泉守國貞

小肉

又ノ長壹尺八寸二分大ノ少レクワレタ也

寛。又六多八月ヨ



上和泉守國貞

中礼強キ也 又ノ長二尺二寸六分余

寛文五年二月日

井上真改

又の長壹尺七寸四分中直又希ナリ

寛ノメヤニ多ニカヨ

井上真改

又長二尺四寸九分中直又希ナルハ本物ナリ

寛ノメヤニ多ニカヨ

井上真改

又長壹尺七寸八分半 大龜文

前主ノ名ヲ削トリタル故 年月函ニコレリマズリ アラレ鋒モコレノヒタリ

寛ノメヤニ多ニカヨ

井上貞改

天和二年八月日
年号月日
如此ナルモ百

天和二年八月日

○鈴木加賀守貞則

「ウラ元禄二年八月日

○築加賀守貞則

「ウラ延宝四年三月日

丸ム子

和泉守藤原國貞

國廣カ門人ニテ井上貞改ク父也

慶安三年八月日

肉アリ

井上和泉守國貞

三代目團右也也

北園沿國造

「ウラ天和二年八月日

は作白砂子の禪せし
如く井上とま改り列格
又へさりのなり

奇峯

峯マスハ、如真改也

津田越前守助廣

又長二尺五寸四分大糸文ナリ出来ハ中位ト云ヘ

三日月

角峯ソホロナリ

捕刈大坂住助廣

越前守助廣

又長二尺四寸三分津田助廣文ト云

魚妙按ケ格二代目の仕平の比
如易打ナリへ白砂子モ
モミ也後集小ハ大トイ

雙

越前守助廣

又長二尺九寸二分

二代目若年
の格ナリ

津田越前守助廣

又長二尺五寸二分 大龜文

寛文八年二月日

津田越前守助廣

又長壹尺七寸二分半

寛文八年十一月日

津田越前守助廣

又長二尺五寸二分半

大ノタレヲヨキ出来也

寛文八年八月日

津田越前守助廣

又長二尺二寸半 大ノ名

寛文八年八月日

漢田越前守助廣

又長一尺七寸七分 大ミタレ希ナル出束也

寛文七年八月日

漢田越前守助廣

又長一尺七寸九分 大逸文也

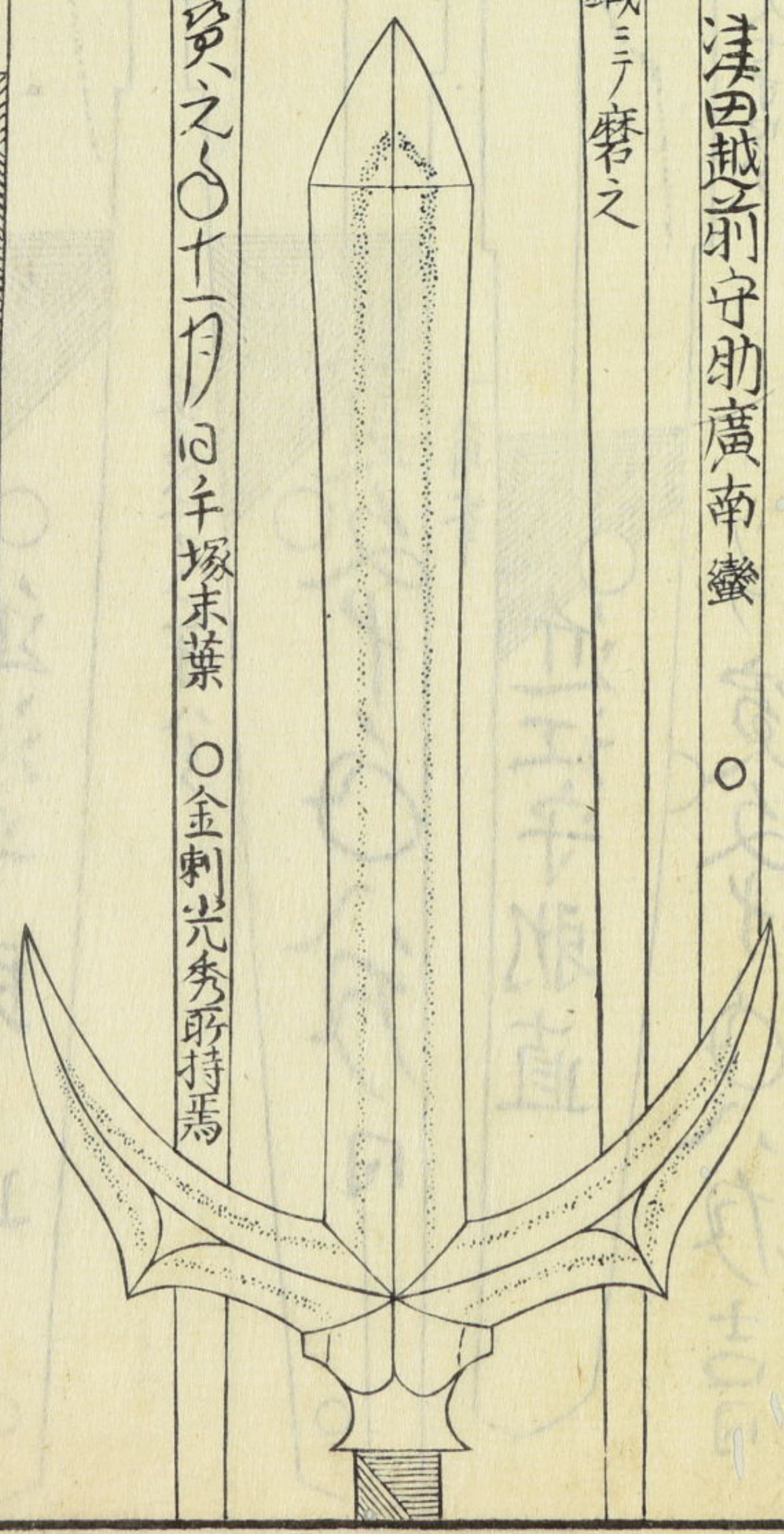
寛文六年二月日

漢田越前守助廣南蠻

凱單鐵三ノ磨之

ウラフニ

寛文十一年八月日午塚末葉 ○金刺光秀所持焉



漢田越前守助廣

如斯ノ字号月日不切ニテ新ハ右ノ如クナルモノ有又表裏面銘ナルモノアリ
多クハ重又地無銘ニテ大ミタレモアリ

近江国住助直

角峯

近江守助直

又長二尺二寸八分

寛文十の八日

近江守助直

ウラ 寛文十の八日吉

又七尺七寸五分

九公子

於模刻大坂以南鑿鐵作之上切シモアリ

近江守高木住助直

ウラ 延宝五の二月日

近江守助直

裏シテ和三年の二月日

近江守助直

天和二の八月日 高木

○津田近江守躬直

ウラ 久享三氣八月日

○栗田近江守忠經

栗田近江守忠經

栗田近江守忠經

ウラ ○ 雕物同作

一竿子栗田忠綱雕同作

上リ抄下リ抄
鎌倉傳大也

元禄六年二月日

○栗田三竿子忠綱

表上リ抄
裏叙也

元禄十七年二月日

○一竿子忠綱彫同作

表俱利伽羅裏樋
鎌倉乱

元禄十二年二月日

栗田近江守忠綱

寶永三年八月日

栗田口近江守忠綱 彫同作

寶永二年二月日

上ノ新裏劔

栗田口一竿。子忠綱

千鶴カ龜寶永五戊子年五月吉日

長刀又長サキス人守家
同中長サキス人守家

一竿子栗田口忠綱 彫同作

指表俱利伽羅裏香箸樋大ニタレ焼也

元禄五年八月日

栗田口一竿子忠綱 五

廣直焼小一テニタレ石直及具也忠ノ事故
写

元禄十三年二月日

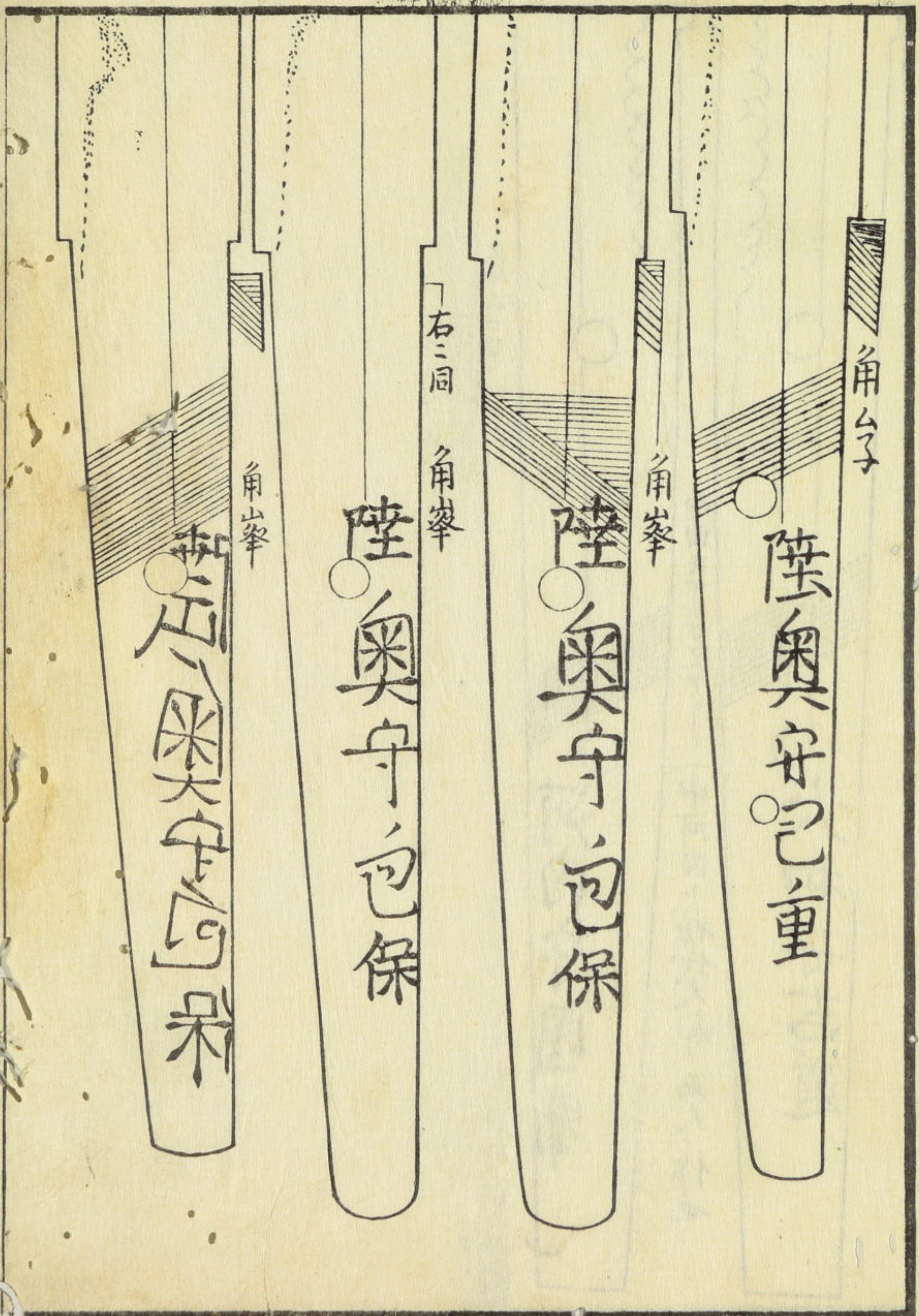
新奥守の柁

切定ワマリテ及ノナキガ如ク直及テテ焼有

新奥守の柁

切定ワマリ

荒沸ハ少ク白ハ涼一付肌也

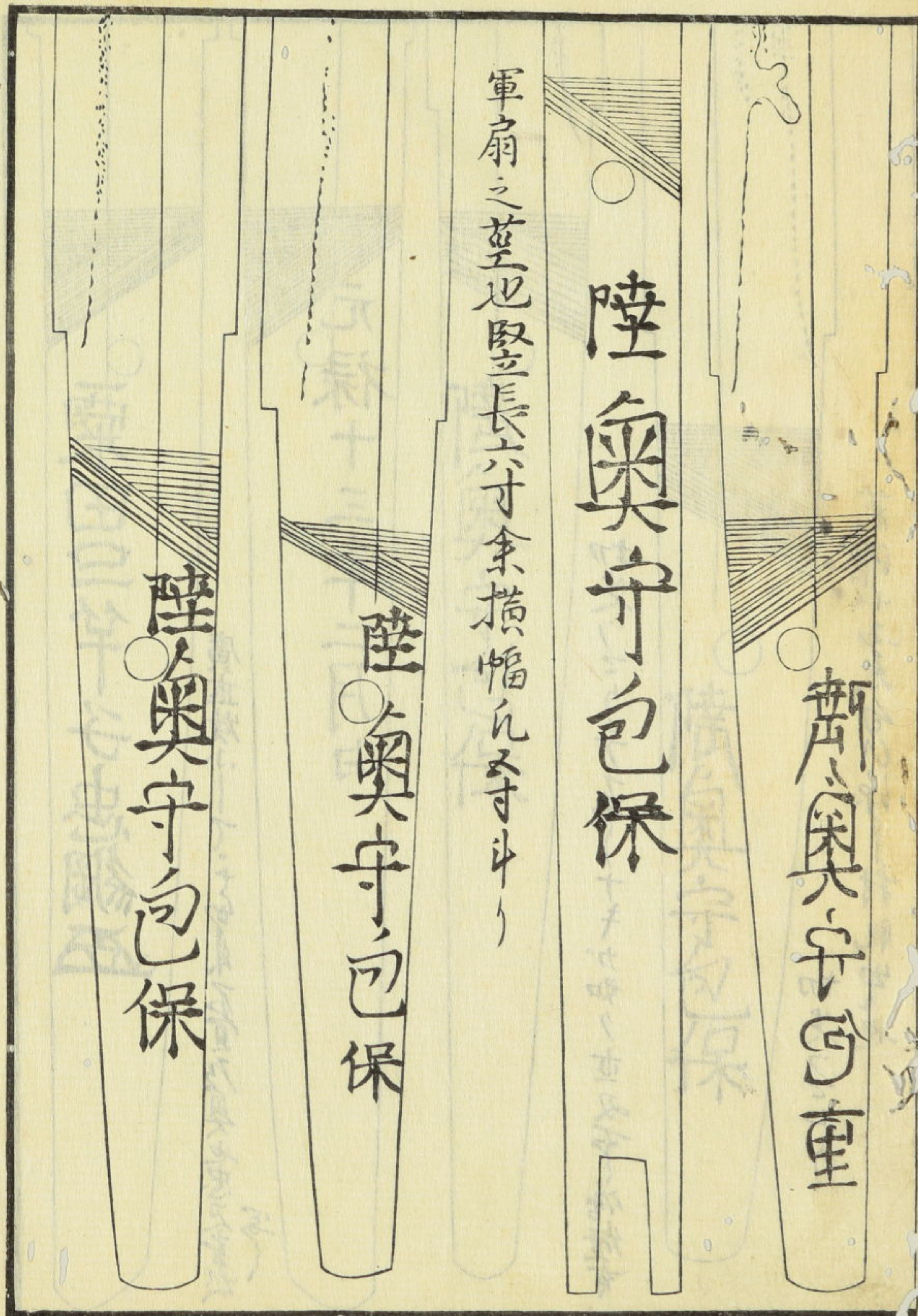


陸奧守包保

陸奧守包保

陸奧守包重

陸奧守包保



軍扇之莖也 長六寸余 橫幅九寸半

陸奧守包保

陸奧守包保

陸奧守包保

陸奧守包重

角ムナ

河内守國助

两面氏丁子乱ナリ 中河内ト初代大和ノ兩人ノ作也

大和守吉道

カ波守士道

高カ波守吉道

ウラフ 延寶三年二月吉日

カ波守吉道

ウラフ 元禄二年二月日

カ波守吉道

○ 舟波守吉道

○ 舟波守吉道

○ 舟波守吉道

○ 舟波守吉道

○ 舟波守吉道

○ 大和守吉道

ウラフニ ○ 萬治己亥二年八月吉日

○ 大和守吉道

○ 萬治三年八月吉日

○ 大和守吉道

延寶二年二月吉日

可持己姓名

忠長サ九寸也丁子ミタレ長ニ尺八寸ニシテ

大和守吉道

大和守吉道

大和守吉道

大和守吉道

ウラニ 為友人作之

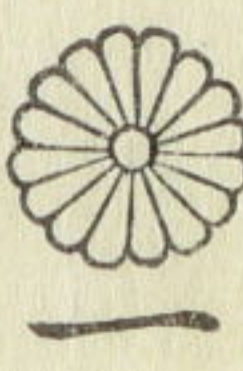
角峯

卍後守直道

藤原魚道之象ノ下ニ拾椽列城下以南密織造之ト切ニ有

卍後守魚道

ウラ



卍後守魚道

角峯

ウラ 万治三年二月吉日

卍後守魚道

小肉アリ

河内守藤原國助

丁子乱後くまのり

は三人國廣うず子故おれ小造うらむ

寛永十九年二月吉日

和泉守藤原國貞

角峯

河内守國助

小林中河内上へ出来

又長壹尺八寸壹分丁子ミタレ重花入孔テカケナリ

寛文三年八月吉日

角峯

河内守國助

河内大和友人ノ作を初代大和守中河内ノ兩人也丁子又ナリ

大和守吉道

角ム子ヤスリ如斯又長二尺三寸八分丁子乱大アヒニテツヨシ

河内守國助

角峯ヤスリ右ニ同 又長二尺五分横手ハ大丁子クワリ

河内守國助

河内守國助

小林河内守國助

延寶三年二月吉日

河内守國助

小林武藏守國次

肥後守國康

小林隼之進國輝

小林伊勢守國輝

寛文十一年霜月

スリと残ニ尺ニ寸一分
大龜文也

角峯

又長二尺三寸二分丁子礼白フカシ

角峯

丁子礼大ブサナリ

二人氏角峯

ウラ ○以南蠻鐵作

のしれ又也

國英ト切タルモアリ

小林伊勢守國輝

ウラ 寛文十三年八月日

○小林伊勢守國輝

「ウラ」 寛文十三年八月日

伊勢守國輝

中直又白フカシ 上リ龍下リ龍ノ彫西面ニ百リ龍ノ上ハ西面添樋也

元禄十二年八月日

長サ二尺三寸七分

魚舩所持之

龍配 ○ 伊勢守國輝

又長二尺四寸二分細直ヤキ

寛永四丁亥年仲春吉日

○小林伊勢守國輝

忠長クニテ不全又長二尺二寸六分

荒沸大ミタ也

「寛永」 四年八月日

小林伊勢守國輝

「鎗長九寸三分兩鎗ニテ廣直又忠ノ長一尺二寸五分

角峯

肥後守國康

九峯ニシテ高カラス

又長二尺三寸六分重花乱

栗田口近江守忠綱 殿同作

又長二尺三寸八分余表棧俱利伽羅ツラツレ楯大乱丸ノ如シ
小沸多ク白フカク地金ツニリテツヨキ也

元禄十三年二月日

小肉有 又長一尺七寸六分中礼スナカニアリ

越後守包貞

肉アリ大龜文列大掬級小て丸ク也二尺三寸七分

越後守包貞

ウラフ 小肉 延寶七祀八月吉日

越後守包貞

ウラフ 天和二年二月吉日

越後守包貞

角峯二尺五寸二分

初代ナリ

角子

越後守包貞

初代ナリ

小肉アリ大札又

越後守包貞

又長二尺二寸五分大ニシテ

又子ノ支作ニハアラス受領ト俗ノ名トナルヘシ

坂倉言進源照包作之

小肉大ノタレニアシクバリテ足ヲナリ

坂倉言進照包

又長二尺二寸七分大のしれおちあし立て白ひ添へ
地令別てうらひ足り也

小肉

坂倉言進照包

大札白添くしえ多し又長二尺九寸

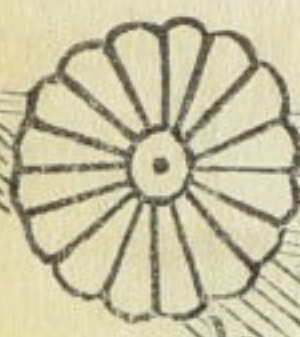
坂倉言進照包

又長二尺二寸一分大糸又小アシノ方也

天和二年二月日

小肉

越前守源信吉



又長二尺八寸二分大糸又

○豐後守藤原國義

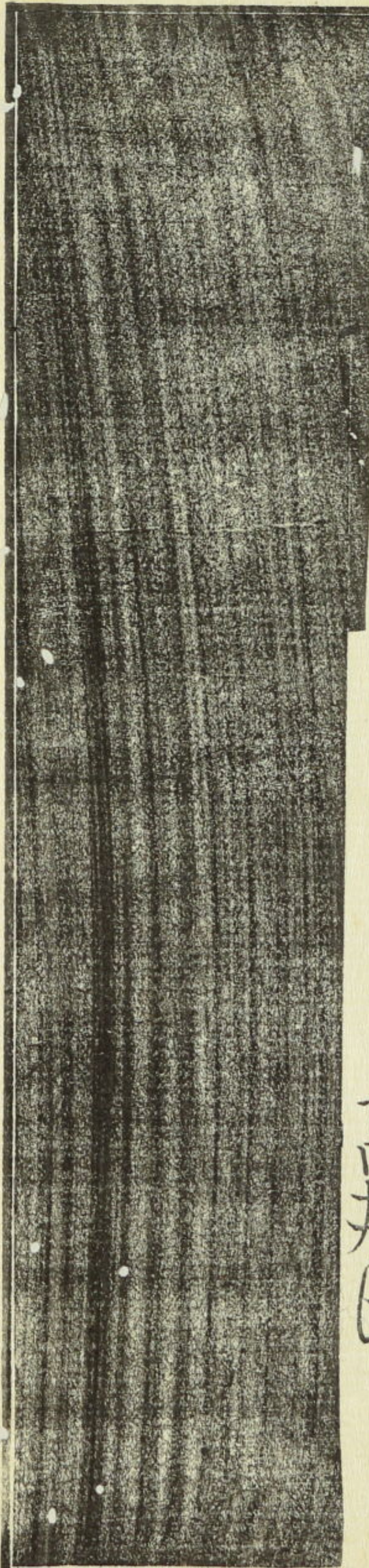
小肉

支作也大礼砂流

○高井越前守源信吉

○越前守源未信吉

高井氏



○河内守源康永

角峯

角峯小礼白涼く乃也

○多々良氏長幸

丸ム子

○弦乃子廣吉

角小肉のんあり

○撰列住園光

園光ハ中河内門人十八ニ能似タリ天満水田ノ園光トハ別人也若シ園康別名

角峯キリヤスリ又長壹尺八寸也細直又

猪浅新の女子度高

廣高廣重ハ又子ナルニ

挂列の氏敬宗同位の作こ
尺下より少しえ白ひ色く上へ是

曰古狐丸廣重

角女子女ニ肉有

忠ノ先ノ山形モ女ニ肉アリ

○長曾孫興里入道布徹

タカ子サラくトハシリテ及事也

忠先ニテシノキヨクタツ

○長曾孫興里入道布徹

ウラ

寛文九年二月吉日

○長曾孫興里入道布徹

タカ子ノハシリナキハ偽作ナリ口傳

○長曾孫興里入道布徹

長曾孫興正

ム子カニ因言リ、タガ子ノハシリ興里ノ如ク是奉ナラス

忠政
先板
出タルトハ
大ニ勢ノニ故家ニ公ス

越後幕下士大材加ト作之

ウラ 真十五枚用伏作

大和弁安定

ウラ 万治三年二月ホ

綴糸度

ム子アスリセサセ

ウラ

長曾孫興正

細直又

角ム子キリマスリ

ム子角

長曾孫興正

ノ名

角ム子 中直又

長曾孫興正

角峯ニテ櫓

又長壹尺六寸九分

ウラ 左ヤスリ

綴糸度

又長サ壹尺八寸八分地金細ニテ小沸一而ニ有肌アラハニナシ

地又ノハカレミハケカタレ

忠ノサキ一両カヨリ
スリテヤケンノ又
ノ如クスハナリ

角ム子キリヤスリ

長曾祢虎徹入道興里

ウラ試ノゾウガニアリ小乱及長二尺三寸二分

止二

於江戸丸ム子 源義助南蛮鉄

作丸ム子 渡守國富丸ム子 喜作

ウラ毎雪。延宝二
或云越前人也ト云ヒ
アルヒ

松祿丸ム子 作
ウラ。正徳元辛卯年

五子三狐丸ム子 爰惠母
○継子云此おれか萬人重也

近江丸ム子 守藤原丸ム子 継平

○宇多國宗作

東邦 ○ 正印も藤原純平

丸峯 「ウラ○安永二巳○吉日

後用 ○ 正印も藤原純平

安永四未○
ハ月日 ○ 加黄金福之吉田年太好之

角ムナ

藤原國二

於東畷山麓藤原國吉

山城守藤原國重

百國公道仕年ノ銘也

山城守藤原國重

鎗ハ別テ上牛也

山城守藤原百國公道一虎

老後如此切也

角峯

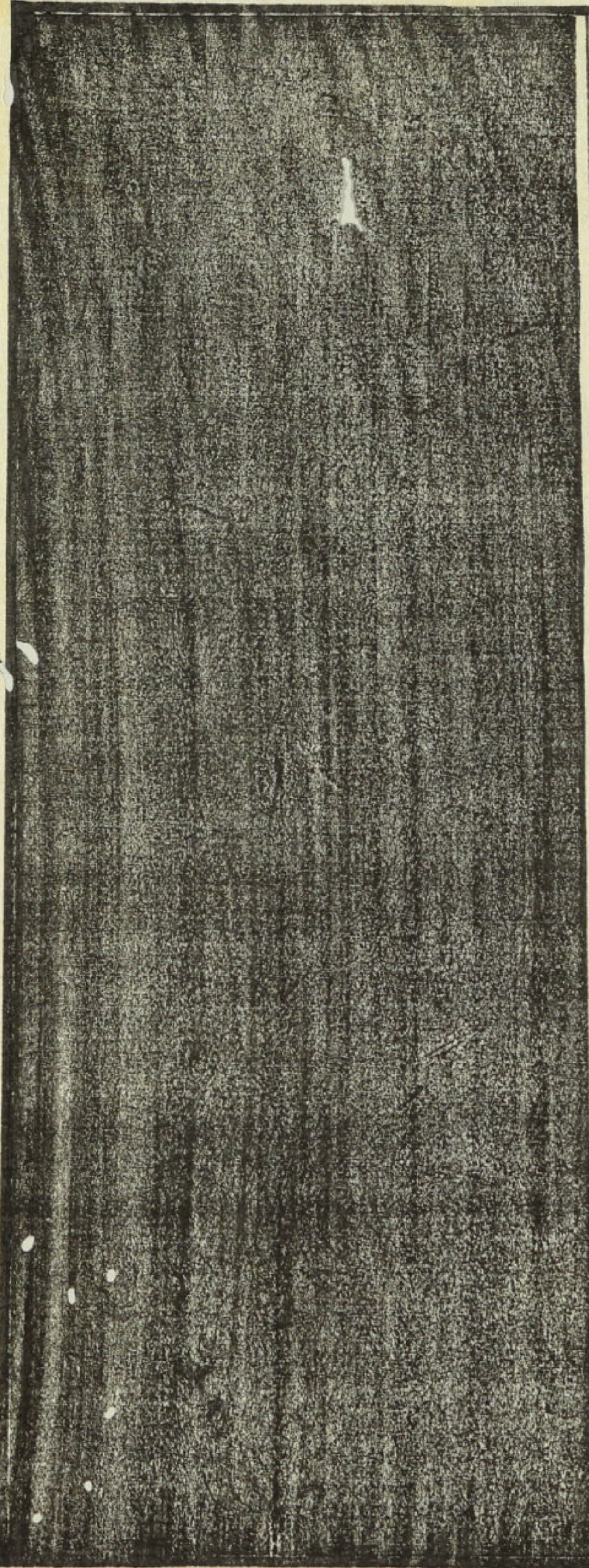
武田保名

角峯

明和中ノ作、如此切ナリ

以完栗剛鐵保則煉鍛

安永六年ヨリ如此切也



小肉アリ 又長ニ尺五寸 柢目肌アリテ及ミナリ

奥州國分若林住山城大塚藤原國色

角ム子

奥州加仙真住安倫

又方少肉有リ

角峯

奥州住魚定

奥州住魚定

羽州米澤住源政光

羽州米澤住魚弘作

○信州住長治造

○源次布圍包

東奥磐城住貞平

丸公子

鈴木貞則之門人於一上平
又長一尺八寸五分

表銘 無二す三

前伯列山月信高入道

○尾列住藤原貞放

ウラ○以諸又鐵作之

○尾陽住来国治

○濃州住有知之住兼辰作

ウラ慶長拾叁年八月十五日

近江守藤原清宣

寛永三年二月日

兼光五代目兼直作

備中守藤原清宣

ウフ於美濃関作之

賀久洲金澤任藤原兼若

ウフ享保貳拾年二月吉日

於南加紀陽文珠重國造之

紀州住天狗作

近江守源長寛作

与洲大湍住廣宣

凡峯 又長二尺四寸五分也

角峯小肉中並也

ウフ。鈴木三郎五郎是所持者也

小肉

角ム子キリヤスリ

ム子切ヤスリ小肉アリ

ウケーく尺也

於南紀重國造之

大和太掾藤原氏繁

「ウラ 享保十九年八月日

播列子柄山麓藤原氏繁精鍛作

○ 匿陽國衙壯金重

東多門兵衛心盛

○ 備中國木田住国三里

「ウラ 大らるゝ作

○ 水田住大又太郎橋國重

○ 尾道五乃絲感行

慶長比ヨリ古ク見ユル

小肉
藝刀住
別房作

細直及長二尺三寸二分

小肉
肥後守藤原輝廣

廣六直及五尺八寸入アリ
又、ナル作也

藝刀住
經慶

日幡國住藤原兼光

角么子小肉

長州住
井刑部兼素口三王方清作

花やうるら丸みふて白ひむて赤く小沸多し忠及る也

寛文十年八月良辰

肥前國忠吉

角峯小肉

初代

全

肥前國忠吉

全

肥前國忠吉

肥前國住藤原忠廣

表方 寛永十四年八月吉日

シモテ 寛永八年二月吉日

肥前國住武藏大塚藤原忠廣

肥前國住藤原忠廣

寛永十年八月吉日

武藏大塚藤原忠廣

肥前國陸奥守忠吉

肥前國住陸奥守忠吉

前國住人忠吉作

肥前國近江守忠吉

近江守忠吉

肥前國忠廣

右表他に云々勝めあ中の人の心へり上りも也先祖三代目陸奥守かこいせりふりあはる也

肥前住播磨大掾藤原忠國

播磨大掾藤原忠國

ウラニ保三〇年二月吉日

出羽守行廣

以阿蘭陀銀作

肥前前刀切於唐津高田河内守源行平

ウラニ紀新大夫宗

鬼神大夫河内守源行平作

ウラニ南蠻以鐵銀

土肥真了

四代目欽

豊後國鬼鏡直行作之

ウラニ以南蠻鐵銀之

土肥真了

ウラニ元禄十一年三月廿二日
初代老後の銘也

角

遠江守藤原兼廣

以南蠻鉄真鍛作之

友作伎前乱白涼

ウラ銘ノ方

同住越中掾藤原吉住

肥前國近江大掾藤原忠吉

角ム子六代目十九

小肉

壹後太郎式行 七十余歳

九峯

薩列住藤原正清

九ム子

又長二尺五寸五分廣直クワ

薩列住宮原清兵衛

三十八

スリヒナリ及シ

藤原正清

九峯



主水正二清

又長一尺八寸小エ多ク

九峯



主水正二清

又長二尺五寸八分

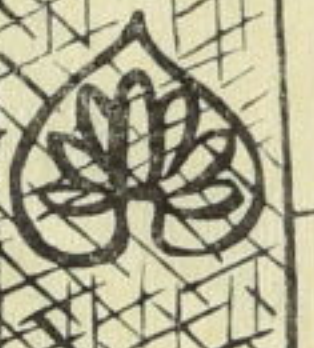
沸多ク白涼



主馬首前原朝臣一平安代

又長一尺九寸六分
九峯

ウラニ 享保拾三年二月日



主馬首一平安代

太刀銘斤平作

○奥和泉守谷山波平忠重作

ウラニ 薩州住 太刀銘

○奥和泉守忠重作

○奥和泉守忠重作



主馬首一平安代

ウラ 享保十乙巳年於薩州給黎郡作

角ム子

○主水正三清

ム子スリセシ如クハ小シ肉マスリアラシ

○奥和泉守忠重作

又長一尺九寸三分直又白漆多

○薩州住人

薩列住藤原三房

小肉アリム子ノマシリ小筋透荒沸小沸ヨク揃イテ白フカシ

丸小肉

波平安明

小肉有

波平安常

二形丸小肉直ホワレ大サハヤカニ出ルタリ

波平安和守平安国

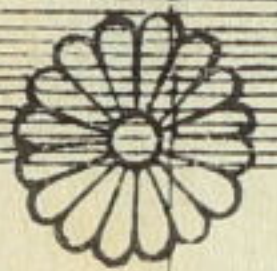
丸ム子ニナカイ

薩列住三良

薩列住三良

ウラ明和七庚寅八月

伊勢守藤原清方



地金強ク出来カクシ

ウラニ薩列住

表方安永二年八月日

太刀銘

薩列住平元平作

小肉有

薩陽士元平

又方角 荒沸白凍

安永五二月日

小内アリ

技平安廣

薩列住三良

和泉守盛經

「ウラ 元禄十三年八月吉日

一竹子忠細ニヨク似タリ門人々ル歟

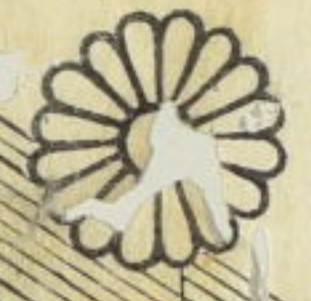
山本平馬尉助政

鈴木大和守トワ別人歟

大黒信重作

藤原信國ノ家歟

山城守源国道



○藤原貞利

角公子

○忠道作

○井上良忠

角公子大坂丹後守之二代目如地七切之カ

○稻荷丸魚道

源
○矢野將監忠宗造之

九峯

○永重

角峯元禄頃ノ人十九ニ

○山本武藏守源勝吉

虫又

印

...

三十四

...



16

啓文十

